

日常生活

70歳代前半

(2017～2021年前半)

2017年5月に制作した「日常生活2010～2016年」「続日常生活 食・住・エコロジー・老・近隣」の続編だ。

2017～2021年前半の、この時期の後半は、猫の話題がすごく多い。新型コロナ流行で、いろいろなスケジュールがキャンセルされるなかで、私の日常生活を猫たちが「充填」してくれたという印象だ。

また、気管支喘息の発見と改善で、全体として、体力は維持しているが、年齢相応に加齢を重ねている。それでも、南城市の仕事（市史執筆、こどものまち宣言）、学童支援員研修など、なにかとあって、それなりに充実した日々だった。

作成しながら、70歳年代前半を振り返り、迎える70歳代後半の楽しみを待つ日々となった。

2021年8月

目次

2021年 「猫とコロナ禍」がさらに続く

7

- 2021年07月04日 ブログアクセス数連日200～300と激増の不思議
- 2021年06月01日 コロナで想定外のいろいろなことが起きる オオゴマダラ
- 2021年05月07日 猫との散歩
- 2021年05月02日 後期高齢者への到着が近づく
- 2021年04月04日 事件ごとに密着度が深まる猫と私たち
- 2021年03月27日 読書生活と一万冊の書籍の処理に困る
- 2021年03月10日 年度替わりの私 コロナ禍での仕事減は変わるか
- 2021年03月06日 四人の密着度ますます高まる 猫の看病日誌3
- 2021年03月02日 このごろの私 本の買い出しに那覇への久しぶりのお出かけ、など
- 2021年02月22日 すぐ終わってしまった確定申告 年度替わりへ 新年度の仕事
- 2021年02月18日 ハブに噛まれた虹(めす猫)の看病日誌2 四人でくっつき合う
- 2021年02月10日 ハブに噛まれた虹(めす猫)の看病日誌1
- 2021年02月06日 コミュニケーション豊かで、くっつき虫になった猫
- 2021年01月25日 「大きな物語」を描く書籍を立て続けに読む
- 2021年01月21日 ムーチー 池のグッピーのほとんどが寒さにやられる テレビ故障 酒をほとんど飲まない
- 2021年01月01日 年末年始の日々 寒さ 原稿校正 庭畑仕事

2020年 猫とコロナ禍

22

- 2020年12月28日 年越し通信「老を誇る」
- 2020年12月14日 我が家改装工事完了とハーブティーユンタクのお誘い
- 2020年12月04日 法事で岐阜旅。久しぶりに孫たちにも会う
- 2020年11月21日 ボトムから脱け出して、いろいろと 工事も最終盤へ
- 2020年11月06日 私がスマホをもっていないとは思わない方々 スマホなしで、シンプルにいろいろ
- 2020年10月25日 季節替わり ブログアクセス数 こどものまち
- 2020年10月20日 とれすぎ野菜の近所配り
- 2020年10月05日 我が家の諸工事開始 下水管工事など
- 2020年09月19日 猫の我が家生活満一年
- 2020年09月09日 満16年の玉城中山生活 いくつかの変化
- 2020年08月30日 新型ウイルス流行下での都市生活の見直し
- 2020年08月20日 マスク(コロナ PM2.5 火山灰) 散水 階段昇降運動
- 2020年08月15日 ブログのアクセス数の不思議な増加 私の「自粛」生活
- 2020年08月05日 「自粛」再開 樹木に登って下りられない「虹」(猫)
- 2020年07月31日 くっつき虫になった猫たち 猫との会話
- 2020年07月06日 昆虫採集にハマる猫たち

- 2020年06月27日 家の手入れスタート
- 2020年06月11日 我が猫、ネズミを捕える
- 2020年05月30日 「自粛」生活に区切りが付き始める 卓球など
- 2020年05月11日 ゲームと料理の若者の「自粛」生活 アラスジケマンガイ モズク
- 2020年05月07日 自粛生活の中で、私の生活リズムが大きく変化 早寝早起きの研究生活
- 2020年05月03日 丹野清彦・千草さんが、近所に引っ越してくる
- 2020年04月29日 新型コロナ対処の大変な事態のなかで、「旧に復」しようとするのか、
「旧」を変えようとするのか 都市の自然化
- 2020年04月25日 コロナウィルスのなかで、自然との関係・都市スタイルの問題を考える
- 2020年04月21日 対人関係の遮断 新型コロナウィルスをめぐっての動きで感じること
- 2020年03月13日 つながりがますます濃密になる4人家族（私たちプラス猫二匹）
- 2020年03月07日 日程中止ばかりがつくりだす空白 家事分担の変化
- 2020年02月24日 2020年度の仕事 これからの予定
- 2020年02月13日 このごろ
- 2020年01月29日 初美容室 膝痛対処体操 猫との密着度上昇とコミュニケーション
- 2020年01月07日 突然のおもいつき 物語・小説を書く

2019年 日々の暮らしの中に猫登場

49

- 2019年12月30日 恒例の「年越し」のお便り 猫、南城市史、こどものまち、卓球・喘息、学童クラブなどなど
- 2019年12月21日 長男裕樹の命日と誕生日 43年 46歳
- 2019年12月18日 行方不明事件 トイレ場所の開発 トントントン 虹雨物語9
- 2019年12月14日 鍼を埋める初体験 大失敗「石鹸を食べる」 南城市史民俗編第一次原稿できる
- 2019年12月10日 PM2.5が苦にならない 自動車のパンク ウンサク（神酒）
- 2019年11月30日 信頼・安心・「ずっと消える」 虹雨物語8
- 2019年11月10日 排泄上手 大仲良し 虹雨物語7
- 2019年11月01日 大きな事が続く中で、「このごろの私」
- 2019年10月29日 コミュニケーションとスキンシップ 虹雨物語6
- 2019年10月22日 大運動会 じゃれあい 遊びつくり名人たち 虹雨物語5
- 2019年10月15日 日課 虹雨物語4
- 2019年10月10日 虹=めす、雨=おす 動物病院で判明 誕生日決まる 虹雨物語3
- 2019年10月05日 初めての猫と人間との共同生活 虹雨物語2
- 2019年09月29日 虹・雨と私たちとの出会い 虹雨物語1
- 2019年09月27日 家の手入れ オオジョロウグモ
- 2019年09月12日 恵美子が、『宮古新報』に載る
- 2019年08月24日 下水管に木の根が侵入 森の中に住む難しさ
- 2019年08月18日 書庫整理 新規購入を減らして、再読・未読本を読む
- 2019年08月13日 息子家族の滞在
- 2019年07月22日 変わり時のこのごろ1 スケジュール・地域行事・私の身体

- 2019年05月25日 ギンバイカ(マートル) ハーブと気づく 「古層の村」「観光亡国論」を読む
- 2019年05月07日 グスクロード散策 40年ぶりの沖縄県教育センターでの講演・ワークショップ
- 2019年05月03日 書齋生活の「10連休」
- 2019年03月26日 このごろ 卓球試合 カラオケ 旧友来宅 サンセベリアとオリズルラン
- 2019年03月19日 新年度予定と準備 脂肪摂りすぎて下痢
- 2019年03月15日 このごろの私 「おじい」と見られて親切にされ嬉しい時
- 2019年03月01日 私のこのごろ 看護大学での非常勤講師懇談会 確定申告で初の電子申告 テニポン初体験
- 2019年02月26日 県民の意思が巨大な塊になって表明 来客続きと「メイドイン100%我が家」のコーヒー
- 2019年02月15日 ほぼ毎日のお出かけ
- 2019年01月29日 次回学童支援員学習会は2月4日 会議 卓球試合 野良猫 余談話ばかり
- 2019年01月08日 にぎわった年末年始、そして喘息で苦しむ私
- 2019年01月04日 コーヒーの新苗 できあがったベンチ 8日に学童学習会
- 2019年01月01日 子ども・孫たちの来宅 年末年始通信

2018年 雑然? 多様? 日々の暮らし

79

- 2018年12月28日 カニステル収穫 ブログを編集してHPに掲載したファイルの製本
- 2018年12月25日 スケジュールがとても少ない日々 NAN-Jクラブ このごろ火曜
- 2018年12月18日 ブログ模様替え
- 2018年12月16日 南城市「冬の豊年美味」 100Kマラソン タコ取り
- 2018年12月14日 マリンバは素敵 夢に息子と啄木が出てくる
- 2018年12月03日 ウリズン豆の大量収穫 グッピー池の水位低下 Wikipedeaに登場 このごろの私
- 2018年11月17日 本・雑誌の贈呈 人間ドック 卓球試合と高齢者 このごろの私
- 2018年11月12日 コーヒーの収穫 フウリンブッソウゲが開花 奥武島うみんちゅ祭 このごろの話題
- 2018年11月04日 アクセス20万を超えそう ブログ改装へ このごろの私
- 2018年10月28日 息子家族からの誕生日カード
- 2018年10月15日 秋冬に移るこのごろ
- 2018年09月25日 このごろの私 知事選挙 読書生活の変化 変な夢をみる
- 2018年09月13日 このごろの私 パスポート更新 卓球試合 選挙 みみもとくん 眼科
- 2018年07月25日 このごろの私 台風 休養 食事つくりと家庭菜園の野菜
- 2018年07月11日 台風8号 ボトルインク式プリンター
- 2018年07月10日 このごろの私 テレビ ガジュマル伐採 卓球試合
- 2018年06月20日 学童研修 卓球試合 このごろの私
- 2018年05月29日 中山豊年祭 南城市卓球試合 オオゴマダラ幼虫 このごろの私
- 2018年05月06日 私たちのゴールデンウィーク お出かけ・ユンタク
- 2018年04月19日 排水管つまり解消 単行本校正 ウチナーグチ学習 来客 ピタンガ このごろの私
- 2018年04月02日 『マグマ』?がたまりつつある私 花々の季節
- 2018年03月27日 2018年度の仕事予定 ポートフォリオ・ワーカーらしい
- 2018年03月25日 読書生活 このごろの私

- 2018年03月12日 ドキドキハラハラ、ワクワク ネズミ データ消える 観光計画答申 など
 2018年03月07日 珍しく忙しいこのごろの私 会議 学童研修 卓球
 2018年02月24日 コンピューター交換
 2018年02月06日 野鳥が野菜の新芽を食い尽くす 中山交流会
 2018年01月29日 乱読の読書生活
 2018年01月20日 PM2.5が減った?! 体調よし このごろの私
 2018年01月17日 趣味探し 写真撮影 エッセイ書き このごろの私

2017年 70歳代に入った暮らし

106

- 2017年12月31日 私の年末年始通信 老=熟、充実、楽の日々
 2017年12月21日 次のステージに向けて、気を抜くこのごろ
 2017年12月04日 このごろの私 「私の沖縄論」の原稿は完成したが、今後何をするか
 2017年11月24日 オープンガーデン當山全章さん宅 PM2.5 大雨とオオゴマダラ幼虫 柿届く
 2017年11月21日 このごろの私 季節替わり 体力 南城市観光コア施設計画
 2017年10月24日 私の読書傾向の変化
 2017年10月06日 このごろの私 季節変わり 学童クラブ 同友会研究会 南城市観光施設委員会
 2017年09月26日 『健康』『元気』『創造的』な学童クラブ指導員に圧倒される 執筆・読書など このごろの私
 2017年09月20日 台風後 秋の庭畑作業スタート コーヒーの本格収穫 クーラー設置工事 古本売却
 2017年09月16日 台風 秋野菜 クーラー取り換え 古本売却 このごろの私
 2017年09月04日 夢で長男とハグ zitternix クーラー 歯 このごろの私
 2017年08月24日 このごろの私 高温雨無し 歯 学童クラブ指導員研修 卓球 単行本執筆
 2017年08月12日 会議など ネズミ侵入と確保 町づくりの柱としての福祉 このごろの私
 2017年07月10日 果実 花 体重増加 このごろの私
 2017年07月09日 追悼 根間武雄(義兄) 多くの事があった一週間
 2017年06月29日 このごろの私 南城市史調査 単行本「沖縄的」執筆 暑さとイノー散策
 2017年06月02日 このごろの私の研究生生活
 2017年05月29日 サガリバナ開花 スーツケースの鍵物語 亜門邸の思い出 卓球試合 このごろの私
 2017年05月07日 私達のゴールデンウイーク
 2017年04月22日 70～80代の卓球 私流の会議司会 我が庭畑の開花予想
 2017年04月02日 年相応に減る新年度の仕事
 2017年03月28日 ユンタクお茶会 ビワの実の鳥との取り合い 活字化された執筆物
 2017年03月26日 オープンガーデン 結婚式 沖展 会議ラッシュ このごろの私
 2017年03月11日 手作り表札(案内板) カラスによる鳥事情の大変化 腰痛体操 このごろの私
 2017年02月23日 ハンダマのゆで汁で炊いたご飯 ピンク(紫)が美しい
 2017年02月15日 知のインプットとアウトプット 健康寿命 愉快的な70歳の日々6 最終回
 2017年02月04日 流動食予行演習 体力回復・強化から体力維持・低下への対応へ 愉快的な70歳の日々5
 2017年01月27日 30年着続けている冬服の老前整理 スロー運転 愉快的な70歳の日々4
 2017年01月24日 洗濯・入浴用海水汲み カニステル収穫

- 2017年01月14日 体力低下への対応 器具活用修理は人に頼む 愉快的な70歳の日々3
- 2017年01月11日 「観葉植物園」?つくり ウチナーグチが2～3割聞ける? このごろの私
- 2017年01月06日 「ハンカチ・はなかみ」をズボンにいられたまま洗濯 「若く見える」がよいかどうか
愉快的な70歳の日々2
- 2017年01月02日 空気清浄器 犬猫を飼うことを迷う 年末年始の私
- 2016年12月29日 忘れ事 「おじいちゃん」とよばれても自分の事と気づかない 愉快的な70歳の日々1

2021年前半

「猫とコロナ禍」がさらに続く

2021年07月04日

ブログアクセス数連日200～300と激増の不思議

昨年まで一日あたり100足らずが普通だったブログアクセス数が、今年に入ってから激増している。100を超えるどころか、このところ200を超えるのが普通で、300を超える日も多い。写真は3日午後撮影したブログアクセス数を示す管理画面の一部。

記事内容は、いつもと変わらず、ブログにしては、とっても硬いにもかかわらず。原因として思い当たるのは、新型コロナ禍でヤグムイ（またはヤグマイ、家籠り）が増え、インターネットを見るが増えたためだろうか。私にとっては、ブログを書くことへの励みになる。

といっても、私は書きたいことを書き、読者は読みたいものを読むということで、一方向的なのだが。でも、「いいね」の数とか管理画面に出てくるアクセス数データで、どんな記事が読まれているかがわかる。

参考までに、6月にそれらが多かったものを並べておこう。数値は「いいね」の数。（ ）内は、アクセス数データ。

日付	PV	訪問
2021/07/03 (土)	139	138
2021/07/02 (金)	281	262
2021/07/01 (木)	326	296
2021/06/30 (水)	214	213
2021/06/29 (火)	224	210
2021/06/28 (月)	288	278

沖縄県立看護大学15年間の授業の終了 49 (55)
 地面に描かれた近所の子どもたちのメッセージ 25
 (42)
 「教える」という言葉は昔から使われていたわけではない
 「習う」と「教える」連載2 7 (29)
 ステレオタイプなとらえ方 南城集落論への旅 a2 4
 (29)
 コロナで想定外のいろいろなことが起きる オオゴマダラ
 5 (27)

こうして並べてみると、いろいろと拡散している。私の記事そのものが拡散しているからだろう。

2021年06月01日

コロナで想定外のいろいろなことが起きる オオゴマダラ

コロナにかかわって、私の周辺に起きたいろいろなこと

1) 看護大学の授業では、「仮想コロナ対処会議」を受講生全員で作りに上げている最中。第一回目は、医師・看護師・救急職員・役所担当者・一般市民・諸業者などと役割を決めて、事態について意見交換をする。2回目は、事態への対処をめぐっての会議の「予定」だった。

だが、急遽、コロナ対処で学生を登校させないことになって、予定の授業が延期（いつになるかは未定）になり、仮想会議も延期となる。興味深い進行になるはずで、このブログでも報告するつもりだったが、延期せざるを得ない。

2) 私個人のコロナワクチンの2回目が終わる。意外にも、かなり早く接種を受けたことになる。副反応はない。

3) 卓球の試合は、緊急事態宣言で中止となる。



何が起こるかは予測不能だ。

コロナと関係ないが、落花生を食べている時に、前歯が一本欠けた。すぐに「修繕」へ。8020に黄信号がとまり始めた。

我が庭畑のホウライカガミあたりは、オオゴマダラをはじめ数種類の蝶10羽余りが、いつも飛び交う季節だ。

2021年05月07日

猫との散歩

犬との散歩のように、猫ともできないか、と挑戦してみたが、うまくいかなかった。ところが、この頃、猫の方が、私の散歩を追いかけてくるようになった。私が玄関を出て50メートルぐらい行くと、どこからともなく現れてついてくる。一匹の時もあれば二匹の時もある。二匹のときは、いざという時の対応ができないので、200メートル先にある交通量の多い道路前でストップして引き返す。一匹の時は、抱っこして、その道路を越す。その先の農道に来ると、猫の動きは慎重になる。匂いを嗅いで確認行動を繰り返す。経験が少ないからだし、道路までは、「縄張り」を確保しているからだろう。



先日、農道を海岸道路近くまで行った折、数台の自転車に乗った人たちの大声の会話が聞こえて、我

が猫は固まってしまい、引き返す。

こんな散歩で、自動車の隣人家族連れとすれ違う。「猫の散歩ですか」と珍しがられる。

猫たちは、いろいろな事件に出会っているので、散歩中も、私から離れる距離は10メートル以内だ。だからつなぎひもなしでの散歩だ。

ところで、我が家周辺から野良猫を含め、猫を見かけることがなくなった。半年前までは、何匹か通りかかり、我が猫との「にらみあい」や「追いかけてこ」がしばしばあった。ついに、我が猫たちの縄張りが確立したのだろうか。

2021年05月02日

後期高齢者への到着が近づく

このごろの小さな話題いくつか。

拙著「沖縄田舎暮らし」（アクアコーラル企画2007年）を読んだ方からメッセージをいただいた。沖縄が好きで、沖縄生活も検討しておられるとのこと。発刊後14年もたったが、愛読してくださる方がおられて嬉しい限りだ。

近くの旧玉城公民館建物を改装して、玉城食堂が開店した。アジアとヨーロッパ系の品のある食事メニューだ。近くにお住いの若い知人たちが奮闘して始めた。近くに少しずつだが、こうしたお店ができることはありがたい嬉しいことだ。

この10月に、私も後期高齢者扱いになる。新型コロナのワクチン接種の案内が来る。今年度中に75歳になる人以上が対象ということだ。健康保険も変わる。そのため、国保税徴収方法も変わる。行政上、いろいろと扱いが変わることで、「後期高齢者になるんだ」と自覚させられる。卓球仲間から、「後期なんですか?!」といわれて、「ハッ」とする。「後期高齢者」は、外からやってくる。

ワクチン接種の予約をインターネットでする。心配な向きもあるが、受けることにする。冗談めくが、ワクチン予約をしている前後に、コンピュータに「ウイルス感染している」メッセージが表示される。詳しい人に調べてもらおうと、「ウイルス感染している、というメッセージを入れて、クリックさせ、本格的なウイルスを入れる」といった感じのものらしい。早速対処してもらおう。こうしたことに詳しい人がいると助かる。

ホームセンターで重量物を買ったが、それをカートから落として拾おうとしていたら、若い方が声をかけてくれて助けてくれる。後期高齢者の予行演習にふさわしい出会いだ。

2021年04月04日

事件ごとに密着度が深まる猫と私たち

猫たちはいろんな事件を体験した。

高い木に登ったけど、下りられなくなって、鳴いた。

ビニールハウスに閉じ込められて、34時間も戻れなくなった

ハブに噛まれた。

そして、ホットなことだが、2日夕方の事件。突然の大雨で外から戻れなくなり、びしょぬれになった。

事件体験が、猫たちの行動を随分変えた。

- ・抱っこすると、時々強くしがみつく。外傷後ストレス障害 PTSD そのものだろう。減ってきたが。
- ・遠出をしない。私たちの声の届く範囲内の行動。私たちが散歩や外出をするときも、玄関での見送りにとどめて、ついていこうとはしない。玄関や駐車場まわりでの、「玄関番」役をする。
- ・くっつき虫が激しくなる。私がコンピュータ仕事をしていると、邪魔をする。近くを歩くと、足にじゃれついたり、ゴロンとして、マッサージを要求したりする。庭畑作業をしていると、まわりをうろうろする。
- ・声を出して、挨拶？や要求を出すことが多い。朝のごあいさつで、私たちは目を覚ます。よくしゃべる。「嬉しい」「おはよう」「ドアをあけてちょうだい」「おなかがへったよ」「抱っこしてちょうだい」「マッサージしてちょうだい」これらの言葉？を聞き分けられるようになった。
- ・姉弟愛も深まる。片方がいないと、「どこにいったのか」と探す？
- ・昆虫採集は好きだが、収集量は減ってきた。捕まえたものを室内に持ち込んで遊ぶ。食べるわけではない。ばった、ヤールー、トカゲ、蝶、ネズミ……



1歳9か月の日々である。

2021年03月27日

読書生活と一万冊の書籍の処理に困る

このところの私の生活の中で仕事に相当するものは、一日にほぼ6時間か。もっとも収入は限りなくゼロに近いから、

多くの人の感覚では仕事にならないかもしれないが、6時間のうち半分近くが読書。ということで、3日に一冊ほどのペース。

本の半数は、新刊本。あとの半数は、書棚にある未読の本。新刊本には、寄贈されたものがある。最近でいうと、鈴木庸裕編『福島子どもたち』かもがわ出版2021年2月

斎木喜美子『沖縄児童文学の水脈』関西学院大学出版会2021年3月

南城市教育委員会文化課市史編さん係「南城市の沖縄戦 証言編一大里」南城市教育委員会2021年

はじめの2冊は、1980年代に琉球大学教育学部で学び、現在は専門分野で大活躍の大学教員のお二人によるもの。

現在、紙製の本からデジタルの本へと移っていく動きが激しい。それでも紙の本が頑張っている。私自身は、コンピュータで本を読むという習慣がないので、もっぱら紙の本だ。私が書いたものは、紙とデジタルの双方の形になっている。

それにしても、恵美子も私も、随分と本を持っている。大学を転勤し退職するごとに、寄贈を重ねてきたが、それでも、二人合わせて一万冊を超える本を持っている。50を超える本棚に収納してライブラリーにしているが、かなりの面積を占めている。子どもたちから、「死ぬまでに処理してくれ。本は相続できないから」と宣告されてしまった。

せつせと寄贈作業をすすめ、10年余りで2000～3000冊は処理したと思うが、まったくメドがたたない。我が家の訪問客には、プレゼントと称して、半強制的に何冊かの本をお持ち帰りしてもらっている。

先日、図書館関係で勤務する人にお会いする機会があり、寄贈の話をしたが、受け取るのはかなり難しいとのこと。難しさは、どこの図書館でもそうだ。大学図書館などでは、受け取る話を聞いたことがない。退職教員が残す本は廃棄処分をするのが通例になって、すでに20年を超す。

もし関心がおありの方がおられれば、ご一報ください。

分野は、教育・心理・保育・子ども若者・高齢者・社会科学・沖縄など。

2021年03月10日

年度替わりの私 コロナ禍での仕事減は変わるか

2020年度はもうすぐ終わり、2021年度に入る。2020年度は、新型コロナ禍のため大幅な仕事減だった。外出機会も減った。加えて体育館使用自粛もあり卓球なども大幅減少だ。以前にも増して自宅作業が増えたが、2021年度はどうなるだろうか。

南城市関連では、「こどものまち宣言」策定は、なんとか最終盤となり、月末には答申し、新年度からは具体的取り組みへと移行する。南城市史民俗編（集落）は、校正段階だ。これまた最終局面だ。これらは区切りがつくので、2021年度では、次の局面になり、私自身の具体的な仕事イメージはこれからの相談だ。振り返ると、南城市の仕事は10年余り途切れることなくやってきたが、今後はどうなるだろうか。

大学・専門学校授業では、沖リハは継続中。看護大学は20年度は休講にしたが、21年度は再開が決まり、4月から授業だ。20年度は、琉球大学にしても沖縄大学にしても、いずれの大学にも一度も訪問していない「奇跡」の年になったが、21年度はどうなるだろうか。

数年間継続してきた学童支援員研修も、20年度は休止となった。21年度は再開されるだろうか。毎年10回ほど沖縄各地に出かけて、支援員たちと楽しく創造してきたが、再開を期待したい。

卓球など練習は、再開し始め、試合も月末に1年近くぶりに出場する予定だ。

原稿書きは、ブログ以外では、20年度は市史執筆に加えて、2、3あったが、21年度はどうなるだろうか。今はブログ執筆の形で、いろいろと準備しているが、次の「大物」をどうするか考える時期が近付いている。

20年度は、数本の歯の修理、白内障手術、喘息治療（終了）などの内科通院と、いろいろと病院通いはあったが、すべて快調になった。今後はどうなるか。姿勢体操・喘息体操も、ある程度効果を取めているようだ。

全体としては「年相応」に元気でいい。

ということで、何か新たな仕事が飛び込んできても、対応できる態勢になっている。

新年度スタートを楽しみにできるようにしたい。



2021年03月06日

四人の密着度ますます高まる 猫の 看病日誌3

「虹」がハブに噛まれてから一か月近くたつ。回復は早い。かさぶたも取れ始めた。すると、傷口がよく見えるようになる。ひたいの上から、あごの下まで10cmほどの長い傷だ。横顔をとった写真は、

傷の中ほどの5cmほど。上の方は、かさぶたが取れているが、下の方はまだ付いている。何日もすると取れるだろう。

普段通りの生活に戻ったが、外出時間が激減したし、噛まれそうな危険な場所へは近づかない。私が網を張ったこともあるけど。痛い思いは、強い印象に残っているようだ。噛まれた「虹」だけでなく、「雨」も遠慮気味の外出だ。外出時間に反比例して、私たちへのくっつきが激増している。

虹は、私がすわっていると、膝や胸腹に飛び乗ってきて、べったりとくっつき、頭をこすりつけて、「お休み」モードになる。雨は、足元にきて、じゃれつき、噛みつき始める。マッサージ要求でもある。コンピュータ仕事をしていると、妨害作戦を取ることもある。

夜は、私たちの布団に来て、毛布の上で眠る。私たちは、寝返りに苦労する。二人とも、私たちを気遣ってか、両方の毛布の上で代わる代わる眠る。

くっつくので、かれらの感情表現・要求表現・コミュニケーションがよくわかるようになる。鳴くにも種類があるが、「にゃーお」の類と「クーウ」の類とがある。「ニャーオ」は、「近くにきたから、布団にいらしてください」「帰って来たよ」「たべものをちょうだい」など、「クーウ」は、「好きよ」「嬉しいな」などの類。「クーウ」は、私たちも言葉を返し

ているので、会話していることが多い。私たちが声をかけると「クーウ」と返事をするなど。

くっついてきたり、すり寄ったりする意思表示もある。それが高じると、じゃれつき、ひっかいてくる。要するにスキンシップだ。

ほかに、「見つめる」という意思表示もある。可愛い眼で見つけられると、私たちは、かれらの要求に従うことになってしまう。

虹の場合は、ポストトラウマ症候群が強いためか、こうした表現で、不安な自分の気持ちを静め、安心するということもある。5～10分抱っこされて、気持ちが落ち着くと、静かに去っていく。

こんな風に、感情表現・交流、要求表現、コミュニケーション交換をしていると、2歳児ぐらいの人間のように思えてしまう。表情筋が備わって、表情を出せるようになると、私たちは我慢できない状態になりそうだ。

今回で、看病日誌は閉じよう。

2021年03月02日

このごろの私 本の買い出しに那覇への久しぶりのお出かけ、など

1日、久しぶりにジュンク堂に本の買い出しに行く。4ヶ月ぶりで、以前の2ヶ月一回に比べると大幅減少だ。かつて買ったが読んでない本とか、再読したくなった本を読むことが増えたためだろう。

わけても老にかかわるものの再読が多い。20年余り前に買っておいた本の再読だ。その頃、感心しただろうから、赤ペンがたくさん入った本を読むが、ほぼ記憶にないほどの新鮮さを感じる。ようやく今になって考え付いたことを、当時すでに書かれていたことが多いのだ。代表的なのは、フリーダンの「老いの泉」だ。発刊当時、すでに話題になっており、その話題に触れた論文を読んでいたが、全く記憶していないのだ。まさに「時」「時宜」というものがあるのだ。母の法事での岐阜行きで買った岐阜についての本も読んだ。多少は知っておこうと思ったからだ。沖縄と比べると、千分の一の知識量だろう。

那覇で買う本は、毎回2万円を超すことが普通だったが、今回は1万円少した。本を選んで買うエネルギーが減少した。途中でくたびれてしまう。

那覇を運転するのは、前に本に買い物に出かけて以来だ。ちょっと「こわい」感じもするが、無事に帰ってこられた。4月からは沖縄県立看護大学の授業があるので、リハーサルしておかなくてはならない。あわせて、糸満まで補聴器の点検清浄にも出かける。ここ10年ほどその近くの店で運動靴を買っているのですが、今回もと思ったが、閉店していた。また新しい店を開拓しなければ、と思う。店を変えることも面倒に感じるのは、加齢のためだろうか。

このごろの日常生活のなかで目立つのは、酒を飲まない日がほとんどになったこと。正月以来、3回、おちょこ一杯注がれて飲んだだけだ。久しぶりでも、酒をそれほど美味しいとは感じなくなった。激しい変化だ。客人は、かつての酒好きの私を覚えていて、酒を土産にもってくるが、酒びんがたまるばかりだ。

デジタルカメラを買い替えた。以前のもののピント調整がうまくいかないからだ。でも、店員に陳列場所を教えてもらうと、さっさと一番安いものを買う。それで十分なのだ。「スマホカメラがいいよ」という人がいるが、スマホを全く必要としないのだ。外出時間が短いので、パソコンで用は充分足せる。

そして、このごろのデジカメにしても性能がよすぎて、ブログ掲載写真用には画素数が多すぎるのが普通だ。そこで、最小画素数にしている。

波風の少ない日々の中で、多少の変化がある日の私の姿だ。

2021年02月22日

すぐ終わってしまった確定申告 年度替わりへ 新年度の仕事

本年度も終わりに近づく。恒例の確定申告だが、今年はさっと終わる。2, 3年前からの E-tax というインターネット経由ですること、その理由ではあるが、今回は、新型コロナ禍の影響で、授業・講演ワークショップなどが激減したことが大きい。入力する件数が激減したのだ。年齢的なこともあるから、一時的減少とは限らないが。

面倒であわただしい作業だったのは、もうかなり以前のことになってしまった。

次年度は、今年は閉講にした沖縄県立看護大学の授業が復活する予定だ。学童支援員研修はどうなるだろうか。

南城市役所の仕事だけが、今年は市史とこどものまち宣言関連であったが、次年度はどうなるだろうか。

こんななかで、継続したいのは卓球・テニボンなどのスポーツだが、それもコロナ禍の影響で、体育館が使えないとか、三密を防ぐために中止された試合が多くて、寂しい思いをした。

田舎ののんびりした暮らしの私にも、コロナ禍の影響が大きいことに、改めて気づく。

2021年02月18日

ハブに噛まれた虹（めす猫）の看病日誌2 四人でくっつき合う

ハブに噛まれた日の2, 3日前から、ハブ取り網の取り換え作業をしていた。7, 8年前にハブセンターの指導を受けて設置した網は、即座に3匹とらえた。その後は、いなかった。しかし、網が破れてきたので、取り換えをはじめたのだ。噛まれた2日後の9日には完成したが、もう3日早ければ、被害に遭わなかったのに、と思う。

それに、ハブと猫とが出会わないようにするためには、もっと長い距離の設置が必要と考えて、さらに追加し、全長30メートル余りにした。ハブセンター指導の漁網は、ホームセンターに売っていないので、野菜のための防鳥・防蝶

のもので代用した。1cm四方の網目なので、ハブは通り抜け不能で、ハブ取りはできない感じだ。だから、猫とハブとの棲み分けが役目という感じだ。

傷跡は、大量の血の塊が体毛を固めていた(写真は、噛まれて一週間後のもの。血の塊がとれた今はもっときれい)。雨が、虹の毛にへばりついて固まった血を取る作業を懸命にする。何度もくりかえしやっている。毛づくろいなのだろう。虹も喜んで受け入れる。虹も雨の毛づくろいをする。そして、恵美子が、ガーゼやティッシュで血のかたまりを濡らして取る作業をする。一週間かけた二人の作業で、ほぼとれた。すると、傷跡が鮮明になる。額の上、耳たぶの内側、ほっぺと数か所が連なる。何回も噛んだというのではなく、うまく噛めないで、ハブの歯がすべってしまって、こうなったのだらうと推測する。

おかげで、虹は8割がた、いつもの生活にもどってきた。食事量も以前と変わらない。

外出して、庭畑を散歩する時間も長くなってきた。だから、夜はぐっすり眠り、朝早く起きることはなく、私たちと共に起床。

虹も雨も、私たちにくっついている時間が長くなる。私たちも、かれらにくっついていることが増えた。夜は、私たちの布団に全員集合。昼は、リビングなど室内のどこかに集合することが多い。庭散歩も、私にくっついていることが多い。私が仕事をしていると、そばにすることが多い。抱っこを要求することもしばしばだ。私たちが階段を上下する際に、2歩ぐらい前に来て、立ち止まって「進行妨害」することもしばしばだ。

虹は、事件の後遺症か、不安を感じる事が時々あるようだ。ポスト・トラウマ症候群? その際は、私たちにくっついて安心する。虹と雨相互のくっつきも、すごく増えてきた。くっついて眠ることも多くなった。

事件の御蔭で、四人家族の結束度が高まった。

2021年02月10日

ハブに噛まれた虹(めす猫)の看病日誌1

7日朝 散歩に出かけていた虹(メス猫)が、大声で叫びながら家の中にもどってくる。聞いたことのない叫び声だ。すぐに抱っこする。彼女の顔から血がいっぱい出てきて、私の衣服は血だらけ。

猫同士のケンカか、カラスなどの鳥にやられたのか。それともハブか。

2時間近く叫んでいたが、昼を過ぎると、ぐったりして、ジッとしている。

どう対応してよいかわからない。それでも、午後4時ごろ、水をたくさん飲んだので、ほっとする。食事はしない。動物病院に行こうということになったが、あいにく日曜日だ。いろいろとネットで調べ、電話する。かかりつけ病院は、テープ対応。救急診療所は電話にでない。さらに調べると、コロナのために臨時休業中だという。電話を取る病院がなかなかない。一か所の動物病院が電話対応してくれた。しかし、ハブの血清はないとのこと。他にもいろいろとやってみたが、うまくいかない。

そのうち、毒がまわってきたのか、顔がはれてきて、噛まれた側の左目が細くなってきている。恵美子と私とオス猫の雨とで、一晩中看病が続く。

8日朝、かかりつけ医院に駆け付ける。医師が、見たとたん、「ハブだ。」と宣言。猫などの他の動物とのケンカなら、白い膿が出るが、血のかたまりで黒くなっている。猫同士だと、大声でわかるし。ということで、ハブによるものということだ。

命は大丈夫とのこと。イヌや人だと、命にかかわるが、猫の場合は、軽くすむらしい。しかも噛まれた箇所は顔で、肉が少ない所だから、軽くすみそうだとのこと。ただ、影響は出るようで、治癒までの2～3週間はかかりそうな感じだ。

直ちに、リンゲルで栄養補給をする。注射器で流動食を食べさせようとするが、食べない。それは持ち帰りとなった。ほかに注射を2本打つ。2週間後に再受診するように言われる。

家に戻ると、ほとんど横になりっぱなしだ。顔の腫れは大きくなってきて、いつもの顔とは全く違う顔。でも、鳴き声は、少しはよくなる。食事は、その日はとらない。でも、注射などの効果か、少しは安定してくる感じだ。

驚いたことに、開いていた戸から、散歩に出かける。「まさか」である。そのまま、庭の端まで30メートルは歩いていく。追っかけて連れ戻す。でも元気が出始めたという点で、一安心。

雨が、傷の周辺をなめようとする（本人は愛情の毛づくろいだろう）が、いやがる。いつも雨がやる「じゃれつき」もいやがって、相手にしない。トイレで「うんち」をする。お腹が少し動き始めたのだろう。

恵美子が、手を当てる「手当」療法をすると、状態がよくなるので、くりかえす。



9日、つまり48時間経過すると、病院でもらった注射器で流動食を与えると、食べる。その後、いつもの柔らかい魚肉中心の食事もある。水も飲む。そして、たくさんの「おしっこ」もする。昼からは、食事が増え、夕方までに通算5回の食事。全部合わせれば、通常の3割ぐらゐは食べただろうか。「うんち」もする。

顔の腫れも少しは小さくなってくる。室内とベランダに限っているが、歩く量も増えてきた。マッサージ器具にいる私のお腹の上に飛び乗ってくる。いつもの姿だ。毛づくろいをして、血で汚れた毛をきれいにし始めた。

夜は、久しぶりに、私の足元で眠る。少々重いが、私も安心してぐっすり眠る。

10日 いつもの固形食を食べる。量は、いつもの半分以上になる。鳴き声も、いつもの戻ってきている。室内をよく動くようになるが、ゆったりしている。まだじっとしていることが多い。顔の腫れもかなり収まってきた。血がついて固まった毛の箇所を自分でつくろっている。今朝撮影した写真は、ようやく驚かれない程度の腫れなので、公開することにした。写真左側（本人からすれば、右）の耳と耳の下の箇所を噛まれた。

2021年02月06日

コミュニケーション豊かで、くっつき虫になった猫

このごろの我が猫たちの特徴を並べよう。

1) 益々くっつき虫になる

夜眠る時、7～8割の時間は、私たちのふとんで一緒だ。

虹雨ともに、恵美子の足元が多い。雨は、朝方になると、私の脇にきて、私の腕を枕にして眠る。一晩中のこともある。昼間、私がソファに座っていると、虹は私の腹胸に飛び乗ってきて、私のトントンと子守唄で眠る。一日に1～2回 私の子守歌は、シンプルだ。「虹とんとん、虹にゃんにゃん、虹ポンポン、虹は可愛い・・・」

二人は、私たちが気遣ってか、公平に対応して、ひいきはしない。

私が移動すると、付いてくることが多い。階段だと、先回りして私の前でたちどまって、「私もかまってください」という。ベランダでは、寝そべって、マッサージを要求する。散歩に出かけると、しばらくついてくるが、50メートルぐらいいくと、立ち止まって諦めて引返す。自動車などの音が



怖いのだ。



2) コミュニケーション力の益々上昇。こちらの呼びかけへの反応も正確さを増している。

買い物に行くとき、ドアをしめるが、「仕方がないな」とあきらめて、玄関でお座りをしている。帰ってくると、玄関まで飛んで駆けつける。



かれらもいろいろと要求してくるが、聞き分けられることが多くなった。ごはん、ドアを開けてください、外出したい、抱っこしてほしい(甘えたい)・・・

このところ、エッ、エッ、エッ、エッ、という発声がしばしば。鳴くのではない。何かを話しているという感じ。私がそれに応答すると、繰り返す。言語の原型のようなものだろう。虹から始まったが、今では雨もやる。

今後、どんな風に展開していくのだろうか。私と猫とのこんなやりとりを見ていた客人が驚いていた。

3) やんちゃをして、困らせることがほとんどなくなった。木に登って、「降りられない、助けて」「帰れなくなった、迎えに来て」・・・ このごろはない。

4) 食事量が、安定してきた。最高時の半分ぐらいだ。人間だと20歳ぐらいだそうだ。落ち着いてきた。昼間、とくに午前中は、室内外を飛び回る。午後少し昼寝して、夕方、少し外出。夜は7～8時に就寝し、朝は、私たちと一緒に6時前後に起床。

5) エレベーターに乗せると、怖がっていたのも、以前の話。今は、「乗ろう」といってくることもある。エレベーターで移動する私たちの行く先階を予測して、到着階へと先回りすることもある。

植物へのいたずらがめっきり減った。

一度、海岸まで散歩に連れて行ったが、怖いもの多くて大変だった。慎重なのだ。とくに虹がそうだ。以前は、探究心旺盛さが冒険をさせていたが、それがうんと減った。外出しても、呼べば戻ってくる範囲内だ。

二人で仲良く一緒に行動することが、少しだけ増えた感じだ。

2021年01月25日

「大きな物語」を描く書籍を立て続けに読む

30年近く前、「大きな物語の時代は終わった」といわれた。しかし、最近「大きな物語」を描く本が次々に出されており、何冊かを読んだ。地球温暖化などの環境問題と政治、命や遺伝子にかかわる医療、長寿とからむ生き方の変化、資本主義の次は、といった巨大な物語だ。

「大きな物語」が「ほらばなし」ではなく、リアルさを感じられる近年の時世だ。長期的な見通しをもって、政治経済社会人生の諸問題に取り組む必要をますます感じさせられる。にもかかわらず、政治経済などの動向は、短期的な対処、微調整的対処にとどまっている印象を強く持つ。と同時に、地球的な視野をもつよりも自分の周辺の利益に焦点化した短期的対応中心なのだ。

そしてまた、国家単位での思考が過剰であり、グローバルな視野が不足気味だ。そして、人々の政治などへの参加の拡大によって、民主主義を充実させる動きは、いまだ弱い。

南城市こどものまち宣言が、1200人もの市内の子どもがに提出したアイデアをもとに、子どもたち自身が文章を作成して、まもなく完成公開だ。これなどは、当事者参加というまさに民主主義によって作成された。

今後、子どもに限らず老人・障がい者などをめぐる社会施策の創造決定には当事者が参加するありようを重視していく必要がある。これまで、子ども・老人・障がい者は当事者として参加することが稀であったからなおさらそうである。私も、地域住民、老人であるという当事者性を大切にしながら、いろいろとかかわりあっていきたい。「大きな物語」への参加も、そういう当事者性が基盤になろう。

2021年01月21日

ムーチー 池のグッピーのほとんどが寒さにやられる テレビ故障 酒をほとんど飲まない

20日はムーチー。恵美子制作のものをいただく。40年続く我が家の慣習。

今年の寒さは、ここ10年では一番のような印象だ。なにせ、二つの池のグッピーの99%が死んだ。ほぼ100匹いるグッピーで生存を確認したのは、1匹のみ。グッピー飼育は7～8年だが、初体験だ。室内の水槽のものは元気なので、暖かくなったら半分を移すつもりだ。

外出が好きな猫たちも、戸を開けても、出ないことが多くなった。

寒さのせいではないが、テレビの音声がなくなった。テレビ本体のためか、高齢者向けのリモート音声装置のためか、不明。恵美子が奮闘して、長野の工場まで送って修繕したが、上手くいかない。テレビ購入先に尋ねると、保証期間の5年を過ぎているので、メーカーからやってくる。接続にかかわる基盤が故障しているという。買いなおすしかないという。そこで、音が出る形にセットしたままにしてもらった。ということで、2週間ほどのトラブルは、一応終わった。今度故障したらテレビの買い替えしかないだろう。それを主導するのは恵美子だろう。最近では、電気製品のリーダーシップは恵美子がとっている。

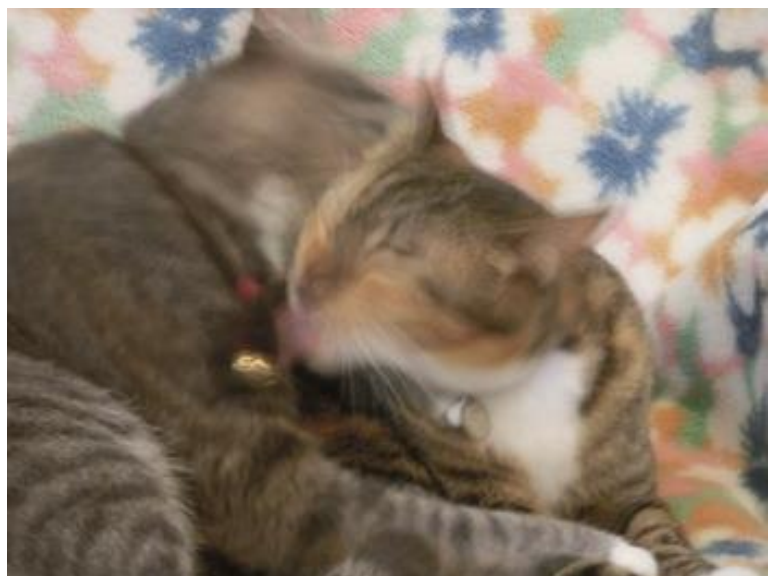
今の電気製品の多くは、修理するものではなく、基盤を取り換えるか、買い替えるしかないようだ。基盤も高価なので、買い替えるのが得策のようだ。こんなありようはよくないと思うが、個人ではどうにもならない。かつては、接触不良などの時、叩けばうまくいくことがよくあったが、今はそんな具合にはいかない。長持ちさせるという発想がメーカーにはなさそうだ。

テレビが映らなくても、別に困りはしない。仕事をしてポツとしたときにスイッチを入れるだけだ。見たい番組があるわけではない。スイッチを入れて、旅番組、自然番組、興味深い特集などが映ったら、見るという具合だ。

もう一つ、珍しい話。お酒大好き人間だった私が、酒をほとんど飲まなくなってしまった。この一か月で2回、合計1合（泡盛換算）弱だけだ。かつての20分の1、ないしは30分の1だ。

呑むのを止めようとか、減らそうとか、したわけではない。この一か月間、飲むことを忘れていたという感じだ。それだけストレスが減ったということだろう。

写真はくっついて、毛づくろいし合う虹と雨



2021年01月01日

年末年始の日々 寒さ 原稿校正 庭畑仕事

31日朝、我が家ベランダは8.6度だった。1日朝は10.2度。沖縄でこれまで経験した最低温度に匹敵する。やはり気象言葉を使うと、「10年に一度の寒さ」かもしれない。

いつもは、ドアを開けると喜んで飛び出す猫のにじ・あめも外出を躊躇している。出ても、すぐに帰ってくる。

いつもの生活と変わり映えしない生活の日々

☆ 読書原稿書き中心生活 原稿書きといっても、その半分は、南城市史民俗編の校正作業。21万字も書いてしまったので、校正も膨大だ。21万字といっても、半分は字誌や聞き取りの紹介だ。南城市の71の字の多様で豊かなありようをリアルに語るものを構成して、集落の過去現在未来を考える基盤になるように心がけている。市全体の記述ではなく、各集落を単位にして、人々の暮らしを描くので、新鮮な挑戦だ。お陰様で、全集落について多少なりとも語れるようになってしまった。

10年前には、全く予想さえしなかったことだ。5,6年前に全集落散策をしたことが生き生きした経験になった。その時は、この作業をするなどとは思ってもいなかった。

☆ 年末には、沖縄の地元雑誌『越境広場』8号が届いた。「コロナ禍をきっかけに沖縄の教育を考える」を寄稿したからだ。項目を並べておこう。

1. リスク対応のなかでの問題点と可能性
2. 沖縄の戦後体験
3. 中央集権と現場の自律性創造性
4. 家族の地域からの分離傾向の強まりと学校への従属傾向の強まり
5. コロナリスク対応にあらわれた問題
6. 子どもの社会性発達
7. 遠隔授業
8. 多方向型、共同研究創造型授業



☆ 9月から12月はじめまでの改装工事のため、できなくなっていた畑庭仕事がかかなりたまっている。そこで、ひとまず草取りなど「きれい」にする作業。明日2日明後日3日のハーブティーユンタクの準備もある。

寒さの中、着生ランのカトレヤが開花する。

2020年

猫とコロナ禍

2020年12月28日

年越し通信「老を誇る」

毎年、年末年始通信というのを発行して、もう40年近くになる。年賀状をそれに代えてきて、ついに今年は年賀状ゼロだ。喪中のためもある。

今年は、ちょっと趣向を変えて、「老を誇る」というタイトルで、現在ブログで書いていることをまとめて書いた。無論、近況報告も書いたが、猫話が多い。

年賀状に代えて、こういうお手紙形式の人が、少しずつだが増えている。では、年越し通信を転載しよう。この記事で、送付に代えさせていただく方もおられる。よろしく「お受け取りください」

・・

【老を誇る】 2020年～2021年年越し通信 浅野誠

今年もやってきました。年末から年始への移り変わり。今回のタイトル「老を誇る」は、現在連載しているブログ記事のタイトルです。「老」を否定的にとらえ、アンチエイジングなどといって、「若」を肯定し、「若くみせよう」とする風潮が蔓延しているのに反抗してつけたタイトルです。何人かの方が、私にむかって「まだ若い」「そんな年齢に見えません。若さいっぱいですね」などと、ほめる？おだてる？ことにも出会います。

「若いということは、未熟だということではありませんか。年相応に、できれば年齢以上に熟して充実しているように見られたい」ということを、私は10代後半からいってきました。20代のころ、しばしば30歳以上に見られる経験をしました。それを悲しむどころか喜んでいました。残念なことに、最近では年相応にみられています。

人間にとって大切なことは、その人なりに熟して充実することであり、老はけっして悲しいとか恥ずかしいとか思うことではなく、誇ることだと思うのです。

74歳になった私ですが、見かけも頭も身体も年相応になってきました。いろいろな面で熟して私なりに充実を感じています。そのいくつかを綴りましょう。

新型コロナ禍のなかで、大学授業や学童支援員研修などいろんなスケジュールがキャンセルになって寂しい思いを繰り返しました。体育館閉鎖や試合中止となり、好きな卓球・テニポンに参加できる回数も激減しました。普通の40ミリ卓球は夜練習なので終結にして、昼間あるラージボール練習をしています。

お陰様で、自宅での執筆読書時間が以前以上に増えました。原稿書きが進んで、ここ数年の課題であった南城市史の「集落と暮らし」の原稿などのめどを立てることができました。ブログも連載を中心に執筆しています。

また、2019年からの課題である南城市『こどものまち』宣言策定も、コロナで苦勞させられましたが、子どもたちの活躍で最終盤を迎えています。

昨年9月から家族メンバーになった猫の「にじ」と「あめ」は、完璧に堂々と家族暮らしをしています。猫とこれほどコミュニケーションができるのは全くの想定外です。「ごはん食べたい」「ドアを開けてほしい」「抱っこしてほしい」などの希望はすぐにわかります。「帰っておいで」と声をかけると、聞きつけて外から帰ってきますし、「おいで」というと、飛び乗ってきます。私たちが出かける時、帰る時、玄関で送り迎えをします。



一日の大半を私たちとともに、スキンシップしながら暮らしているから当然かもしれませんが。(写真は二人一緒の御昼寝。上が虹(メス)、下が雨(オス))

16年経過した我が家の改装工事にかなりの時間とお金がかかりましたが、おかげで、我が家での「ハーブティーユンタク」を新年からスタートさせることができます。

母が満101歳でなくなりました。たくさんの葛藤と思い出を残していきました。強い母と弱い私との長いドラマでした。

90代から0歳までの方々との多様なお付き合いはますます増え、お陰様で、沢山のドラマとつながりと発見を生み出しています。そのため、身体の動きが多少スローになろうとも、脳はますます活性化し、いろいろな発想が浮かんできます。

これからも、よろしくお願ひします。

2020年12月14日

我が家改装工事完了とハーブティーユンタクのお誘い

9月下旬に開始した家の改装工事が99%完了した。主な工事をあげておこう。

外壁清掃と塗装

外回り階段の設置 コンクリート製

腐食して壊れたたウッドデッキの取り換え 木製(セランカンバツ)から樹脂製へ

屋上の手すりの設置

木の根が入りこんだり、埋め戻しの土が沈下して大きく破損した下水道管の全面的な取り替え

他にも、小さな工事が10余りある。破損したつくりつけの本棚修繕、郵便受けとりかえ。雨水配管の新設・・・

必要なことをすべて終えようということで大掛かりになってしまった。これで、何年になるかはわからないが、最後までここに住むことにしたい。

この工事以外にも、この一年間いくつかやった。ヤモリに基盤をこわされたクーラーの修繕、冷蔵庫のとりかえ、浄水器の取り換え、室内照明とりかえ・・・

随分費用がかかったが、やむをえない。

これらの企画施行管理は、この家を設計監理してくださった西里さんに全面的にお願ひした。この家には、私たち同様に愛着をもってくださってきた。先日まで、沖縄県建築士会会長を長期間勤めあげられ、ようやく退任なさって我が家の面倒を見ていただいたというわけだ。

工事がほぼ終了したので、滞っていた畑庭仕事も再開している。我が家来宅の足止めを食らってしまった方々にも訪

問していただく、ということで、次のような企画を持つことにした。

ハーブティーユンタクのお誘い 浅野恵美子/誠

我が家の改装工事がようやく終わりました。そこで、久しぶりに我が家でのハーブティーユンタク会をもちます。自慢の10種混合のハーブティーを飲みながらユンタクしましょう。もしかして、我が畑産のコーヒーを飲むかもしれません。

改装工事のため、庭畑の整備は遅れていますが、そんな庭畑の植物（観葉植物・ハーブ・果樹・薬草など）でも見てやってください。蝶々などの動物もいっぱいいます。

場所 南城市玉城字中山の我が家の一階テラス 外階段を整備しましたので、入りやすくなっています。

月日 1月2日（土曜日） 1月3日（日曜日） 2月5日（金曜日） 2月6日（土曜日）

いずれも、午後2～4時です。

※ 新型コロナ禍の最中ですので、一日5名様限定です。事前予約をお願いします。先着順です。

直接私たちにか、ブログやフェイスブックのコメントをお願いします。

なお、駐車場不足ですので、御工夫をお願いします。

2020年12月04日

法事で岐阜旅。久しぶりに孫たちにも会う

24日の白内障手術のあとは順調だ。右目がとても明るく見えるようになった。白内障が出ていない左目と比べると、はるかに透明で明るい。左目が少し濁っているように感じさえする。右目でみると、全体的に紫がかって見える。以前なら灰色または青に見えていたが。

そんななか、母の法事に岐阜に出かける。9月、10月に続いて連続だが、こんなに頻繁にでかけるのは初めてだ。息子・孫家族も行くというので、彼らと久しぶりに会うことにもなる。かれらは平日の法事には出席できないので、土日に岐阜に行く。それに合わせて私たちもでかける。彼らの家族は不思議なほど仲良しだ。孫たちは中高大と通う学校は異なるが、それぞれ楽しんでいるようだ。健康で元気なのがなによりだ。息子夫婦も元気だ。

母の写真を前にして、義兄と息子家族とたくさん語り合う。義兄は母の介護など大変だったが、たくさんのことをきちんとなしている。いろいろと援助してくれる本家の夫婦とも語り合う。



岐阜駅前の繊維問屋街を見るが、1%ぐらいしか昔の面影が残っていない。

写真は金華山と長良川

息子家族が帰り、火曜日までの法事間の時間に、金華山と美濃和紙の里などを訪問する。金華山は何年ぶりだろうか。思い出せない。美濃は初めての訪問だ。和紙による絵画の展示会があり、和紙でこんなに素敵な表現ができるのかと驚きの連続だった。和紙によるランプの展示も見て回った。

法事では、いまでは60～80代になる多くの親戚と語り合う。子ども時代のいろいろな思い出がよみがえる。もう60～70年も前の話だ。実家周辺も岐阜駅周辺もすっかり変わった。小学生時代、家業での仕事でしばしば出かけた

2020年11月21日

ボトムから脱け出して、いろいろと 工事も最終盤へ

母の死・猫の30時間外出と捜索、市史の校正プロセスをめぐる困難など、半月あまりいろいろとあって、ボトム状態にあった私の心も、ようやく難事をくぐりぬけつつある。

これから2週間あまりも、いろいろとある。白内障の手術がもうすぐだ。南城市史だけでなく、依頼論文の校正もある。ここしばらくは、二つの校正作業を中心に進むだろう。加えて、南城市『こどものまち』宣言策定のワークショップも続く。

9月から始まった家の工事も、いよいよ最終盤を迎えた。下水管の新たな設置、外壁清掃と塗装、屋上手すり設置などは完了し、この後、外階段設置や腐食したベランダの取り換え工事などが進む。写真は足場がとれた4階から屋上を写す。外壁清掃塗装で、すがすがしい。屋上には手すりが出来て、さっそくドラゴンフルーツの枝をはわせる。

ということで、実に多様な工事業者の方々の出入りがある。いずれもベテランだけでなく元気いい若者職人たち。皆さん朝早くから、精力的に仕事をなさる。余談だが、若者たちはそろってイケメンだ。うらやましい。

12月中旬ともなれば、私の仕事にも家にも、新しく美しい？世界が登場しそうな気配だ。楽しみにしている。



2020年11月06日

私がスマホをもっていないとは思わない方々 スマホなしで、シンプルにいろいろ

メールやりとりをしていて、こんなことがあった。「今、那覇にいますが、すぐに行きますので、待っててください」「急用で遅れますが、あと5分すれば、着きます」

こういうメールを私が読むのは、相手が発信してから数時間後であり、役立たない。原因は、相手が「私がスマホをもっていて、メールすれば、すぐに読む」と思い込んでいるからだ。

私はスマホを持っていないし、持とうともしなかった。仕事部屋にあるパソコンで十分間に合うからだ。外出先では、「ガラケイ」でのやり取りで十分なのだ。

私が持っているガラケイは、ドコモなのだが、残り数年で通信回線が終了するという。その時には、ガラケイとも「さようなら」で、スマホに替えるつもりはない。

スマホを持たない理由に、積極的なものはない。持つ積極的理由がないのだ。恵美子が、スマホでかなりの苦勞をしているのを見ると、なおさら持つ必要を感じない。小さな文字、そしてひんぱんに鳴る信号音に、24時間拘束される必要はない。カメラはデジカメで十分だ。

それに我が家を訪問するのにスマホを使う人がいるが、平均30分ほど迷う。かなり離れた森に連れていかれるようだ。スマホ信仰を持つ人が陥る失敗だ。

こうした機器は、皆が持っているから持つ人が多そう。もっていても、バージョンアップで、次の世代の機種に乗り換えということで、多大の出費を強要されているようだ。

「便利」と思わせられているものに、どんどん追いかけられるのはやめたらいいと思う。私のパソコン歴は長く、もう30年を超すし、ブログ歴もまもなく14年になる。付属機能やソフトがほとんどないシンプルな私好みの大型パソコンで十分に仕事をこなしている。ズームというものも、必要を感じないのでパスしている。それで困ったことはない。シンプルにいろいろではないか。

2020年10月25日

季節替わり ブログアクセス数 こどものまち

季節が移る。先日の豪雨で、一か月近く水不足状態だった庭畑の植物たちが元気を出す。ウリズン豆も再び大量収穫。

急に冷えてきて、空高く、サシバかアカハラダカか私にはよくわからないが、渡り鳥が舞い始める。

話とはぶが、このブログ『沖縄南城・人生創造・浅野誠』の累積アクセス数が、25万を超えた。その前身の2007年からの『田舎暮らし・人生創造・浅野誠』は、記事投稿を終えて7年になるが、53万を超えている。今でも、検

索で引っ掛かって訪問なさる方がおられるのだろう。

それにしても、ありがたいことだ。硬いブログなのに、よく読んでくださる。

まだ続けられそうだ。

今日10月25日、南城市「こどものまち」宣言文づくりプチイベント「こんな言葉イイネ！～好きな言葉にドットシールを貼ろう～」が、イオンタウン南城（11～18時）で開催される。こどもたちも大人もたくさんの方が集まるだろう。私も出かける。

2020年10月20日

とれすぎ野菜の近所配り

9月後半から10月前半は、連日50個ほどの収穫になったウリズン豆を、来客に、会合で、そして近所に配り続けてきた。やっと収穫のピークを過ぎたので、自家消費できる量に収まってきた。

10年以上前に、近所の90代のおばあちゃんが、我が家の玄関に取れた野菜を何度もおいていったことを思い出した。近所の畑を散歩で通りかかると、知り合いの農家が野菜をおすそ分けしてくれることもしばしばだった。

こんな光景は、少なくなりつつあるが、私もそんな仲間入りをしたのかなと思う。

卓球やテニポンなどでも、あるいはいろんな会合でも、おすそ分けが時々ある。60代70代女性に多いのだが、時には若い男性も配ることがある。20年もまえのことだが、教授会の中に飴玉がまわってくることもあった。私の授業では「おやつタイム」をつくることもある。人類の長い慣習のように思う。

かつては、こういうつきあいをわずらわしく感じることもあったが、慣習が少なくなってくると、寂しい感じにもなる。

2020年10月05日

我が家の諸工事開始 下水管工事など

9月下旬から、我が家の諸工事が始まった。

まず、懸案の下水管。調べてもらうと、木の根が入り込むだけでなく、ひび割れもあるという。建物の周りに埋め戻した土が20～30センチも沈下している。そのため、埋めてある下水管にも無理がかかる。下水管に木の根が入ったのは、ひび割れか、接続部分の接着充填不十分のためだろうとのこと。下水管修理よりも、再配管のほうが安価だし手取り早いという。地中配管よりは、地上配管のほうがいいというので、お任せにした。あわせて、給湯配管も地上配



変な工事だ。3日間ぐらいかかりそうだ。

管にかえる。

ということで、早速工事していただいた。古くなった下水管から発生する臭いもとれた。昨年した下水管詰まり工事に数十万円もかけたのが、とんでもないことだったことがわかった。

地上配管は、太い配管で目立つので、そのあたりの対応は、今後の工事でお願する。

3日からは、外壁洗浄塗装工事のための足場設置工事が始まる。この作業には5人がかりでも一日では終わらない。大

その後には、ベランダの腐食したウッドデッキの取り換え工事、屋上の危険防止のための柵設置工事。外側通路に階段を設置する工事。玄関周りの工事。

色々が続くが、11月いっぱい、我が家は工事の連続だ。12月まで続くかもしれない。

2020年09月19日

猫の我が家生活満一年

2019年9月15日に、虹と雨は、我が家生活を始めた。近くの海岸通り（農道）沿いのサトウキビ畑に捨てられていた猫二匹が、我が家にやってきて一年。やってきた時、雨が降り虹が出たので、名前は虹（メス 写真左）と雨（オス 写真右）。毛の色は茶色と灰色と異なるが、容姿は似ており、姉弟だろう。一年後も雨が降り、虹がでた。

一年がたち、人間でいうと成人期に入った。すっかり落ち着いた暮らしぶりだ。室内と戸外を自由に楽しんでいる。客人から「逃げていかないんですか」と聞かれるが、そういうことはない。我が家の敷地から離れた所へはいかない。



呼べば、たいていはすぐに戻ってくる。

落ち着いてきて、暴れまわることは少ない。食卓の上ののって、叱られれば、「しゅん」となってしおらしくしている。運動量も食事量も、大食いの時期は去り、成人らしく落ち着いている。暑い夏も無事くぐりぬけそうだ。

二人とも、意思表示がはっきりしている。「おなかですいた」「散歩にいきたい」「甘えたい」「ドアを開けて」「マッサージしてください」「スキンシップしたい」などなど。こちらから呼びかければ、返事をする。こんなにコミュニケーションができるとは、想定外だ。



虹(メス) お姉ちゃんらしく、しっかり者だ。探検家でもある。昆虫採集の名人だ。ネズミ捕りもすごい。もう10匹以上取ってきている。朝は、私の目覚まし時計だ。5時過ぎになると、寝ている私の身体の上ののってきて、「起きろ」という。しばらく前は、3～4時に起こしにきたが、今は適切な時間になっている。起こして戸を開けさせ散歩にでる。



そして、6時過ぎになると、ご飯を食べに戻る。虹と雨の行動は一緒のことが多いが、目覚まし時計は虹の役目。

探検は大好きだが、怖いものがあるので、遠出はしない。怖いものは自動車の音、幼児の大声。先日は、見知らぬ猫に追いかけられて、室内に飛び込んできた。

雨(オス) 精悍な顔つきだが、ゆったりしている。毛玉を吐き出す動作が長く続いたが、薬でよくなってきている。コミュニケーション力が高まってきて、おしゃべりもするようになる。虹ほど独立心が強くなく、私たちの傍にすることが多い。仕事中の私の傍にすることも

多い。夜は、二人とも私たちのどちらかの近くで眠る。

仲の良い姉弟で、相棒が見当たらないと、探しに行く。

2020年09月09日

満16年の玉城中山生活 いくつかの変化

ここ玉城の中山での生活は、もう16年もたってしまった。近所のその間の変化を並べよう。

- ・生活しはじめに出会った近所の子どもが、もう社会人になっている。
- ・近年、若いカップル3組に、合計8人も子どもが育っている。彼らの新居が、新鮮な雰囲気を周りに作り出している。
- ・私たちを含めて50代だった人たちが、70代になっている。元気な80代の方々も多い。
- ・我が敷地内で、ハブを見かけなくなって数年たった。

- ・スズメが激減して、カラスが増えた。
- ・わが庭畑が、森の様相を濃くしている。ジャングルという人もいる。そこで、高さ5～6メートルあった金煌マンゴーとガジマルの2本の巨木を切る。ティートリーの幹が、台風で2回折れたが、すぐに再生して今や7メートル近い。数年前に植えた二本のサガリバナが、咲き続け、高さ5メートルになっている。
- ・自家製のハーブティーがもてなしの定番になる。
- ・二匹の猫（虹と雨）との共同生活が始まる。豊かなコミュニケーションへの対応で忙しい。

2020年08月30日

新型コロナウイルス流行下での都市生活の見直し

雇用と便利さに恵まれ、金銭的有利さがあるということで、都市に多くの人が集中している。それだけに「三密」状態がいやおうなしに作られ、ウイルスが広がりやすい条件に満ちている。予想されている大規模自然災害への弱さも言われ、巨大な資金が投入されている。大都市は、大量生産大量消費、そして自然と人間との分離の象徴だともいえそうだ。

首都圏への集中は、「過度」を通り越しているのではなかろうか。沖縄でも、那覇中心に集中化がすすんでいる。都市生活では、高い生活費が必要だし、居住空間が狭いものの、便利であるし、文化的集中もあり、雇用も恵まれていることが多い。お金がある人にとっては、「いいことづくめ」に見えるかもしれない。

重要なことは、「都市がいい」というイデオロギーが、ここ100年以上にわたって作られ広がってきていることだ。いや、1000年以上になるかもしれない。それだけに、都市と田舎とではどちらがいいか、という問いかけもしないで、無条件に都市がいいと思い込んでいる人が多そうだ。「都市がいい」というイデオロギーを、空気のように感じているのだろう。

だから、「田舎に住む」ことには、特別の思考と大きな決断が求められる。だが、田舎は、都市と比べて、そんなに劣悪なのだろうか。他方で、田舎の都市化も進行している。例えば、田舎にも、かつて便利な都市の象徴とも見えたスーパーやコンビニが主要道路沿いに作られている。

といっても、田舎を見直し、「田舎→都市」とは逆の「都市→田舎」の動きが、ゆっくりと広がり、田舎への移住もわずかだが増えている。コロナ渦中の「テレワーク」が見直しのきっかけを作ることもあるようだ。

だが、コロナ後、あるいはウイズコロナをめぐる議論のなかで、都市集中の問題性への問いかけに出会うことが少ないのは不思議なことだ。

類似の問題は、少子高齢化を問題視し、人口減少を食い止めようとする動きのなかにも見ることができよう。ここ1000年の人口激増を異常と見るなら、むしろ「旧に復する」という見方があっていいのだが、そういう見方には、めったにお目にかからない。

人々の生活、とくにを都市住民の生活にこれほど大きな影響を与えている新型コロナウイルス流行であるから、人々の生き方の変換をテーマにする議論が少しは広がってもらいたいと思う。

2020年08月20日

マスク（コロナ PM2.5 火山灰） 散水 階段昇降運動

暑さが続くだけでなく、少雨傾向も続き、庭畑の植物も悲鳴を上げ始めた。庭畑への散水を久しぶりにした。庭畑向けのホースと蛇口がうまくいかない。そこで実験。3階ベランダから地上の庭畑に散水してみた。これが案外よいし、苦労が少ない方法であることも発見。水を欲しがっている箇所には、ほぼ届けられる。これまた楽しみになりそうだ。それにしても水をもたらず小さな台風がやってくることを待っている。近くの畑の人も困り始めている。

コロナ自粛で、スポーツがほとんどできない。散歩で代行しているが、暑いので朝か夕かと時間が制限される。そこで思いついたのが、室内の階段昇り降りだ。やってみる。1～4階の一往復150歩になる。高低差9.5メートルの運動だ。ぐるぐる回る階段なので、ステップだけでなく平行移動の個所もあり、結構な歩数だ。3往復までは楽勝だったが、5往復になると、少々きつくなり始めたので、ここでストップ。10分と短いが、運動としてはかなりの量になるようだ。時々試みてみようと思う。

ところで、私は、並みの人よりはるかにマスクを愛用している。新型コロナ向け使用が始まる前、長くPM2.5対処として使用してきた。おかげで、常々マスクをストックしている。加えて、火山灰対処も必要になった。先日も、火山灰で煙霧が出た時に、マスクをして海岸散歩に出かけた。きっかけは鹿児島滞在中の桜島対応だったが、西之島の登場で、沖縄でも必要だとは、全くの想定外だった。大陸のPM2.5が減少して喜んでいたら、「伏兵あらわれる」という感じだ。

「普通」の人は、風邪をひいて咳が出る時などにマスクをするが、私にはそういう目的の使用はない。ここ10年風邪を引いた記憶がない。

私は、ほぼ毎日、ウェブの気候情報を見るが、通常の人とは異なって、PM2.5情報を詳しく見る。加えて、8月中旬からは、東風かどうかチェックする。西之島からは東風によって、火山灰がやってくるからだ。

2020年08月15日

ブログのアクセス数の不思議な増加 私の「自粛」生活

7月下旬から8月半ばまでは、毎年ブログのアクセス数が多くなる印象だが、今年も増えている。例年以上に増えている。大学生がレポートを書くために引用文献を探しているのか。学校教員が夏休みに入って、まとめ読みするのか。でも、今年は事情が少々異なるようだ。コロナの自粛生活で、「楽しみ」が減って、ネットを歩く人が増えたのかもしれない。私のどれかの記事が特別に大きな関心を呼んだ形跡もない。個々の記事のアクセス数は、いつも通りだ。

それにしても、毎日100～200余りほどのアクセスはありがたい。書く励みになる。

コロナで自粛生活が続いている。毎年恒例の子ども・孫家族来訪も「自粛」だ。散歩以外で外出するのが減ると、減ってくる。私は、自宅生活が慣れているので、困りはしない。でも「閉じこもり」ではまずいと思う。だから、「自粛」扱いになる外出をしなくちゃと思っている。候補は、買い物・医者通いの他に何があるのだろうか。綱引きなどの字行事も中止だ。

訪問者も減っている。隣人・親戚の訪問、エレベーター点検とか、業者の訪問、配達があるくらいだ。

結果的に、自宅でできる原稿執筆がどんどん進む。ブログ記事は、先回りして書くことがどんどん増えて、今は10月掲載予定記事を書いている。読書も増える。現在は、新刊本と読まないままの本とを交互に読んでいる。

9月以降の日程も「真っ白」状態だ。毎年秋の恒例になっている学童指導員研修も今年は実施の見通しが出てこない。

2020年08月05日

「自粛」再開 樹木に登って下りられない「虹」(猫)

沖リハ授業は、7月31日に無事終了した。ノリノリですごく可能性のある受講生たちだ。今後が楽しみだ。

8月に入って、「自粛」再開となり、体育館が閉鎖となり、テニポンができなくなった。3～5月生活の再来の感じだ。所用の少ない私のような老人にとっては、影響は小さいように見えるが、外出が少なくなるのは、まずいことだ。長い間、働き過ぎだった私は、仕事制限をかけて、仕事量を減らすために、外出量を減らすことに努めてきた。それが逆転して、今からは、外出回数を増やすことに努める必要がある。その作戦を思案中である。

またまた我が猫たちの話。

ある朝、散歩に出かける。いつもなら、1時間を超えると、空腹になり、朝ご飯を食べに戻る。「雨」はきたが、「虹」は、少しだけ戻り、朝ご飯を食べないで、再外出。

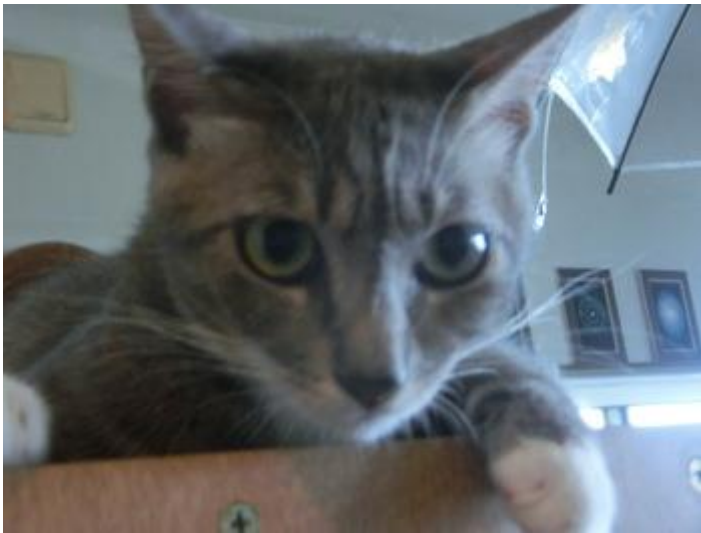
あまりにも長いので、庭畑に向かって、大声で、「虹！ 戻っておいで。朝ご飯だよ」と叫ぶ。珍しく反応がない。しばらくして、「にゃーお、にゃーお、にゃーお」と悲しそうな声での連呼が聞こえる。いつもなら、そんな声を出さない。

私も、何度も「虹！ 虹！」と大声で連呼する。すると、同じように、「にゃーお、にゃーお、にゃーお」という返事が聞こえるが、どこからかがわからない。搜索開始。地面の穴に落ちたり、枝に挟まれたり、あるいは動物にやられて、

怪我でもしたのか。もしかすると、ハブ?! と不安な予感さえする。

探し回っていたら、どうも地面からではない。見上げると、大木の二股の枝にいる虹を発見。高さ2メートル以上。私の手では届かない。手を差し伸べるが、ジャンプして下りることもできない。私が支えにのって、虹の尻尾をつかんで、引き下ろす。

こわかったのだろう。恐怖の声を上げていた。抱っこして、戻す。



こりごりしたのか、夕方の散歩の際には、「虹」と声をかけただけで、すぐに戻ってくる。翌日も「自粛」生活だ。とても慎重になっている。

ここまで書いた途端に、「虹」はどこかに消え、朝帰り。多分暑さ凌ぎに、戸外で眠っていたのだろう。

いろんな体験をして大人の仲間入りをしていくのかな。それにしても、猫も私たちも、この暑さは大変だ。

上左写真は「雨」 中右は「虹」

2020年07月31日

くっつき虫になった猫たち 猫との会話

このごろ、猫たちがくっつき虫になっている。

ある日、「雨」は、恒例の朝の庭畑散策に出ようとするが、すぐに戻り、私に付きまとい、甘え啼きをする。甘え啼きには、食事要求・散歩要求・だっこ要求がある。この時は、だっこ要求だった。最近は、「虹」



もだっこ要求が多い。私が合図をすると、すぐに飛び乗ってくる。合図をしなくてもものってくることも多い。

私の仕事中は、すぐ近くに居ることが多い。プリンターの上や紙箱の中、机の書類の上など。「業務妨害」だが、阻止はしない。食事中は、「雨」が食卓の隣の食材棚のてっぺんにのって、私たちの食事を観察する。

もう、一歳を超え、人間でいうと、18歳ぐらいだが、私たちとの密着度が高まっている。

先日は、「雨」が朝から離れず、私の散歩にもつき合おうとする。しかたがないので、海岸まで抱っこして連れていく。でも海の音で、「こわいよ」となく。しかたがないので、すぐに連れ帰る。帰りも抱っこである。

コミュニケーションも濃密になってきた。次の話は、私の自己満足だが。

「虹」をだっこしながら、「誠は虹が大好き。虹は誠が大好きか」と話すと、いい声で「ニャーオ」。

タイミングが合っただけだろうが、私は大満足。それならばというので、同じことを「雨」にすると、口を小さく開けて、反応。

それにしても、会話をよくする。観察していると、かれらが「ニャーオ」というのは、私たちに向かってだけのようだ。

2020年07月06日

昆虫採集にハマる猫たち

暑くなり、昼間の庭畑散歩はきついで、朝夕に限定されるようになった。しかも、時間は短い。たいていは30分ぐらいで終了だ。関心事は、あちこちの探索と言うのではなく、動くものの観察と採集だ。オオゴマダラだけでなく、いろいろな蝶が集まるホウライカガミの下は、大好きな場所だ。体は動かさず視線だけで追いかけて、チャンスをうかがう。

この一週間の採集物

蝶 オオゴマダラ 2羽 アサギマダラ アゲハ
リュウキュウミスジ
セミ
トカゲ
ゴキブリ

一日平均2羽近い。採ってきたら、くわえたまま意気揚々と私のいる部屋に引揚げ、そこで、相手と遊ぶ。殺そうとするよりも、遊び相手に恰好の相手なのだ。オオゴマダラなどは、私が気づいたらすぐに解放してあげる。以前はヤモリに興味をもっていたが、ヤモリでは物足りず、もっと動きの激しいものを好むようだ。鳩にも興味を持って、威嚇の声を出すが、全く迫力がない。それでも、面倒なのか、近づく鳩も減ってきた。



この遊びはいつまで続くのだろうか。多分、そのうち飽きるだろう。飽きてくれないと、後片付けをする私が大変だ。

写真は、セミ トカゲ

2020年06月27日

家の手入れスタート

家の手入れの相談を始めた。我が家を設計した建築士さんの配慮指導で、業者さんがいろいろと調べてくれる。

汚れが目立つ外壁の清掃と塗装。

来客の上り下りが難しい外回り階段の現状の改善。

樹木の根が入り込むような下水管の改善

ウッドデッキが壊れ始めたベランダの改修

ほか

築年数が16年になるので、やむをえない修繕だ。これを終われば、私たちの居住生活中は、「もうない」にしたい。次は、私たちの後の居住者の時期だろう。



写真は、外回り階段。ほぼ私が作ったものだが、来客には使ってもらえない。

2020年06月11日

我が猫、ネズミを捕える

私の家の猫「虹」「雨」の話。最近は、平均して1～2時間ほどの庭畑散歩をしている。雨で出られない日もある。先日「虹」が何かくわえて、部屋に戻ってくる。そして、おもちゃにして遊んでいる。それに「雨」も加わる。近くまで行って観察すると、子ネズミだ。最初は生きていたが、30分ぐらいうると、ぐったりしている。なおも遊び続ける。

それにしても、「立派」なもんだ。猫らしい。おかげで、我が家周辺でネズミをみかけることがない。でも、ネズミには可哀そうだが。

畑庭散歩に飽きてきたのか、散歩時間がどんどん短くなる。先日は、「雨」が来客の際にでていったままになった。私がない時の話。恵美子が気づいた時には、玄関にいたが、野良猫に追いかけられたようだ。疲れて、ぐっすり眠る。

夜の眠る場所も、私たちの寝室にすることが多くなる。私たちの両足の間のタオルケットの上がお気に入りようだ。



大人の雰囲気が出てきている。食事量も減り、太り気味が治ってきた。

このところの私たちの会話。「県内旅行の補助金が出るから、どこかに行こうか。」「猫がいるから、無理よ」「そうだね。やめておこう」「でも、誰かに餌やりだけ頼んでみたらどうか」「それもそうだな」……

それにしても、暇な私たちがコロナで余計暇だった。ところが、5月末から急にいろいろとスケジュールが入ってきた。500個のライチも、すぐにたくさんいろいろな人の口の中に入った。



2020年05月30日

「自粛」生活に区切りが付き始める 卓球など

ようやく自粛生活も終わる感じだ。

その第一弾は、卓球練習の再開。20日夜出かける。2ヶ月ぶりだ。夜8～10時の練習すべてにつき合うのは無理だ。なにせ、自粛生活中は、9時前後に就寝していたからだ。最初の日は、9時前に中座して帰宅した。正味40分練習だが、このくらいが心地よい。その後も正味60分ほどにとどめている。年相応だろう。

それにしても、「自粛」による練習不足で欲求不満をためこんだ仲間たちが老いも若きもたくさん集まってくる。そして、久々の運動で筋肉痛に悩む人もでてくる。

私は、二か月の空白だが、技術的な衰えはなさそうだ。次の楽しみは、試合の再開の第一弾で年齢別大会だが、6月7日予定が7月5日へと延期された。

テニポンの練習再開は、会場の玉城小学校体育館が使えないことがあって、玉城総合体育館で6月1日となった。たくさんの方々と再会するのが楽しみだ。

10万円給付申請書類が到着し、記入提出した。

一人二枚のマスクはまだだ。だが、マスクは、あちこちの店頭に並び始めた

6月下旬～7月上旬には、毎年しているオキリハ言語聴覚学科一年生のための対人関係づくりの4回の授業がある予定だったが、授業全体のスタート遅れたので、私の担当日も遅れそうだ。

5月の最終日曜日恒例の中山豊年祭は中止。

南城市「こどものまち」宣言策定委員会再開は、ようやく打ち合わせ段階になる。

例年、いまごろにある学童支援員研修の打ち合わせはまだだ。学童クラブは休校中の学童受け入れで大変だったから、それどころでなかっただろう。

こうして、振り返ると、4月の私の外出量は、例年の1割ほどで、5月は2割。6月は3～4割になるだろうか。以降、徐々に回復していけばいいのだが。これは、私の都合ではなく、私以外の都合で決まるので、なんともしようがない。

2020年05月11日

ゲームと料理の若者の「自粛」生活 アラスジケマンガイ モズク

「自粛」生活の話題いくつか

4月から大学入学し、一人暮らしをしている孫に電話をする。ゲームと料理に励んでいるという。ゲームはわかるが、料理とは意外な答えだった。いずれ味見旅行にでも行こうかと思う。



同じ頃、近くに住む甥の子どもが、「我が家のカレーが美味しいから、作り方を教えて」ということで、我が家訪問。恵美子の創造的なカレー作りを習う。かれも、高校一年生になったばかりだが、「自粛」生活で、学校HPで示された課題をする以外にやることがないので、ゲーム生活ではあるが、料理に関心をもつとは立派だ。かれは、我が家のハーブティーの愛好者でもある。「畑手伝においで」と誘うが、どうなるだろうか。

孫も、この子も、男性だが、料理好きとはなかなかいい。孫は農学部なのだが、この子には、将来選択として料理人をすすめる。カナダ移民で料理人はとっても有利だという話をする。半ば冗談のような話だが、こんな話を子ども達とするのも楽しい。会う人もほとんどいない日々の、楽しいひと時だった。畑仕事にすれば、なお素晴らしい。

先週は、佐敷の知り合い家族が来宅。富祖崎の浅瀬での潮干狩りでとれたアラスジケマンガイを手土産に。初めて見たし、初めて食べる。あさに似ているともいえるが、かなり違う。みそ汁にいれ、スパゲッティに入れる。かなりイケル。帰りは、テイートリーの大枝をはじめ、いくつかのハーブを持ち帰っていただく。

昨日は、ほぼ10年ぶりにモズク取りに出かける。新原の海岸から50メートルぐらいの浅瀬。3ヶ月分ぐらいを40分ぐらいで取る。

ところで、自粛生活が広がる3月後半から、このブログへのアクセスが増えている。「自粛」がゆとりを増やしているのだろうか。

自粛明けの生活がどうなるのだろうか、ということを考えるころになってきた。私はどうするのだろうか。

2020年05月07日

自粛生活の中で、私の生活リズムが大きく変化 早寝早起きの研究生活

自粛生活が始まって、もう2か月近くになる。

本年度不開講となった看護大学授業も含めて、外での社会的業務が激減した。不開講としたのは、私のような授業では遠隔授業ができないからだ。5月末まではほとんど自粛生活だ。いつ再開となるかは不明。ずっと続けているテニポン・卓球の夜8～10時の週三日の練習もない。外出は、買い物以外は、ほとんどない。

加えて、私の仕事部屋が猫の寝室となったので、彼らが就寝する8時以降、部屋で仕事ができない。ということで、早寝早起き生活が、一層進行している。9時前に寝て、5時前に起きることが多くなる。朝早く起きて、仕事やウォーキングをしている。猫が庭畑散策するようになったが、それに合わせて、私も庭畑仕事をしている。一日1～2時間だ。結果的に、研究の仕事の比率が増大している。

こんな生活が、2か月続くと、生活習慣化してくる。外での授業や会議、テニポン・卓球の練習がないのが異常ではなく正常になる。このまま「社会的活動やスポーツ練習がなくてもいいや」という気分になってくる。欲求不満がたまわるわけではない。「研究センターの生活を続けられればいいのではないか」とさえ思うようになる。

そのうち、なにか欲求がうまれてくるかもしれないが、自粛生活が終わるとどうなるだろうか。

研究生活は、「老い」について、「沖縄の子どもの福祉・教育・行政」について、という二テーマの基礎作業をしている。

「沖縄の子どもの福祉・教育・行政」は、できれば5月半ばから、このブログに小出しにしていきたいと思う。「老い」の方は、夏以降に掲載をはじめようかとおもうが、1年以上の長期になりそうな気配だ。

2020年05月03日

丹野清彦・千草さんが、近所に引っ越してくる



4月末、お二人が我が家から、私の足で1000歩という近所に引っ越してこられた。清彦さんとは30年以上前から、千草さんとはほぼ20年前からの知り合いだ。別々に存じあげていた。数年前に、私が琉球大学で授業をしている際に、清彦さんが突然現れ驚いた。琉球大学の教職大学院に務める事になったとのことだ。そして、千草さんと結婚なさり、彼女も沖縄の小学校で勤め始めるとのこと。

そして、家を建てる土地を探しておられた。散歩中の私が見つけた土地を購入なされた。設計は、当時我が家の隣に住んでおられて私が紹介した山口さんに依頼された。若い建築家だが、多くの人に注

目され、沖縄ではどんどん有名になられている。

ということで、ついに引越しにまで至られた。これから、これまで以上の長いおつきあいになりそうだ。

早朝散歩の際に、私が撮影したもの。下写真の丘の中腹の中央あたりに建物がある。この撮影直後、丘の上に朝日が出てくる。



2020年04月29日

新型コロナ対処の大変な事態のなか

で、「旧に復」しようとするのか、「旧」を変えようとするのか 都市の自然化

コロナ関係の事態は、いつまで続くのだろうか。感染や病気対処だけではない。関連して変更をよぎなくされた生産・生活が「旧に復する」のは、いつだろうか。「旧に復する」のでいいだろうか。金銭経済が話題の中心になりがちだが、教育を含め多様な活動がどうなっていくのだろうか。特に対人関係の変更が及ぼすものは大きい。

「旧に復する」のではなく、これを機に新たなありようを作り出す、あるいは不要だったものをなくす、といったことが並行して進むはずだ。

今回のコロナのように世界に広がる難題は、稀なことでないようだ。私の記憶の限りでは、ここ20年では数度目だ。気候異変や地震火山などによる大災害を加えると、毎年、どこかで世界的援助が必要な難題がまきおこっている。難題の恒常化とでもいえそうだ。このほかに、軍事衝突、経済戦争がある。20世紀はその方が大規模であったが、21世

紀は、もしかするとそうでない難題が前面に出てくる時代かもしれない。

それにしても、今回の難題は、資本主義経済が円熟し、都市化が圧倒的に進んでいる地域に集中的典型的に現れてきている。世界的にみてそうであるだけでなく、日本国内でも、沖縄県内をみてもそういえよう。

とすれば、社会のありよう、そして社会（人間）と自然のありようにかかわる構造的な対応が求められる。難問への対処には、いくつものレベルが併存する。世界レベル、国レベル、自治体レベル、多様な組織単位レベル、地域レベル、家族レベル、個人レベル。各々のレベルで行われる行動には、1) 権力にもとづく強制型、2) 自発型ないしは任意型、3) 共同協議型といった形がある。意外に、3) の型が注目を浴びていない。1) の上意下達型施策に、2) の個人がどう対応するかという方が話題になりがちである。

人間関係の問題が焦点になっているだけに、3) が無視されがちなのは、落とし穴とも言えそうである。

そして都市問題にどう対処するかに焦点を当てる必要がある。長い間、都市をいかに形成するかに焦点があてられ、田舎（農村）から都市への移動を作り出す方向に動いてきた。都市をなくすこと・減らすこと、都市から農村（田舎）への移動をどうすすめるかは、個人としての関心があったとしても、政治経済社会の関心事としてはとりあげられてこなかった。だから、近郊を都市化するなど、都市を広げるとか、新都市をつくるなどの動きは強力だったが、都市をなくす、都市を農村（田舎）化する動きはなきに等しい状態だった。人口減少動向は、この問題を前面化するはずだが、実際には登場していない。伝染病対処衛生管理にとっては重要なことだろうが、そうした話題もみかけない。

都市における生産・生活は、集中型効率型であるが、そうでないありようの追求が必要だ。

そして、自然を開発して都市化することが長期テーマだったが、その逆の、都市の自然化というテーマを浮上させる必要がある。

2020年04月25日

コロナウィルスのなかで、自然との関係・都市スタイルの問題を考える

コロナウィルスとの関りで心配事が多い、このごろの私たちの生活は、何も予定がないので、二人だけで生活する日々だ。出会うのは近隣の方々がほとんどだ。加えて、猫二匹だ。猫の体格は立派な成猫になってきたが、食量は減少してきた。日課になりつつある一時間の庭散歩も、だんだん飽きてきたようだ。室内外ともに、私たちにくつつく時間がふえてきた。完全な四人家族である。

こんな田舎生活のためか、コロナがあるからといっても、日常との差異はほとんどない。人口が少なく、緑が多い自然生活の良さが、私たちを救っている。歩くコースも多い。散歩中出会う人数も、多くて数人だ。野菜もある程度自給できる。

空気がきれいになっている。PM2.5がすっかり減っていることもあろう。PM2.5対策としてマスクが手放せない昨年までとは、状況変化が大きい。マスクの目的がコロナ対処に変わって、買い物など多数の人と出会う場所に出かける際に、マスクを着用している。昨年までのPM2.5向けのマスクがたくさん残っていたが、ようやくなくなりつつある。ところで、マスクは逆効果だという情報もあり、困ってしまう。

温暖化を促進するガスが減少するほどには至っていないであろうが、思わず、4月に入っての低温傾向の原因と思い

たくなる。

こんな時、大都市で生活している人たちは大変だろうと思う。工業生産、商業活動、金銭中心生活、便利至上主義での生活の大変更が余儀なくされているようだ。

そういう生活を変えようとする動きが広がっていくのだろうか。それとも早期に「旧に復する」動きが進むのだろうか。

と同時に、インターネットを使う動きが拡大している。商品購入、自宅勤務、授業などがそうだ。人間が直に向かいあい集まってする作業も、それらに代替されつつある。そのなかで、直に向かいあってやることの意味を見直していきたい。授業でいうと、説明提示中心の伝達型だと、それが容易なのだが、それでいいのだろうか、という問い直しが重要だろう。

2020年04月21日

対人関係の遮断 新型コロナウイルスをめぐっての動きで感じること

大学授業をはじめ、スポーツ練習も含め、予定がすべてキャンセルされ、外出自粛の日々だ。出会う人は、配達の人ばかり。出かけるのは、数日に一回の買い物ぐらいだ。ウォーキングが日課になっている。先日は、二人で近くの知念岬・知念御川に出かけて歩いてきた。良い天気なのに、数人しか見かけない。普段の百分の一以下だろう。

私たちは、常勤しているところがないので、これですむが、毎日出勤する人は、出会う人を減らすために大変な苦勞をしているだろうな、と思う。

この状況が、まわりの多くの人をおおっている。そのことで、壮大な時代「実験」が行われているようだ。

医療、行政、メディア、経済、都市問題、日常生活、人間関係など多様なレベルでの情報が渦まいており、多様な情報に翻弄される状況がみられる。私の場合は、テレビ・新聞・SNSなどと入ってくる情報もあるが、かかわる時間は短し、入ってくる情報も8割が無視している。世間離れしているのかもしれない。それにしても、多様な情報を受け取りつつ、それをどう処理し、自分自身の行動をどうしていくのか、最終的には個人の選択判断が要求される問題である。そしてその判断のための基準をどうするか、の問題がある。

これまでの日常生活の判断は、対人関係のなかで形成される面が多かった。私だけでなく、ほとんどの人がそうだろう。しかし、コロナ対策の主軸は、対人関係の遮断に焦点化されている。ビニールカーテンで仕切られたスーパー・レジが象徴だろう。別のアプローチはないのだろうか。

大学授業では、インターネットを使ってやるところもあるようだ。スキンシップさえ伴うワークショップで展開する私の授業では全く対応不能。もしそうなったら、授業担当を辞退するしかない。困ったものだ。大学ならできるところがあるかもしれないが、小中高校では、ほぼ無理だろう。試みているところもあるようだが。

大学にしても、それができるところでは、教師→学生という一方向の説明提示スタイルの授業を中心にしているところだろう。1990年代以降、あれほどそれを変えるように強調されていたにもかかわらず、コロナを理由づけに逆戻りするような印象さえ受ける。

2020年03月13日

つながりがますます濃密になる4人家族（私たちプラス猫二匹）

久しぶりに虹雨物語だ。二匹とも、すっかり大人の体型になり、体重も4キロ前後。活発な行動で、私たちを悩ませるのもピークを過ぎたようだ。オスの雨も、去勢手術を終えた。

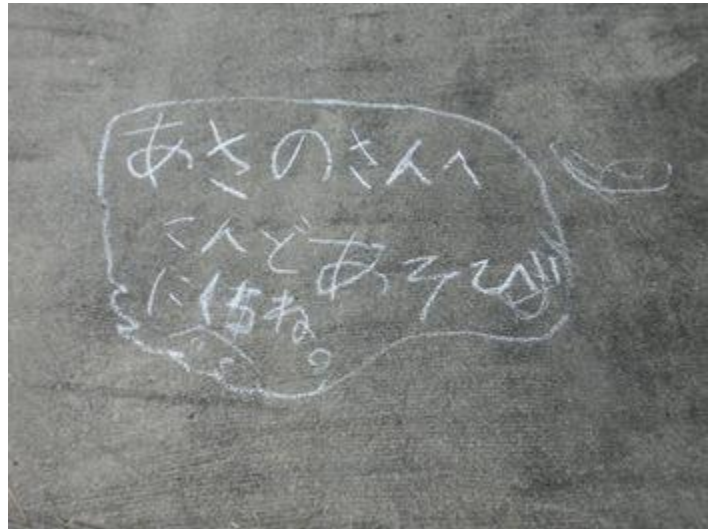
コミュニケーションが濃密になり、いろいろなことが通じ合えるようになってきた。「おいで」といえば来るし、名前を呼べば、口元や声で返事する。かれらも、「ご飯が欲しい」「ベランダに出たいので、戸を開けて」「抱っこしてほしい」などのメッセージを送ってくる。

私たちにべったりとくっつくことも増えてきた。2晩だけ、私たちの部屋で眠るが、過剰にくっつくので、元に戻った。今は、私の仕事部屋が彼らの寝室になっている。「虹」は、私の椅子がベッドの定番だ。

客人とも仲良くする。客に抱かれることもある。

隣の可愛い姉妹二人が遊びに来る。ある日、写真のような文字が、我が家の目の前の駐車場に書かれていた。翌日、我が家を訪問。彼女たちの元気の良さに、虹雨は圧倒される、特に大声にはびっくりのようだ。しばし、部屋の奥に隠れてしまったことも。

去勢手術後、虹雨の相互関係も一層濃密になっている。



こんなつながりの深まりは、私のつながり感性をも深めてしまった。去勢手術から帰った「雨」を抱いていると、なぜか、私の眼から涙が出てきてしまった。私の感性も、大変「素直」なものになってしまった。

余談 私の孫一号が大学合格した。なぜか父親（私の息子）と同じ大学・学部だ。こんな風に行くと、私が54歳の時に生まれたこの孫が次の世代（ひまご）を生み出すのはいつのことだろうか。そんなことを想像してしまう年になってきた。

2020年03月07日

日程中止ばかりがつくりだす空白 家事分担の変化

私の外出予定の90%以上が中止日程ばかりになった。沖展も中止、オープンガーデンも中止。スポーツ練習も中止だ。学校体育館と教育委員会管理の体育館の使用中止で、毎週の卓球・テニボン練習がお休みになる。予定された試合も中止。

おかげで、ウォーキングの毎日だ。そして、時間の空白のため、原稿書きはぐんぐん進むが、書き過ぎて、頭がパンクしそうだ。気分転換をはかるためにどうするか。庭畑作業を増やすのも一案。しかし、2月の記録的少雨とは対照的なほど、雨が降り始めた。

別日程づくりの作戦展開中。友人の畑見学もその一つ。

そんななか、私たちの生活は相も変わらず進行中。ちょっとした変化というと、家事分担の変動。といっても明確ではない。その時の「はずみ」で決まる。

恵美子が清掃のほとんど、私が庭畑のほとんど、というのは変わらない。変わってきているのは、私が担当することが増えた食事づくり、恵美子が担当することが増えた洗濯。

私の食事作り。朝——みそ汁 このスタイルは、40年以上変化なし。ここ10年は、ゆしどうふ使用。

昼夜—— 焼き魚。魚汁。具だくさんの沖縄式味噌汁。野菜は庭のものと買ってきたものを合わせる。

ご飯は玄米（恵美子が炊く時は白米） ここまでは、変化が少ない。このところの新しい形は、次の物。

気密性の高い鍋に、野菜と肉を入れて煮込む。最後にチーズを入れる。これが結構いける。

余談の一つ。人間ドックで、身長がますます縮んでいることが判明。170センチ。最高時の173.5から随分落ちたものだ。がっかりである。

2020年02月24日

2020年度の仕事 これからの予定

恒例の確定申告も終えた。年々収入減なのは想定内だ。そして赤字化も想定内だ。

いよいよ年度末作業と次年度準備へと移り始める。といっても、ここ数年、大きな変化はない。次年度の看護大学授業は、4～5月に集中することになった。沖リハ、学童支援員研修、同友会大学講師なども、例年通りだろう。

今は、南城市史「民俗」編の原稿の仕上げをしているが、次年度は出版に合わせた調整整理作業となろう。そして、「こどものまち宣言」策定の仕事を中心にすわりそうな気配である。

それらに区切りがつきそうな2021年からは、何に取り組めるか、いまから楽しみにしている。「老」を一つの焦点にしたいと思うが、これまで15年かけてきた南城をめぐる作業を、総まとめする仕事も魅力的だ。

そんななか、ありがたいことに、いろいろと依頼される仕事が出てくる。今年について見ると、JICAでのヨルダ

ン教育関係者への『日本教育史』の話など、想定外の依頼が結構あった。想定外だけど、それだけに新鮮な出会いがあって楽しい。そして、この3月22日は大阪で、生活指導・集団づくりにかかわって、学校教師、研究者を対象に話す仕事飛び込んできた。私の1970～2000年代前半の仕事を振り返り再考する絶好の機会だ。合わせて現在の地点にたつて将来の展望を考える絶好の機会ともなろう。といっても、何を話すかの準備はこれからだ。

また、5～6月には、今年定年を迎える卒業生たちとの出会いが企画されている。1970年代末に大学入学した卒業生たちだ。

朝のうたた寝で浮かんできたこと。

「不足を感じて、もっと頑張ろう」「足るを知り、満足感に浸る」、この両者の間を行きつ戻りつする現在の日々

2020年02月13日

このごろ

南城市史の原稿書きの日々だが、他にもいろいろとある。

9日 中村透さんの一周忌の会があり参加した。音楽関係者が中心になって集まっておられた。4月26日には、中村透の音楽をテーマにしたコンサートがシュガーホールである。

10日 私が使っているラクラクホンの使用電波の終了をめぐる説明を聞きに行く。以前は何度もスマホ購入のお誘いがあったが、今回は諦めてくれたようだ。あと数年は今のままで行くつもり。私の携帯は、擦り切れて貫禄十分だが、使用に支障は全くない。擦り切れは「箔がついた」と思っている。

同じ10日、歯医者に行く。これで、半年以上途切れなく通い続いたことになる。なにせ、5本以上の修繕が並行しているので、仕方がない。まさに加齢で、あちこちの歯が擦り切れ、ひび割れしている。

11日、恵美子のお友達一行が来訪。恵美子は外出中。いろいろと歓談し、庭見学など、いろいろと。我が家製のコーヒーを飲んでいただいた。

12日 学童支援員の勉強会「保健室」一年余りにしたことを集大成する冊子づくりの相談。学童の子どもたちが考えたネーミングと表紙絵、そしてタイトルの筆文字に感嘆の声。

次回は3月10日。冊子完成へ

このところの訪問者には、カニステルの実を差し出しているが、知らない人が半数。試食していただくが、反応はまちまち。珍しさだけは、共通している。

虹・雨は客人にも親しみを感じ、じゃれつく。なぜか女性が大好き。

2020年01月29日

初美容室 膝痛対処体操 猫との密着度

上昇とコミュニケーション



先日、生まれて初めて美容院で頭髪を切ってもらった。テニポン仲間がやっている美容院だ。床屋とそれほど変わりはないと思うが、髭剃りはないのだそうだ。といても、「理容」ではなくて、「美容」なのだ、という印象を受ける。「美容」の成果がでていのかどうかは、私本人にはわからない。

膝痛に対処する体操

このところ、関心をもってやっているのは、膝痛対処の体操だ。昨年6月にテニポン中に違和感をもって以来、軽い膝痛がある。もう一つ、スポーツ中や畑仕事中に転ぶことが多くなったため、足首周辺が弱くなっているという実感がある。

そこで、整骨院にでかけたり、鍼灸をしてもらったりして、症状は軽くなってきている。日常生活も、テニポンや卓球にも影響はない。といても、若いころから膝痛との付き合いは長い。そこで思いついたのは、膝痛対処のストレッチ・体操をすることだ。

ウェブサイトの検索で「膝痛・足首・体操」でヒットして出てくる体操を順々にやっている。結構ヒットし、10余りの体操（ストレッチなど）があるが、原理的には似たものが多いので、いくつか絞ってやっている。それをして一か月近くなるが、状態はどんどん良くなり、膝痛は治まったようだ。それでも、もう少し鍛える必要を感じるので、もうしばらく続けようと思う。

こういう類の体操は、最近では姿勢矯正（とくに猫背）と喘息対処のものをやって、それなりの成果を上げている。こうしたことは、若い時もやっていたと思うが、最近は対処が上手になっており、成果の上がり具合もよい感じだ。

虹雨物語 我が家の新家族、虹と雨の部屋を移動した。一週間前までは、我が家の客間の和室を使っていたが、それを、私の仕事部屋に移したのだ。仕事部屋は、小さなベランダとつながり、エレベータールームともつながっているので、変化に富んでいる。そのためか、早めに順応した感じだ。これまでも、昼寝を仕事中の私の背後ですることが多く、慣れていることであろう。

猫たちとの密着度上昇、コミュニケーションもレベルアップしている。声をアイコンタクトで、私たちの方からだけでなく、猫の方からもメッセージを送ってくるので、交流が進んでいるようだ。慣れた客人とも、コミュニケーションがとれるようになってきた。「あいさつしたら返事してくれた」と大喜びの客人も出てきた。

ところで、猫の陰に隠れて、長く飼っているグッピーの存在感が薄れがちだが、100匹近くが、庭の池と水槽で元気に頑張っている。メダカが、トンボの幼虫のヤゴにやられてしまったので、その分も頑張っている。



昼寝中 上は虹(メス 2.9キロ) 下は雨(オス 3.3キロ)

2020年01月07日

突然のおもいつき 物語・小説を書く

現在、進行中の南城市史の執筆は、今年中、おそくとも来年初めまでには終わりそうだ。そして、「こどものまち」宣言は、来年前半にはメドがつく予定だ。

ということで、大きな仕事が終わると、次に何をするか、ということになる。

そこで、突然の夢がわいてくる。物語・小説を書くということだ。南城市のことでもいいし、多様な人生模様でもいい。

南城市については、観光審議会会長をしていたときに、「南城物語をつくってみたら」という提案を半分冗談交じりで行ったことがある。

人生物語は、ブログで、10年ほど前に、そして2017年末から、若者の人生創造の物語を連載したことがある。

思い起こせば、15歳、16歳ごろの将来希望は「小説家」だった。それに、孫の一人も、なぜだか知らないが、将来希望で「小説家」をあげている。私自身は、高校一年の時に、小説一本書いたことがある。「私小説」めいたものだった。島崎藤村を読みふけたことが反映していた。高校三年の時には、演劇脚本を書いた。「社会派」タイプのものだ。

いずれも自己満足はしたが、たいしたものではなく、知らぬ間に「小説家」志望は消えた。

私の文章は、長い間硬いことで「定評」があった。40代ぐらいから、いろいろと試みて、ようやく現在に至ったが、小説・物語を書くには程遠い。相当な修行が必要だろう。むしろ、このブログに書きためてきたことを加筆する方がいいのかもしれないと思う。

いずれにしても、しばらく(1～2年間)、思いめぐらせてから、どうするか決めるしかないと思う。

2020年01月03日

私の正月風景 原稿書き 親戚相互訪問 南城のNHKテレビ登場 ムーチャー

私の正月風景は、日常生活とほとんど変わりはない。猫との戯れ、南城市史民俗編などの原稿書き、ウォーキング、畑作業など

違うのは、卓球・テニポンの練習がないこと、親戚との相互訪問、南城が登場したNHKテレビを見た事、年賀状・

年替わりの通信作成といったところ。

ウォーキングは、距離をのぼしてグスクロード公園まで。そしてヤハラヅカサ一帯。1日のNHKテレビに登場した場所だ。写真、左からアドキ島・久高島・ヤハラヅカサ碑

もう一つ、2日はムーチャー。ということで、いっぱいムーチャーを食べた。売っているムーチャーの味のレベルが上がっているようで、とても美味しい。

猫は、ますます元気で、屋外へのあこがれが強く、スルッと飛び出す。それを捕まえるのが、私の仕事になりつつある。

2019年

日々の暮らしの中に猫登場

2019年12月30日

恒例の「年越し」のお便り 猫、南城市史、こどものまち、卓球・喘息、学童クラブなどなど

毎年、年末年始に、年賀状代わりに出す「通信」を、次のように今年も作成した。

いつもの通信です。2019年もいろいろとありました。

☆ 特記事項1) 猫二匹(虹・雨)を加えて、四人生活です。あれほど猫嫌いだっただが「豹変」して、「ひまご」のように「猫かわいがり」する日々です。海岸沿いのさとうきび畑で寂しくしていた猫を、恵美子が連れてきました。推



定生後二か月。その後の私たちの生活は大変化です。雨が降って虹が出てきた時に、我が家に来たので、虹・雨です。赤ちゃんが今では少年少女になりました。

☆ 特記事項2) ここ10年余り、南城市の仕事をいっぱいしています。10月にできた南城市こどものまち宣言策定委員会の委員長になりましたが、数えて6つ目の委員長・会長です。とても充実した委員会です。市の重点施策ということもあって、宣言をするにとどまらず、実際の施策に踏み出す取り組みまで考える委員会です。市役所職員になったかのように、いろいろ

なところに顔を出しています。

もう一つ、南城市史「民俗編」の原稿、数百枚以上書いています。2021年発刊予定です。南城市にある71の集落の暮らしの歴史です。意外に手が付けられていない分野で、興味津々のことだらけです。面白くてたまりません。そして、これからの集落をどのようにしていくのか、という問題に直結しています。

私が住む中山集落の「中山おこし」にも参加しています。人口200人に満たない小さな集落ですが、今後の展開がとても楽しみです。

☆ 特記事項3) 2019年正月に体調不良になりましたが、かかりつけ病院に行ったら、「気管支喘息」だということで、薬を吸入し始めたら、劇的に改善。それどころか、こんなに体調がいいとは、何十年ぶりかのことになりました。おかげで、卓球練習を倍増し、加えてテニポンという球技も始めました。テニポン大会に出て、「最高齢出場者」ということで、琉球新報のインタビューを受け、新聞掲載されました。

卓球の方も、人生史上最高の実力になってしまいました。沖



縄県民体育大会に南城市代表で出場し、ここでも「最高齢者」でした。沖縄県の年齢別大会ではこれまで負け続けた人に勝って、70代前半の部で準優勝しました。

ずっと以前から気管支喘息があったようで、ただの気管支炎と勘違いして、何十年と過ごしてきたみたいです。

☆ 例年通りのこと 沖縄県立看護大学非常勤講師に加えて、学童クラブ支援員研修講師を沖縄県内各地で担当しています。他にも、ワークショップなどの要請に応じて、出かけています。『暇人』のつもりでしたが、結構忙しくしています。

そんななか、中村透さん、富田哲さんと、長年の友人を失ったことが残念でたまりません。改めて、自分自身の人生を振り返りつつ、これから先の楽しみ方、人生づくりを考えるこのごろです。

庭畑は相変わらず楽しんでいきます。この1月はカニステルの大量収穫、着生のカトレヤ満開が話題になりそうです。

2019年12月21日

長男裕樹の命日と誕生日 43年 46歳

私たちの長男裕樹は、1973年12月19日生、1976年12月13日死去。今日は46歳の誕生日。といっても、3歳になる前の写真しかないので、46歳のイメージができない。

入院生活の際にお世話になったかたが、今年も来宅してください。大変だった1年間近く、私たちはとっても助けられた。そのころの思い出を、今も語られる。病院で、読み聞かせをした本の文章を裕樹が暗記していた話など。

その本を二冊贈呈される。「こすずめのぼうけん」「しょうぼうしゃじふた」（いずれも福音館）

それにしても、この体験が私たちのその後の人生を作り出す大きな力になったことは確かだ。その際の恵美子の日誌をもとに、私が少し書き添えて、『裕樹は生きている』という小冊子をつくった。

でも、その頃の私たちを知る人も大変少なくなった。



2019年12月18日

行方不明事件 トイレ場所の開発 トントントン 虹雨物語9

このところのできごと3つ

1) 宅配の受け取りで玄関ドアを開けた時に、さっと「外出」することがある。虹、雨、それぞれ1～2回。これまではすぐに見つけ連れ戻す。

今回の雨の騒動は、時間がかかった。外出したことに私たちは気づいていない。客の訪問の際のようだ。

外出して2時間近くたった後、私が仕事をしている近くに、虹が鳴きながら寄ってくる。私には、「雨がいないんだ。どうしよう」と聞こえた。それから、虹と私で、搜索開始。なんども、家じゅうを、「雨！ 雨！」と声をかけながら探す。

「まさか外出していないだろう」と思ったが、念のために、玄関ドアを開けて、「雨！」と呼ぶ。すると、どこからともなく、駆け寄ってくる。

よかった。私は涙が出そうになる。虹と雨は、鼻をくっつけて会話。ともかくほっとする。ちょうど昼寝の時間の外出。どこにいたんだろうか。3時間もの間。詳細は不明だ。その日は虹雨ともに早く眠る。

それ以後、雨が見えなくなると、不安になり、探す。見つけてほっとする。

それにしても、虹がよく鳴くようになった。以前は、大声で鳴くのは雨だけだったが、このごろは二人で鳴く。ハモルこともある。ご飯が欲しい時だ。

抱っこして、さすってほしい時には、近くに来て鳴く。いろいろなメッセージが、少しずつ聞き分けられるようになってきた。



2) 最近、トイレの量が激減する。変だなと首をかしげる。

パパイヤなどを植えてあるベランダの大鉢の表面の異常に気付く。表面においてある堆肥が混ぜ返してある。よく観察すると、そこをトイレにしている。鉢2カ所を使っている。鉢での堆肥作りにもなるし、臭いが室内にこもらないので、容認する。

ベランダの野菜や植栽が植えてある大きな植木鉢を歩き回り休むことも好きだ。花を食べることもある。たくさんやってくるミツバチと戯れることも多い。

3) トントントン

雨は、私に抱っこされるのが好きだが、虹はそうでもなかった。そこで、虹を抱っこして、お腹や背中をトントントンする。40年ぐらい前、わが子が赤ん坊の時によくやったことだ。そうすると、眠りにつくことが多かった。虹もそうすると、飛び出さないで眠り始める。

2019年12月14日

鍼を埋める初体験 大失敗「石鹼を食べる」 南城市史民俗編第一次原稿できる

体調がいいものだから、卓球やテニポンの練習、試合出場に励む。励みすぎかもしれない。週3～4回のペースなのだ。昨年までの1～2回とは大違いだ。『お陰』で、6月のテニポン中にひねった膝の痛みがなかなか回復しない。

そこで、鍼灸治療を試みた。11月の卓球試合会場の浦添体育館の一階で、鍼灸治療のキャンペーンをしていた際に、15分の体験治療をしてくれた鍼灸師さんのところへ出かける。

全身に鍼を打ち、最後にお灸。痛い左膝には、針をうちこんだままにする治療をしてくださる。鍼といっても、1センチくらいの長さのものを、横に差し込むという感じだ。痛みが治まってくる。しばしそのままにしておくと、一層改善するとのこと。

体調がよくて、運動をかなりしているものだから、お腹がすくことが多い。一昨日、間食になるものを探していたところ、恵美子が郵便局からもらった美しく可愛い「粗品」をクッキーといていたことを思い出して、かぶりついた。驚いた。すぐに吐き出したが、何かが口のなかに残っている感じがしたので、歯磨きをする。そしてうがいをする、泡がぶくぶくと出てくる。

とんでもない失敗をしたものだ。

繁忙期が完了した。今、スケジュールが多いのは「こどものまち」宣言策定のための、多様な方々からの聞き取り作業だ。現在3つに参加し、このあとも予定している。これについては、また改めて書くことにする。

ということで、原稿書き専念へと移ってきている。中心は、南城市史原稿だ。13日、第一次原稿が完了した。A4で、190枚。24万字になってしまった。これから、それを原稿らしくする作業を2月いっぱいをめどに進める予定だ。それから、ほぼ一年間かけて、補充作業と加筆修正を経て、完成し印刷にまわることになる。発刊は、2021年度の子定である。

2019年12月10日

PM2.5が苦にならない 自動車のパンク ウンサク（神酒）

急に寒くなった。平年気温より5度も低いこともあった。私は数十年にわたって、この時期に体調を崩していた。気管支炎になっていたのだ。しかし、今年は体調不良とは縁遠い生活。ずっと気になっていたPM2.5も、気にならない。痰などの症状も全くない。気管支喘息の治療効果だろう。

雨が降って寒い日々が続いた後、太陽が出てポカポカになり、ひなたぼっこを猫と共にしていると至福感が訪れる。

自動車を運転していると異音が聞こえてくる。家について、パンクを発見。この前のパンク経験は、10年以上前か、20年以上前か、記憶にない。その時はスペアタイヤに替えたはずだ。ところが、今の車にスペアタイヤはない。思案

にくれて、マニュアルを読むが、夜になって暗くて対応不能。しようがないので、保険会社のロードサービスに相談。レッカー車がきて、修理工場へ。釘が刺さったようだ。結局はタイヤ交換となった。

久しぶりに、あわててしまった。こういうことが苦手になるのも、加齢の一つだろう。

8日は、市役所隣の駐車場で開かれた「豊年美味」を訪れる。昨年の第一回に引き続く。そこで、はじめてウンサクを飲む。集落行事に欠かせない神酒だ。米とはったい粉を混ぜて、麴を加えて発酵させてつくるという説明を聞いた。酒になる前のものを飲んだ。結構美味しい。これを清涼飲料水で販売してはどうか、という声もでる。作るのが面倒なので、近年では、行事にはヨーグルトやカルピスで代用している話も聞く。

ロシア料理も初出店。ブリヌイ、ピロシキ、ボルシチをいただく。何十年ぶりのことだろうか。

私たちが猫に夢中だし、かなりの美人・イケメンだという噂を聞きつけて、猫を見にくる来客がいらっしやる。猫たちは少々恥ずかしくて隠れたりする。そのうち「雨」は客に抱かれたりもする。「虹」はまだだ。親しい友達づくりに猫が応援している感じだ。

2019年11月30日

信頼・安心・「ずっと消える」 虹雨物語8

我が家に来て2か月半。生後4ヶ月半。

虹雨を観察していると、信頼・安心という言葉がびったりくる。虹と雨との関係でいうと、プロレスごっこまがいのじゃれ合いをしているかと思うと、相互に毛づくろいし合っている。片方の上に、もう一匹が寝転んでも、拒否はしないで、眠りあっている。

二人の寝姿は、多くの場合、腹を丸出しにして、長くなっている。これは、全く無警戒なのだそう。

私たちとの関係でもそうだ。全く警戒はしない。怒る姿は見たことがない。なにかまずいことをした時は、その場から離れさせるが、抵抗はしない。

ということで、信頼・安心の関係だ。と同時に、何かをしても、「ずっと消える」。これが猫の特徴なのだろう。





執着しないのだ。抱っこされていて、気分良さそうだな、と感じる真っ最中にどことなく消える。

先日は、虹が「ずっと消え」て、どこかにいってしまった。二人で家内外を探す。しばらくして、私たちの寝室から「ずっと」現れる。

こんな猫の姿に、ようやく慣れてきた

それにしても、元気真っ盛り。二匹がお互いに構い合うから、虹・雨も、そして私たちも助かる。もし一匹で飼っていたら、対応が大変だったと思う。

夢中の遊び。虹は、ベランダで枯れ葉を見つけて、室内に持ち込んで、じゃれ合い遊びをする。室内飾ってある花や枝葉をくわえて取り出して遊んだりする。その一つの大きな枝にいっぱいの細長い葉のついたものを好む。それを私が切り出してきて、それで、猫たちにじゃれさせる。高いところにぶら下げる。興奮状態極まれりとなる。



最後の写真は、衝立に登って遊ぶ光景。大きな葉を衝立にぶら下げると、飛びかかったり、かじったりして、いろいろと遊ぶ。ついに衝立が壊れてしまった。

2019年11月10日

排泄上手 大仲良し 虹雨物語7

猫大嫌いの私の豹変のきっかけに、岩合光昭の「世界猫歩き」がありました。さらに迷子猫を探す「猫探偵物語」がありました。私の猫観が変わってしまったのです。

その一つに猫の「排泄上手」があります。猫トイレを用意したらすぐにそこでするようになりました。2回だけ失敗



がありました。一回は来たばかりの時でした。もう一回は、猫の爪切りの際に失敗して痛い思いをさせたので、「おもらし」をした時でした。不思議なくらい、トイレできちんとするのです。

私は、毎日猫トイレの排泄物処理をしているのですが、面白いことに、その最中に虹はトイレをします。

二人は、大仲良し。お互いに毛づくろいをし合います。頭を重ねて眠ることもあります。目覚めて、プロレスごっこに変わることもあります。

もうすぐ生後4か月になり、すっかり大きくなって、一人前の顔とふるまいを日々積み重ねています。

2019年11月01日

大きな事が続く中で、「このごろの私」

10月はいろいろなことがありました。長年の友人、富田哲さんの逝去。思い出と共に、彼が作り出した巨大なページについて書こうと思って、時間が経過しました。そして、10月末の首里城火災。1980年代の再建論議以来、私もそれなりの関心を持ってきました。沖縄（琉球）の象徴的存在です。象徴的存在には、摩文仁をはじめ、いくつかあります。それをどう考え受け止めるか、それについても書きたいことがあるのですが、時間が必要です。

現在の私の生活は、いろいろな執筆を中心に回っています。その中軸は、南城市史民俗編の執筆です。すごい枚数の原稿を執筆中です。今、作業の山場を越えつつあります。年を越せば、かなり形が見えるものにしていきたいと精力的に仕事をしています。

加えて、南城市の「子どものまち」宣言策定の仕事が、10月から始まりました。1日も、このことの打ち合わせで市役所に出かけました。これも大きな仕事です。

こんな時、ヨルダンの教育関係者に、日本の教育について話す想定外の仕事が舞い込んで来ました。「ひょいひょい」といようなことが舞い込むこの頃ですが、これは全くの想定外でした。

ということで、富田さんのこと、首里城のことを書くのは、しばらく時間の猶予が必要です。

体調の方は快調ですが、11月23日の県民体育大会の選手になってしまったものですから、卓球「猛練習」中です。若い人にまざってやっています。こんなに練習するのは、卓球を始めて40年以上になりますが、初めてのことです。11月は、それを加えて、全部で3つも試合に出ます。

庭畑は、秋冬の植え付け作業のピークです。

こんな日々ですが、猫との生活を楽しみながら、日々、元気よくやっています。今も、膝の上にいる「雨」君見守られながら、キーボードを叩いています。

2019年10月29日

コミュニケーションとスキンシップ 虹雨物語6

猫と、こんなにコミュニケーションができるとは、全くの想定外でした。名前を呼ぶなど声をかければ、返事の鳴き声をします。何か欲しい時に、こちらに鳴き声を向けます。

食事を欲しい時、くすぐるなど構ってほしい時のメッセージは、よくわかります。

就寝前に「お休み」を言う時の、寂しそうな顔つきは、なんとも言えません。

我が家は客人が多いのですが、人見知りをして、私たちにくっついてきます。客に馴れると、少しは近づくようになりますが。

スキンシップもいっぱいしています。私からすると、相手もスキンシップしてきます。

つい最近まで猫嫌いだった私にとっては、猫の目つきが冷たく刺すような印象だったのですが、それが全く変わってしまいました。目つきにメッセージを感じ、それに私も反応するようになってしまいました。私の「豹変」です。

虹雨共に、私たちと居る時、安心感に包まれています。恐怖心などはないようです。唯一恐怖を感じるのは、ドアです。虹は、ドアに挟まれて大声で鳴いたことがあります。それ以来、ドアの開け閉めがあると、1メートル以上離れま





す。網戸に挟まれたこともあるので、網戸の開け閉めの際も、距離を保ちます。雨は、そんな経験がないので、ドアの開閉でも、ドアからは離れませんが、外に出ようとはしません。

ベランダなどはじめて連れていったところでは、未体験なので緊張して固まっています。でも、慣れてきて、大好きな遊び場になっています。

つい最近、店頭で見つけた「猫語レッスン帖」大泉書店2016年を読んで、「なるほど、なるほど」と感じています。

2019年10月22日

大運動会 じゃれあい 遊びつくり名人たち 虹雨物語5



大運動会と書きましたが、まさにその通りです。全速力でおいかげごっこをします。階段の上り下りのスピードも尋常ではありません。高い所への上り下りもすごい。朝食の準備をしている私の肩の上までも登ってきます。その時は、爪を立てるので、少々痛いのですが、我慢します。

追いかげごっこの途中で、低姿勢のにらみ合いをすると、プロレスごっこに移ります。くんずほぐれつ、上になった



り下になったりと大変です。二人の体力体格がほぼ同じなので、勝敗はありません。どちらかが体調不良の時は、不良の方が「ひく」こともあります。

プロレスが、相手の撫でっこ、毛づくろいに移ることもあります。相手の尻尾で遊ぶこともよく見かけます。カーテンを使っての「かくれんぼ」は、見ている楽しいものです。カーテンの下から、顔を出して、相手の気を引こうとします。

探求行動も、すごいものです。動くものには興味津々です。虫をとらえることもあります。カメラのひもも遊び相手になります。絨毯の下に手を出して遊びます。籠の中、段ボールの中に潜り込みます。

動くものをおもちゃにして遊びます。植物の葉っぱを取って遊ぶことも、よくあります

二人で遊ぶのと、一人で遊ぶのがあります。一人が遊んで、もう一人がつられて動くこともよくあります。完全に室内で生活しています。時々、抱っこしてベランダに出ることがありますが、室内では、私たちの寝室と仕事部屋は立ち入り制限しています。食卓の上もそうです。制限区域にいくと、連れ戻しますが、抵抗することはありません。写真は、9月末から10月中旬までの時間順に配列



2019年10月15日

日課 虹雨物語4

虹雨が家族になって一か月。体重も1キロを超え、大きくなったという実感を持ちます。人間にすると5歳ぐらいか

左下 9月19撮影

右下 9月24日撮影



な。生活リズムも安定してきました。

6時前に起床。正確にはわかりません。私が、彼らの部屋のドアを開けると、二人で大声で鳴いて、私の方に向かってきます。私が階段を降りてくる足音で気づくのでしょう。そして、キャットフードを与えます。

食べ終わると、リビングにやってきます。私の朝食で、おねだりです。味噌汁に入れた小魚と、玄米ご飯を期待しているのです。

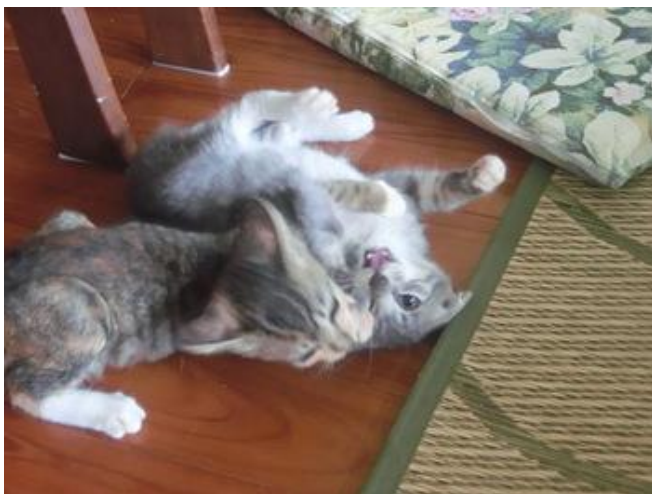
それを食べ終わると、大運動会を2時間ぐらいます。

9時を過ぎると、静かになって、うたた寝の時間が続きます。途中、眼が覚めて、昼食タイムです。そして、またうたた寝です。

4時ごろから動きが活発になって、再び大運動会です。

6時ごろに食事です。そして、7時ごろ、私がドアを閉めて、電気を消しておやすみなさいです。「もっと遊びたいのに」という、顔をしながら「おやすみなさい」です。

こんな日課ですが、私たちが虹雨と付き合うのは、一日あたり正味1～2時間でしょう。いや、もっとかもしれません。その時間だけ、テレビを見る時間が減りました。私の場合、テレビ視聴時間が限りなくゼロに近づきました。



9月30日撮影



10月14日撮影

2019年10月10日

虹＝めす、雨＝おす 動物病院で判明 誕生

日決まる 虹雨物語3

9月17日撮影





家族になって三日後、動物病院に行きました。そこでわかったことです。

虹=めす、雨=おす

体重600～700グラム 生後2ヶ月

そして、出会いの9月15日の二か月前の2019年7月15日が誕生日となりました。

虹の目やにがひどかったのですが、猫風邪だということで、注射をしてもらいました。閉じがちな目も、数日後にはパッチリ開きました。雨は、ぱっちり開いた虹の目よりも、さらにパッチリです。二人とも、眼が魅力です。

蚤のうんちが見つかりました。そこで、ノミ・ダニ駆除のレボリューションという薬を塗りました。

その一週間後、再び動物病院に行きました。風邪は治ったようで、すべて順調とのこと。そこで、予防接種をしました。動物病院の費用は予想通り高額ですが、必要なもので、やむをえません。

100円ショップで買ってきた首輪をしたのですが、いやがるので、相談したら、ない方がいいとのこと、外しました。

写真上は雨、下は虹 いずれも9月19日撮影

雨は、ロシアン・ブルーという種の血をひいていて、グレーの色をしていることも、獣医さんに教えてもらいました。三毛はメスだけなので、虹は即座にメスということになりました。私は双方ともにオスだと推理したのですが。

動物病院では、いろんなことを教えてもらいました。獣医さんだけでなく、助手の方、他の飼い主の方からも、です。その飼い主さんの猫は、20歳、人間なら90歳代まで生きていたそうです。となると、私・恵美子と雨・虹、どちらが長生きするかという話になります。



2019年10月05日

初めての猫と人間との共同生活 虹雨物語2

恵美子と誠は、犬を飼うことを何回もしてきましたが、猫と共同生活をするのは初めてです。3、4年前に、知人が、猫を飼うとハブが寄り付かないよと勧めるものですから、そのころよく通りかかっていた野良猫を手なづけようと頑張りました。結局は無理でした。でも、一日にほぼ一回は餌を食べに来ました。そのためかどうかはわかりませんが、それ以降、私たちの庭畑にはハブは出てきていません。その猫は、チュラマヤー（美猫）と名付けて

いました。2年ほど、通りかかっていたのですが、結局はどこかへ行ってしまいました。

チュラマヤーを手なづけるために、一冊の猫の本を買ってきて読みましたが、チュラマヤーの時は結局役立たずになりました。今回の虹雨の共同生活が始まった時には、大役立ちでした。

さっそく、子猫の餌とトイレ用砂を買ってきました。一日もすると、元気を取り戻してきて、あちこち動き出し始めました。はじめは、誠にハズ対策の魂胆があったので、室外中心という考えだったのですが、すぐに室内専用生活になりました。誠が読書用の部屋にしていたところが、新顔たちの生活場所になりました。

雨 体重620グラムほど

虹 体重650グラムほど 前ページ下写真

右上写真は、虹雨がくっつきあって眠る

いずれも9月16日撮影 共同生活開始翌日

それから20日たち、どんどん大きくなり、今では1キロ近くになっています。



2019年09月29日

虹・雨と私たちとの出会い 虹雨物語1

これは、虹と雨と恵美子と誠の物語です。

9月15日朝8時過ぎに、私たちは4人家族になりました。



まず、出会いから話を始めましょう。

朝恵美子が散歩に出かけました。雨が時々激しく降る朝でした。帰りに、猫一匹を連れてきました。その時、雨は止み、西の空には、虹がかかっていた。家にいた誠も虹をベランダから見てました。

右目がしょぼしょぼしている以外は、なかなかイケル可愛い三毛の子猫でした。即時に家族に迎え入れることになりました。「まだ、もう一匹いる。連れてこなくちゃ」と恵美子はまた出かけました。その時は、再び雨が降っていました。来たのは、グレーのハンサムな子猫でした。即時に家族にな

りました。

静かな老人夫妻の家族が、老人と幼児の4人家族になりました。名前は虹と雨と決まりました。その時は、新家族の性別が分かりませんでした。

可哀そうな捨て猫ですが、多分、その朝か前夜に二人ボッチになったのでしょう。海岸沿いの農道脇のサトウキビ畑の中でした。毎年のように、そのあたりには捨て猫がいます。

(9月15日撮影) 左が雨 右が虹 虹の右目は風邪のため、半開き状態



(9月15日撮影) 誠の腹の上にいるところを撮影

2019年09月27日

家の手入れ オオジョロウグモ

この家に住んで15年が経過した。いろいろな個所の点検修理が必要となり、その工事が連続している。

8月の下水道工事は、大仕事になり、想定外の出費になってしまった。

他にもエレベーターの点検、ピアノ調律などが続く。

庭畑作業も、中心作業が変わってきた。新規植え付けはほとんどなく、草取りも減り、樹木の剪定が増えてきた。そして、「今年は幸いなことに、大きな台風が襲来せず、対処作業が少ないのが、助かる」と書くつもりだったが、先日の台風で「今年もやはり台風後の跡片付けが大変だ」と書くことになってしまった。隣の森からの枝葉がたくさん積もった。すぐに片づけても、3日ぐらいすると、潮風でやられた葉が沢山落ちるのだ。ということで、いつも通り、一週間前後の大仕事になる。

それでも、昨年、畑の大きなマンゴーとガジュマルとを切ったので、作業量は半分近くに減ったようだ。

わが庭畑を取り囲む森の木々の樹高が高くなっているのも、防風林の役目を果たしており、庭畑の枝葉の散らかりは少ない。ベランダや、上に伸びていた蔦類は、折れたり、散乱したものが多い。

これを機に庭畑は、夏バージョンから秋バージョンへと移る。

庭畑の動物たちも季節変わりに対応していく必要がある。写真は、台風の2～3日後に、窓の外側に網を張ったオオジョロウグモ。体長5センチ。手足を加えれば、10センチ以上。台風への緊急対応のため、ここに巣をつくったのだろう。でも、私たちがベランダへの出入りができないので、移動していただいた。6月頃は小さいが、今の時期に最大

になる。巢を張ったばかりなので、オスはまだ現れていなかった。

2019年09月12日

恵美子が、『宮古新報』に載る

11日で、この家に住んで満15年となる。長いようで短いようだ。充実の15年だったが、次の15?年はどうなるだろうか。

ところで、『宮古新報』という日刊紙をご存じだろうか。琉球新報・沖縄タイムスを別にして、宮古島には日刊紙が二紙ある。人口5万で、よくぞやっていると思う。そのうちの『宮古新報』は、近年苦難にぶつかったが、なんとかやっている。新規まき直しというべきなのだろうか。

その『宮古新報』9月7日の一面に、恵美子インタビューが大きく掲載されている。宮古島で生まれた彼女の自叙伝のようなものだ。いろいろな人が登場する連載記事の一つだ。

同紙の継続発展を祈って、同紙を購読しはじめた。毎日宮古島から郵送されてくる。



2019年08月24日

下水管に木の根が侵入 森の中に住む難しさ



森に囲まれた家に住んで、まもなく満十五年。森に囲まれたことを喜んでばかりおられない。水道の水漏れに悩んだ恵美子が、水道屋さんを呼ぶ。お見立ては、排水をする下水のどこかにつまりがあるとのこと。

大工事になる。結局、台所から流れる水が、地上に降りたところのパイプが詰まっているとのこと。パイプを洗浄してしらべると、木の根が侵入して詰まらせているとのこと。写真はつまらせていた根っこの塊だ。どうやらガジュマルやアカギなどの森の大木の根の末端が、パイプの

継ぎ目から侵入して巨大化したようだ。

もう一つは、15年前の建物工事の際、深く掘り下げて、埋め戻す工事がなされたが、埋め戻した土が沈み込んで、下水管の傾斜が保たれないで、汚泥がたまってしまったこともある。

ということで、いろいろと必要な工事。加えて水道屋さんが発見したいろいろな問題を解決する工事をしてもらうことになった。ちょっとしたパイプの補修ではなく大工事をいくつもしてもらうことになり、代金が当初予想の2桁も違うものになってしまい、驚く。

森に住むという事は、こういうことなんだという事を改めて思い知らされる。

日常の管理の仕方も教えてもらう。素人なりにメンテナンスを日常的にする必要があるようだ。

2019年08月18日

書庫整理 新規購入を減らして、再読・未読本を読む

私は、月にほぼ2回、書庫の整理をする。その際にすることは、以下の通り。

読了の本を、該当の棚に並べる。

もう読まない本を、寄贈本の棚に移す。

再読・未読本を選んで取り出す。

必要に応じて、並べた本を並び替える。

こうやって、現時点で数千冊ある本を、少しずつ減らしていく。10年後には、3000冊以下にしたい。

長い間、購入して読んだ本を加えてきたから、増える一方だったが、徐々に減っていく。

2か月に一回大規模書店に行って、本の購入をしてきたが、新刊本で読みたい本が減ってきた。それに購入しすぎると、本の整理に逆行することになる。

そこではじめたのは、書庫にある本で、再読・未読本を選んで読むことだ。書庫は、私専用ではなくて、夫婦兼用だから、恵美子が購入した本はほとんどが未読だ。そして、時に再読したい本、自分で購入しながら未読のままである本を見つける。

ということで、新規購入本と、再読・未読本との比率を、昨年までの9対1から、5対5に変えてきている。これで、月に10冊近く購入していた本が、数冊以下になってきた。

2019年08月13日

息子家族の滞在

ここ数日、息子家族、総勢5名が滞在。
行き帰りと、台風接近の隙間だった。去年は、台風で飛行機が飛ばなかったから、ほっとする。
孫たちは、もう中高生で、一人は大学受験準備中。でも、皆スマホゲームに夢中は驚いた。

一人が、夏休みの自由研究ということで、タマグスクを案内する。(写真)

息子も、中年真っ最中で、職場で重要な存在になりつつあるようだ。いろんなことを、うんと話す。その合間に、囲碁をする。ここ10年間で、囲碁をするのは、息子と、2～3回だけだ。

最後の晩に、息子、テニスをしていた孫一人を連れて、テニポンにでかける。息子と孫は、最初は戸惑っていたが、そのうち慣れてくると、パワフルなプレイを展開。

一番上の孫が、大学進学すると、18年間ほぼ毎年続いてきた家族での滞在はどうなるだろうか。いよいよ、大人の世界へと入り始める。

彼らが帰ると、嵐の後の静けさ状態の我が家



2019年07月22日

変わり時のこのごろ 1 スケジュール・地域行事・私の身体

雨も収まり、ようやく夏本番の感じだ。私の周辺も、いろいろと変わり時を迎える。

1) 私のスケジュール・仕事

30年位前の事だろうか。大学の授業日程が大きく変わった。それ以前は、7月に入れば夏休みで、9月に授業再開、そして試験期間に入り、前期日程が終わる。10月から後期日程に入る。それが、現在のように、8月はじめまで授業・試験があって、前期日程の終了は8月10日近くになり、後期は10月初めからという日程へと変わった。

どちらがいいか、一長一短だろう。欧米では、6月に終了して、7～8月は完全に夏休みで、9月から新学期、というよりも新学年が始まるというのとは、大きく異なる。その方が、夏の季節感には適合しているだろう。

それにしても、季節感よりも、授業日程に合わせて動くという感覚に長く「制覇」されてきた。とはいうものの、今では大学授業が前期1コマ余りだけになった私は、季節変わりに合わせるが多くなっている。

私が担当する前期授業も、今年は7月31日で終了だ。その後、長期の「日程なし」または「日程少なし」状態に移る。このところ、毎年している学童支援員研修は、10～11月に那覇と名護で計6回となった。

2) 地域行事

夏の行事の季節が始まった。まずは綱引きの季節。そしてお盆だ。今年の旧盆は、月遅れ盆の日程と全く同じになった。

他にも、いろいろとイベントがある。どこに顔を出そうか、思案中だ。

3) 私の身体

1月からの喘息治療と体力の劇的回復も、一段落ついた感じだ。回復から安定へと移行していかなくてはならない。そして、回復の過程で生じた、2～3キロの体重増を元の体重に近づけるのが、当面の課題だ。

お知らせ 5月に書いた二つのミニ原稿が掲載されている。関心のおありの方がご覧ください。

「ファシリテーションとワークショップ」『教育』8月号

「実践記録を書くワークショップ」全生研会員通信220号6月刊

2019年05月25日

ギンバイカ（マートル） ハーブと気づく 「古層の村」「観光亡国論」を読む

苗をいただいたのか、買ってきたのか忘れてたが、10年以上前に植えた植物が、実はハーブだと知ったのは、つい最近のことだ。最初は、ギンバイカ（銀梅花）という名の樹木だということしかわからなかった。地味だったので、関心をそれほど持たなかった。

今年に入って、可愛くて、名前の由来になっている梅のような花を大量につけた。そこで、ネットで調べる。すると、これがハーブであることを知る。マートルという名だ。アロマオイルとして活用されているとのこと。さらに調べると、ハーブティーにも使えるとのこと。ティートリーと似た使い方が考えられる。呼吸器にもよいとのこと。

ハーブとして、まだ使ってはいないが、いろいろと試してみようと思う。ハーブの世界は広い。

ついでに書く。読書生活は依然として続くが、最近読んだ本で印象に残るのは次の二つだ。



仲松弥秀「古層の村」 1970年代の本で、以前に読んだかどうかは記憶がはっきりしない。南城市史「民俗編」の作業上の必要から、手に取った。驚くことに、中山の聖地や村落配置が図入りで登場してくる。村落については、参考になること大だ。続いて、同じ著者の「神と村」「うるまの島の古層」を読む。興味深い。

琉球大学勤務で、退職直前の著者と就職そうそうの私とが重なる期間が、2、3年あった。何の会だったか忘れてたが、一度だけお会いした記憶がある。私が沖縄の村落への関心を持つ、ずっと以前の話だ。

カー「観光亡国論」 著者による景観に関する本を一度読んだことがある。今の日本は観光ブームだが、大量生産大量消費型観光が横行するなか、劣化がすすむ観光地が続出している。世界各地にも同様の問題が発生している。そんななか、「観光で亡国」しないような、観光の在り方を提起している。観光関係者必読文献となろう。

2019年05月07日

グスクロード散策 40年ぶりの沖縄県教育センターでの講演・ワークショップ

3日記事に書いたが、10連休は書齋生活だが、少々飽きが出て、4日には近くのいとまんファーム散策を楽しむ。随分変わってしまった。動物がいなくなった。園内散策をする。



帰りに、すぐ近くの新垣蘭店に立ち寄る。「母の日」記念セールの一点と着生用の一点を購入。

その隣には、引っ越したばかりの沖縄少年院と沖縄女子学園の建物ができた。昔、ここはサボテン公園だった。沖縄もあちこちで変わってきた。

翌5日は、久々にグスクロード公園への総計8000歩の長距離散歩をする。公園遊具が改装されて、子どもの日の賑わいを見せていた。写真は、公園の巨大ガジュマル。その下に、恵美子がとても小さく写っている。

帰ると、連休初の来客がお見えになる。金沢から来られた。薬草・ハーブに関心をもっていただき、お土産にする。

ところで、大変久しぶりのことがある。沖縄県立総合教育センターで、講演（ワークショップ）をする。5月28日午後で、『実演風ワークショップで、子どもたちのやる気を育て、「人見知り」「指示待ち人間」を超える』というタイトルだ。

教育センターとのおつきあいの前回は1970年代末だから、40年ぶりだ。その時は、教育センターが首里にあったところで、シンポジウムのなかの問題提起者の一人として登壇した。懐かしいことだ。

今回は、私が特別支援学校などでしたワークショップに関心を持たれた方がおられたことが、きっかけの一つだ。どんな出会いと創造があるか、楽しみだ。

2019年05月03日

書齋生活の「10連休」

世間は「10連休」でにぎやかだが、「毎日が休日」状態の私は、どうってことはない。むしろ。一層何もスケジュールがない日々が続く。来客もゼロに近い。定例の卓球・テニポン練習も体育館などの都合でお休み。畑仕事に打ち込もうとするが、雨とPM2.5のため、外出さえできない日が多い。

結果的に、いつも以上に書齋生活だ。

一つは、南城市史「民俗編」の資料読みと抜き書き。

字誌。公民館落成記念誌などだ(写真)。南城市にある71字のうち3割近くが刊行しているが、半分以上に眼を通した。結構面白い。とくに聞き取り記事や回顧記事に、生の声が読み取れて面白い。人生ドラマの連続だ。移民・出稼ぎ・戦争などのたくさんの体験記。明治後半から、人々の暮らしが激動してきたことが、よくわかる。風呂屋・牛乳屋・洗濯機の集団購入・墓・道・芸能……

この夏までには、私が書く物の輪郭ができればいいなと思う。

もう一つは、久しぶりの依頼原稿「ファシリテーション」を書く。月刊誌『教育』からの依頼だ。楽しんで書いている。40年ぐらい前の原稿書きでは、体重が2～3キロぐらい減るほど、苦勞していたのとは、大違いになってしまった。

教育界にも、やはり横文字が多い。その言葉をめぐって、解説しながら論じるもので、興味深い企画だ。



2019年03月26日

このごろ 卓球試合 カラオケ 旧友来宅 サンセベリアとオリズラン

年度末になったこともあるのだろうか。結構予定が多い。といっても、仕事に追われる忙しさはない。いくつか紹介しよう。

まず卓球の試合。ラージボール団体戦。3年ぐらい前は最下位だったが、どれくらい前進したか、楽しみな大会。今回は3名で出場。予選リーグは強敵2チームと対戦。予想通り3位となるが、善戦はしたようだ。

3位グループトーナメントは、どんどん勝ち上がって、といっても激戦接戦だ。ついに決勝戦、1-1の後の最終戦、我がチームのもっとも若い人が激戦。フルセットの末、残念なことに。ということで準優勝。我がNAN-Jチームも、だんだん存在が知られるようになった。2位グループと3位グループの間ぐらいだろうか。

試合の合間に、会場をまわる。150名を超す参加者だが、顔見知りが増分と多くなった。そのなかで、30年ぶりの再会者2名。かつての職場や地域のクラブで一緒にやっていた同年生だ。皆さんお元気だ。顔つきは全く変わりなし。このチームと準々決勝であたる。

3位グループ出場者を中心に70歳代が多いのが特徴。1位、2位グループにも70代の方がおられる。ラージボー

ルは、年齢差が目立たない大会なのだ。

会場でのユンタクは楽しい。卓球の話はもちろんですが、他の話も多い。高齢者人生論議といったところか。

先週金曜日、カラオケに行く。夫婦で2ヶ月に一回出かけているつもりだったが、割引券の期限が切れているので、3ヶ月以上ぶりであることが判明。3時間の予約だが、3時間は続かず、2時間余りで引き上げる。これまたいつも通りだ。二人で2時間余りやると、一人十数曲歌うことになる。

私の定番は、芭蕉布、「大人のなつかしい歌」シリーズ、坂本九、花、童神……



先週の週末には、旧友が来宅。三〇年ぶり？ 二〇年ぶり？ それもよく思い出せない。まだ現役大学教師として頑張っておられる。大学授業の話、人生話、いろいろと語り合うが、昔話よりは今の話を中心。

それにしても、三〇年ぶりとか四〇年ぶりとかの出会いが多いこのごろだ。次はどなたとの再会が待っているのだろうか。

写真 サンセベリアとオリズルランが、庭畑に大量にあるが、健康にもよいとのことで、室内にも鉢植えを置き始めた。

2019年03月19日

新年度予定と準備 脂肪摂りすぎて下痢

突然、下痢。食あたりか、と考えたが、思い当たることがない。一日たつて、ようやく気付いた。逆流性食道炎防止のため、胃酸をおさえこむ薬を飲んでいるが、脂肪消化機能を思いっきり低下させているのだ。十数年以上前からのことだが、すっかり忘れていた。ラーメンを食べないなど、脂肪摂取をコントロールすることが生活習慣化していた。なのに、私が夕食を作る時、そのことを忘れていて、豚脂肪がたっぷり入った料理をつくってしまったのだ。自業自得だ。食べたものが半分近く排出されて、ようやく落ち着いた。したくないドジである。

いよいよ年度末で、次年度の仕事日程が確定してきた。といってもここ2、3年大きな変化はない。

沖縄県立看護大学 「教育学」授業 毎週水曜日4時～ 4～7月

沖縄リハビリテーション福祉学院言語聴覚学科 特別ワークショップ 月曜日9時～ 5月20日から4回

学童支援員研修 秋に数回 北部と那覇の予定

沖縄県中小企業家同友会同友会大学 夏に一回
 沖縄県教育センターで講演（ワークショップ） 5月28日午後
 といった具合だ。他に南城市の委員会がある。

このほかに、飛び込みの仕事がやってくるかもしれない。
 変わり映えがするわけでないが、こんな感じで、これからの2～3年も進みそうだ。

仕事の中心は、相変わらず書齋作業になる。これから1～2年は、南城市全体を見渡しての「集落の暮らし」についての調査・執筆が軸になりそうだ。

2019年03月15日

このごろの私 「おじい」と見られて親切にされ嬉しい時

暖かすぎる陽気は、少々収まったが、着実に春真っ盛りになってきた。わが庭畑にも新芽が出てきた。蝶々がたくさん飛び交うが、なんといっても、オオゴマダラ。13匹の幼虫を確認。急激に大きくなり、いよいよサナギになる勢いだ。

孫の高校入試合格のニュースが飛び込んできたのも春らしい。楽しみな孫たち

話は変わる。レジ係などのスーパー職員にいろいろと親切にされる。ゆっくりと丁寧に応対され、手伝っていただくこともある。その時、ふと、「おじいに見られているのだな」と気づくことがある。近頃では、「おじい」がスーパーに買い物に来ることは珍しくないが、そんなに多いわけではない。

「おじい」扱いされることを嫌がる人もいるが、私はそんなことはない。喜んで、サポートを受け止める。親切上手は「おばさん」店員に多い。会話がはずむのも、「おばさん」店員だ。

反対に、「おじいらしく見えない」といわれるのは、卓球やテニポンをしている時だ。その時は、気張っているからだろう。

2019年03月01日

私のこのごろ 看護大学での非常勤講師懇談会 確定申告で初の電子申告 テニポン
 初体験

いろいろな初体験が続く

28日、看護大学での非常勤講師の懇談会があった。非常勤講師5名と看護大学関係者が10名余り。いろいろと話がはずむ。

こういう懇談会に、沖縄県内では初めて声がかかる。大変いいことだ。出た話を教育活動に生かしていけるので、他大学でもぜひとも開催してほしい。

看護大学は、65歳とか、68歳とか、70歳とかで非常勤講師を「定年」にしないのがいい。もっとも、若い人の採用を抑えるかもしれないが、いずれにしても、定年制が「年齢差別」であるという考え方が広がり始めているのかな。

看護大学の暖かで伸びやかな雰囲気がいい。

2019年度も、私は「教育学」授業を担当することになっているが、いつごろまでできるかな。毎年のことだが、参観ご希望は大歓迎だ。前期の水曜5限だ。4時から6時近くまで、ということだ。

30年余りほぼ毎年、確定申告をしているが、初のインターネット申告をした。初体験なので、戸惑うことはあるが、全体として簡略化している印象だ。それにしても、所得が減ってきたので、確定申告義務が生じるラインから外れるまで、残り年数はわずかだろう。

テニポン初体験。近所の方が主催する玉城総合スポーツクラブが始めたもので、玉城小学校体育館での週一回の練習に参加。

軟式テニスボールに近いボールを打ち合うのだが、卓球ラケットの板だけに近いラケットを使い、バトミントンコートに、バトミントンネットを半分ぐらいの高さに張った、というもの。

一番似ているのは、軟式テニス、次に近いのは硬式テニス。卓球に近いかと予想していたが、余り似ていない。

おもしろそうだ。これまでのように、卓球一本でいくか、テニポンを混ぜるか、目下思案中

2019年02月26日

県民の意思が巨大な塊になって表明 来客続きと「メイドイン100%我が家」のコーヒー

24日の県民投票は、予想通り？巨大な塊になって、県民の意思が表明された。長い時間間隔で読んでみよう。

沖縄戦・米軍統治・日本「復帰」・基地・経済事情の変化といった、数十年以上にわたる歴史経験が反映しているといえよう。この後の歴史も長い間隔でみよう。米中日政府の関係の継続変化だけでなく、アジア諸地域とのつながりの強まりの中で、世界のウチナンチュといわれるほど豊かな沖縄のつながり・強みのなかで考える必要がある。

そこには、大きな変化がはらむだろうが、沖縄自身が主体となって考えていきたい。だから、米軍基地をめぐる現在構図を前提にすることはできない。もしそうなれば、たとえば30年後になっても「30年前の米日政府の意向に添っ

た営み」が化石のように残存して、しがらみを残すことになる。沖縄が主体となって、世界の諸つながりをどのように生み出していくのか、という問いをもとに考えることが大切だ。

毎年、2月後半から3月は、沖縄外からの来客が多い。しかし、今年はいまのところない。ところが、島内の方々の来客が続く。「2019 おきなわ ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」の参加者も来られた。いろいろな話題に話が弾む。

植物育て、農業、各地の集落の取り組み、集落おこし、学校のこと、大きな枠組みを前提に細分化した課題の推進に追われる人たち、健康のこと
話が多彩過ぎて書きようがない。

来客には、いつものように、我が庭畑産のハーブティーを差し上げる。加えて、今回は、「メイドイン100%我が家」のコーヒーを差し上げた。数回にわたって収穫した豆を皮むき→焙煎→ドリップと、まさに100%我が畑産だ。年々収穫量が増えて、今年は数十杯のコーヒーになりそうだ。もう半月ぐらいは、来客に提供できそうだ。
なかには、コーヒーの木のポット苗を差し上げた方もいる。



今朝、コーヒーの木に、収穫し損ねた赤い1粒の実とともに、今年の開花第一号を発見した。

左写真 フライパンで焙煎し始めたコーヒー豆

右写真 焙煎終了後の豆

右下写真 今年の開花第一号 収穫までに半年ほどかかる



2019年02月15日

ほぼ毎日のお出かけ

毎日が日曜日のはずだった私だが、このところ、お出かけが多い。

大きな出来事は、中村透さんのお通夜と告別式。けた違いにたくさんの人が参列した。私の頭も、彼との思い出が次々とめぐる。45年近くもいろいろなことをしたので、思い出はとどまることを知らない。ブログ連載にでもしようかなとさえ思ってしまう。

毎年、結婚記念日ということで、海洋博記念公園での洋蘭博覧会にでかけるが、今年は、親しい方に連れて行ってもらった。突然の別れの落ち込む気持ちを、ランの美しさで抑えてもらう。掲載する写真は、しばらくの間、そこで撮影したものになりそうだ。

定期健診の歯医者、買い物などなど、お出かけて気分転換をはかる。

お出かけの一つは、恒例のジュンク堂書店での本探しだ。これまで平均して2か月に一回だったが、以前では、10冊余り2～3万円の書籍購入をした。でも今では「もう読んだ」という本が増え、7～8冊1万円あまりにとどまっている。そのうち、数か月に一回で間に合うことになるだろう。



そして、書籍読みでインプットすることと、原稿書きで発信、つまりアウトプットすることの比率が変わっていきそうだ。現在はほぼ半々の比率だが、徐々に、一対二になっていきそうだ。

今朝の新聞で、本の売上げがここ十数年で半減しているようだ。インプットにおける本の比率もそれだけ低下しているということだろう。私のインプットは長年にわたって本中心だったが、そのありようも少しずつ変えていくことになろうか。

暖かくなっているし、雨続きでPM2.5も少なくな

っている。おかげで体調の方は上等だ。

2019年01月29日

次回学童支援員学習会は2月4日 会議 卓球試合 野良猫 余談話ばかり

体調が回復して、再びいつものような生活だ。今年は寒さが弱くて助かっている。でも、2、3日周期でPM2.5の濃いものがやってくるので、警戒は弱められない。

少ない日程の日々だが、「公用」めいたものは、週一回あるかなしか程度だ。先週には、南城市史民俗編の会議があった。そんな年度末会議が時々やってくる。

定例になった学童支援員学習会の次回は、2月4日（月曜日）だ。充実していて楽しみが多い会だ。

卓球の練習も試合もいつもの通りだ。26日には浦添オープン団体にNAN-Jクラブとして出場。リーグ戦は中学校2チームと対戦。危うかったがなんとか一位通過。決勝トーナメントは、ベテランチームに勝った後、準々決勝で強力小学生チームと対戦。激戦だったが、3番手の私が出る前に負けた。いまや小中学生が強い時代なのだ。

我が家のハブ対策で活躍?の野良猫が、顔を見せなくなって10日ぐらいたつ。いつもとは違う野良猫の顔を見たことがあるので、激しい縄張り争いが展開しているのだろうか。

2019年01月08日

にぎわった年末年始、そして喘息で苦しむ私

例年の年末年始は静かなものだが、今年は息子家族が3人の孫を引き連れて来訪したので、にぎわう。3人とも「立派な思春期」だ。身体も大人になってきた。話し方も大人の会話に近い。

それにしても順調なので、うれしい。今後どうなっていくのか楽しみだ。毎年、一人ずつ受験生なのだが、自分のペースでやっていくようだ。

一人が美術部活動に励んでいることもあって、虹亀商店を訪問する。虹亀商店の作品の進化は著しい。孫は、写真のようなランプシェードを買ってもらう。



全員で楽しんだのは、卓球と海岸散策。ユインチホテルの体育館で2台の卓球台を借りて、2時間やる。孫二人は硬式テニスをしているので、テニス式卓球。息子はサッカーをしているけど、サッカー式卓球ではないが、かなりうまい。それでも、普段からしている私の域にまで来るのは無理。息子は私を評して「とても70代ではない」という。卓球仲間のなかでは、平均的な部類だが。

彼らが滞在する前から少々おかしかったが、かれらが帰ってから、私の呼吸器が悲鳴を上げる。ひゅーひゅー、ゼーゼーという自分の喘鳴が続いて困惑する。ただし、発熱はない。長い間、気管支炎に悩まされてきたが、その症状の中心は発熱だった。しかし、ここ10年あまり発熱はない。5年ぐらい前に、鹿児島島の火山灰を浴びて以降、喘鳴をともなう喘息症状に悩むタイプに変わってきた。

発熱はないので、昼間も床から離れられないというほどではないが、夜、とくに寝入りばなや夜明けごろに苦しむ。自分の喘鳴や息苦しさに眠れないのだ。救急車を呼びたいと思うほどの衝動も沸く。こんな風に「あの世に行く」のかとさえ思ってしまう。

5～6日間、こんな調子に苦しんだ後、7日火曜日に医者に行く。処方してもらった薬でようやく落ち着いてくる。そして関連ウェブサイトを見て、いろいろと知る。5年前に桜島の火山灰を浴びたころから、私の喘息が本格化したよ

うだ。しかし、私の対処姿勢は楽観的過ぎて、今回に至るまで、中途半端なものだった。

どうやら、逆流性食道炎同様、最後までおつきあいしなくてはならないものようだ。

ということで、以前から楽しみにしていた全九州教職員卓球大会（今年は沖縄開催）を欠場した。体調不良で卓球試合を欠場した記憶はない。残念至極だ。甥やその子たちが優勝など好成績だったのをうらやましく思うばかりだ。

2019年01月04日

コーヒーの新苗 できあがったベンチ 8日に学童学習会

このごろの話題



1) コーヒーの新苗を植える。

今年のコーヒーは収穫量が上がったが、自給自足になるには、まだまだ不足。そこで、落ちた種から伸びてきたものを植える。さらに、挿し木もしてみた。何年後になるかわからないが、「自給できれば」という夢を持っている。





2)昨夏、ガジュマルを切り倒した。その幹で、ベンチを三つ作った。こわれた木製椅子などの廃材も活用する。自然味をだしたいという気持ちで。

最後の写真は、10年前につくったものだが、そろそろ耐用期限終了だ。次は伐採したマンゴーの幹で作る予定だ。

3) 8日10～12時に、我が家で第二回学童学習会を開催。

2019年01月01日

子ども・孫たちの来宅 年末年始通信

年末年始は、子・孫家族の来宅で大賑わいです。大みそかには、みんなで卓球をしました。
年末年始には、恒例の年末年始通信を出しましたが、ここで改めて掲載します。

::

今注目の沖縄ですが、私は「魅せる沖縄」というタイトルで沖縄論を書きました

2018年から2019年にかけて 浅野誠



年賀状に代えた近況報告をこのような形で送り始めて40年近くなりますが、今回もこれまで同様によろしく願います。

ここ数十年は、変り映えのしない生活を送っています。身体・健康、庭畑作業、卓球、ワークショップ・授業、ブログ書き・・・

そのなかで、2018年にあった特筆事項を挙げてみます。

1) 「魅せる沖縄」の出版

辺野古のことをはじめ、沖縄が注目されていますが、私が沖縄とかかわりはじめてすでに48年近くになります。その間、体験してきたこと、考えてきたことをもとに綴りました。サブタイトル「私の沖縄論」が示すように、「沖縄とは何か」について、軍事・政治・経済産業・文化芸能・教育・言語・生活など多様な面から、歴史的に考えました。沖縄の豊かさ・魅力ができあがってきたわけを明らかにしようとするものです。

2) ブログ執筆 人生関連が増える

相変わらずブログに書き続けていますが、このところ「人生創造」のテーマが増えています。週6回のペースの投稿のなかで、4回は連載です。連載テーマは、「人生後半期の人生創造」(読者参加型)、「問題提起」(現在は〈老〉について)、「私の人生」、「自然と人間、そして私」です。ブログ名「沖縄南城・人生創造・浅野誠」<https://makoto2.ti-da.net>を御覧ください。

3) 南城市史「民俗編」執筆作業

担当している4つの集落の執筆を完了し、南城市全体の集落についての作業に入っています。まさに地元をめぐる仕事です。

4) 学童クラブ支援員研修講師

2017年から始めた仕事ですが、年10回程度、沖縄各地をめぐりながらやっています。沖縄の学童クラブ、支援員、そして子ども・保護者の様子、とくにその素晴らしさがとてもよくわかります。これからもやっていきます。他にも、沖縄県立看護大学の授業、沖縄県中小企業家同友会の同友会大学の講師など、いろいろとやっています。

5) 高齢化してもやっていける庭畑作業へ

庭畑を楽しむ生活も15年近くなりました。体力を考えて、80歳90歳?になってもやっていけるように、巨大になったガジュマルと金煌マンゴーを切りました。ハーブ・薬草・野菜・花・観葉植物・果樹と、いろいろと楽しんでいます。

6) 来客が多い我が家で、いろいろな方とのユンタクを楽しむ生活を続けたいと思っていますので、是非、遊びに来てください。おいしいハーブティーや果物・野菜が待っています。写真はビワ(収穫は3月)

2018年

雑然？ 多様？ 日々の暮らし



2018年12月28日

カニステル収穫 ブログを編集してHPに掲載したファイルの製本

畑のカニステル（エッグツリー）の実が色づいてきたので収穫。十数個のうち色づきがすすんだものを収穫。半月ほどそのままにしておき、表面がやわらかくなったら食べる。

年々収穫量が増えていく。

ブログ記事をカテゴリーごとに編集してファイル化し、HPに掲載している。その製本を印刷屋さんをお願いしている。今回13冊ができあがる。

自分で書いたものだが、アナログ人間なので、手に取らないと満足できないので、冊子にしている。

通算50冊ぐらいになった。

2018年12月25日

スケジュールがとても少ない日々 NAN-Jクラブ このごろ火曜

10月後半から、スケジュールがない日々が多くなった。大学授業数が減って、予め決まっているスケジュールが減ってきた3年ぐらい前から、私は手帳を持つのをやめた。日程管理は、コンピュータのなかでしている。

日程管理といっても、授業・ワークショップ・会議・行事などがとても少ないので、研究作業の日程上の割り振りを示すものが中心だ。

スケジュールが減ってくると、いやおうなしに外出機会が減る。自宅に引きこもり状態に近くなってしまいかねない。無論、卓球練習、ウォーキング、買い物などはある。買い物には、食料品などの他に、畑苗の必需品、書籍などがある。それに加えて、何かと外出の機会を作るようにしている。卓球（練習・試合）、買い物以外では、病院・マッサージ、補

聴器点検、音楽鑑賞、図書館・役所資料室、イベント、カラオケなどが各々2～3ヶ月に一回ぐらいある。加えて、近所の人との出会いとユンタクが、毎日というほどではないが、かなりある。さらに来客が多い家なので、本当に何もない日というのは、珍しいということになる。

その結果、週4～5回は外出している。加えて、毎日1～2時間の庭畑作業がある。だから、暇を持って余しているわけではない。といっても、時間に追われることが少なく、マイペースで進行させることができるのは、「年寄りの特権」といえるかもしれない。

研究作業でいうと、南城市史「民俗」編の原稿作成作業がなお継続している。研究作業上では、むこう2年間で最大のものとなる。

次年度予定が入り始める時期だが、年々減っていくのはやむをえないだろう。現在は一件だけだ。もう少しスケジュールがあってもいいと思うが。

卓球練習は、週1回しているが、このところ調子がいいので、週2回することもあったが、練習日が水木と連続しているので、かなり疲れる。加えて、月の1回余り試合にでていいる。私達のチームは3年ぐらい前から試合出場しているが、今年「NAN-J」という名前で新規登場した。私が最年長で、平均年齢65歳の男性チームだ。みんな張り切っている。人数が増えるかもしれない。佐敷スポレクセンターでの練習の常連だ。練習場には最近人数が増えてきて、いろいろなクラブ、市外からも含めて、常時10名以上が顔を出している。時々参加者を含めると、30名近い人がいる。6～7年前数～1人だったのとは大違いだ。

このNAN-Jクラブで、月に一回以上試合に出場している。しばし前は最下位常連だったが、だんだん脱出しつつある。試合出場経験が多くないので、知らなくて間違っるとんでもない試合にでたこともある。全日本の沖縄予選にエントリーしてしまい、とんでもなくうまい若者にあたって、すぐに敗退したこともある。それでも、初心者初級者が多い大会では賞状をもらってくるメンバーも出る。

メンバーに共通しているのは、成長途上にあることだ。お互いにめっきり上手になってきたと思う。来年は、どのくらいまで活躍できるか楽しみだ。

ところで、先週土日に、ブログからフェイスブックへの連携が、しばしうまくいかず、フェイスブックの「友達」にはご迷惑をかけたかもしれないが、お許しください。ただし、原因不明。こうしたツールとのつきあいは長いですが、追いついていけないのが残念だ。でも、それもまた年相応の感じがする。

2018年12月18日

ブログ模様替え

お気付きかもしれませんが、ブログの模様替えをすすめています。

- 1) 最初の画面や枠（テンプレート）を変えました。
- 2) ブログ紹介文を変えました。

3) これまでも連載記事が多かったのですが、いつ掲載するのかという予定を組んでいなかったもので、読者に不便をおかけしてきました。これからは、曜日ごとに固定していきます。

少し試行錯誤するかもしれませんが、当面の予定では次のようにします。

月曜日連載 「問題提起」 現在は「老」を綴っています。数回ごとにテーマを変えていきます。

火曜日連載 「私のこのごろ火曜」 内容は、その時々で変わります

水曜日連載 「私の人生」シリーズ

木曜日連載 「スポーツ」。まもなく、次の連載「自然・人間、そして私」に移ります。

金曜日連載 「私のこのごろ金曜」 内容は、その時々で変わりますが、「庭・畑」のことも書いていこうかと考えています。

土曜日 お休み

日曜日連載 「人生後半期の人生創造物語」。読者参加でつくりますので、ご協力よろしくお願ひします。

2018年12月16日

南城市「冬の豊年美味」 100K マラソン タコ取り

曇りかと思いきや晴れ。新市役所隣で開かれたフェスタ。

15日11時の開催時間にあわせて出かけた。

南城市の食関連の意欲的な店が増えてきた。今回、興味を注がれたのは山羊。山羊のジャーキーを試食し、山羊汁をいただいた。40年前にいただいたものに近い味で、しかも臭みも抑えられている。大きな飼育場が作られ、その近くのお店も、まもなく開店とのこと。

エコミュージアムの取り組み展示も興味深い。字ごとに開いている手ぬぐいワークショップでうまれた、字ごとの手ぬぐいが見事な出来栄えだ。飾り物になりはこそすれ、手ぬぐいとして使うのはもったいなすぎる。



ステージも面白い。

尚巴志太鼓が響き渡る。結成30年ということだが、私は初めて。子どもたち中心だが、魂を感じさせるリズムとパワーだ。演者の多様な顔・身体・動きが太鼓という一点に向かっているのが印象的。

稲嶺の獅子舞は、参加者の子どもたちとかけあう。知念高校ダンス部の演舞も、若者らしい。

年末年始に来る息子家族にも見せたかった。

16日今朝のウォーキング途中であったこと。

いつもの海岸沿いの農道を見かけない人が、時速8キロぐらいで走っている。しかも、何人もだ。そして、私の年齢に近い人が多い。なんだろうと思うと、「第三回沖縄100Kウルトラマラソン」と書かれた方向案内板がたっている。走っている人に聞くと、現在20キロぐらいで、夜7時まで走るといふ。ゼッケンには、沖縄だけでなく、日本各地が書かれている。

ブームがますます広がっている印象だ。

干潮時間の海岸では、何か取っている人がいる。聞いてみると、タコということだ。夜のタコ取りはよく聞くが、太陽があがってから取るのだ。そういえば、10年以上前に、海岸でなんだろうと思って引っ張ると、タコの足が絡みついてきて驚いたことを思い出した。

2018年12月14日

マリンバは素敵 夢に息子と啄木が出てくる

11日、シュガーホール・ロビーコンサートを聴く。少々ご無沙汰しているシュガーホールだが、10年ほど前からシュガーホール新人演奏会で演奏されるマリンバに魅了されてきた。ということで、名前に聞き覚えのある三人の演奏家、マリンバ・・屋比久理夏、宮里舞子、ピアノ・・平良優子によるコンサートを楽しんだ。

マリンバは、木琴の類で、シロフォンと同じものだと思いついていたが、シロフォンとは違うことをウェブで始めて知った。20年ほど前から、演奏者が激増したとのことだ。シュガーホール新人演奏会で定番の楽器になってきたのは、他のコンテストではマリンバが種目に入っていないためだと、どなたかにお聴きした。

さて、演奏された曲目は、親しみのあるものが多いし、知らない曲も刺激的なものばかりだった。そして、ロビーでの音の響きがすごく、音に包まれている感じがする。ロビーコンサートというよりもサロンコンサート、ないしはファミリー・コンサートの雰囲気だ。聴衆と演奏者の関係は家族的な雰囲気を醸し出していた。

演奏者の親しみのある語りも面白い。

ということで、すっかり堪能した2時間となった。

13日の明け方にみた夢に、長男とともに生きていた日々が登場し、長男と過ごせなくなって以降の生き方も登場した。その夢に、なんと石川啄木が登場し、彼と生き方を語り合っていた。目が覚めると、なんと長男の命日だった。42年もたつ。

2018年12月03日

ウリズン豆の大量収穫 グッピー池の水位低下 Wikipedia に登場 このごろの私



げている。このラッシュは、もう少し続きそうだ。

雨がふらないので、グッピー池の水位が低下して、限りなく水位ゼロに近い。そのため、グッピーが危うい。それでも生きているのがいる。

ここ2週間近くの雨量はゼロに近いからだ。ちよろちよると、水を加えているが、旅の前はそれで大丈夫だった。しかし、雨量が少ないと、地下水位も低下し、池に染み出てくる水が減り、染み出す水が増えているようだ。我が家の地形は、垣花樋川などと同じで、地下水が染み出しやすいので、それを頼りにしているが、油断していると、水位が著しく低下する。

雨よ降れ！

それにしても、グッピーは強い。水位ゼロに近くても生き延びるものが多い。

Wikipedia に、「浅野誠（教育学者）」というのが載っているのを発見。不思議な気分だ。しかも、最後に「存命中」と書かれている。ちょっと「いやな気分」になる。

掲載文はおおよそあたっているが、沖縄大学客員教授就任年が間違っており、沖縄国際大学教授というのは、非常勤講師の誤りで、それも10年近く前に終えている。

ちなみに、浅野誠には同姓同名が多いので、こうしたものを利用する人も作る人も大変だろう。

2018年11月17日

本・雑誌の贈呈 人間ドック 卓球試合 と高齢者 このごろの私

今回は話題三つ

1) 本・雑誌の贈呈



老前整理で、蔵書の贈呈を精力的に行っている。1万冊ほどあったものが、数千冊になっただろうか。先日も、若い方々が喜んで10～20冊と持ち帰られた。選びやすいように、本棚の一行分を、贈呈向け棚にしている。

教育雑誌も結構ある。創刊以来のバックナンバーも数種ある。これなどは、運搬が大変だから、事前相談が必要だろう。『国民教育』『教育学研究』『教育』『高校生活指導』など。取得を検討される方はご連絡ください。

この2～3年で、総計3000冊以下にしたいものだ。

2) 人間ドックで、ここ数年もっていた腎臓結石が片方だけになったことがわかる。いいといわれることをいろいろとやった成果だろうか。原因を特定するのは難しい。医師は「悪さをしなければいい」と語るが、痛さで有名な事態に陥ったことはない。

NHK テレビで「人体シリーズ」をしているが興味深い。腎臓が尿を作るだけでなく、他の臓器への重要なメッセージを送る役割をしていることが、印象的な画像と共に語られている。人体研究も急速に進んでいるようだ。

人間ドックで腹回りを測るのが好きでない。それにしても、85センチを越しているようだったので、腹を意識的に引込める「体操」を長く続けてきた。結果83センチ。成功だ。人間ドックは、いろいろと自分の体をチェックし工夫する機会になる。

この間、酒をほとんど飲んでいない。月に1～2回というところだ。その影響なのか、ここ数年になく、体重が減っていることも、腹回り減少の原因だろう。酒を飲んでいないのは、ストレスの大幅減少が大きいだろう。

自分の体について、考えるだけでなく、いろいろな試行をするのも、結構楽しいものだ。

3) 卓球の試合に、月に1～2回出ているが、ブログ記事にはほとんど書いていない。書くほどの成績を収めていないからだ。でも、卓球の試合場でのユンタクが楽しい。試合の合間の時間は、ほとんどがこれだ。60代70代80代になると、試合と試合結果よりも、ユンタクを楽しむことの方が多い。おかげさまで、60代後半以上の方が毎回20～30人出ているが、6～7割は知り合いだ。先日の大会では、参加者の年齢がプログラムに記載されていた。個人情報がるさいこのごろだが、いいのだろうかとの声が聴かれた。でも年齢が分かるので、私は何番目か調べてみた。10番目だった。最高は83歳。

2018年11月12日



コーヒーの収穫 フウリンブッソウゲが
開花 奥武島うみんちゅ祭 このごろの
話題

コーヒーの収穫。

実が赤くなってきて、収穫。皮むきをする。これが結構面倒だ。これで生豆ができる。これを焙煎すれば、

コーヒーになる。

我が家100%製。年と共に収穫量が増える。今年は数十杯以上が見込めそうだ。

11月末から12月初めの我が家への訪問者は楽しめそうだ。

台風で傷んだ木々も回復してきた。フウリンブツウゲが開花。シロオビアゲハが吸蜜にくる。



隣の奥武島では、うみんちゅ祭り 夜には花火があるが、我が家の正面500メートルぐらい離れた所なので、我が家は特等観客席だ。

2018年11月04日

アクセス20万を超えそう ブログ改装へ このごろの私

5年余りやってきたこのブログへのアクセスが20万を超えそうだ。以前のブログ、つまり2013年までのブログ「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」はそのままにしてあるが、いまなおアクセスが結構あり、50万を越している。12年近くも開いていると、検索などでひっかかってのアクセスがかなりの数になるのだろう。

ブログがいつまで続くのかはよくわからない。元気なうちは継続したいと思うが、そのうちインターネット世界に変化が起きて、ブログに代わる次のタイプが登場するのかもしれない。

2010年以前の記事は、当時のブログ容量が小さかったので、古い記事から削除していった。そこで、年数がたった記事を編集して、HP「浅野誠・浅野恵美子の世界」<https://asaoki.jimdo.com>に掲載することにし、それは今も引き続きしている。

最近、掲載したばかりなのは、次のものだ。

沖縄論シリーズ5 沖縄の歴史・民俗2013～2017

それにしても、ブログを少しは改装した方がいいかなと思うので、現在検討中だ。

不思議に思うのは、写真中心で文章が短いよりも、長い文章中心のものが、アクセス数が多いことだ。私のブログの特徴なのだろうか。

ちなみに、記事のなかでアクセス・ベストワンは、「ペニーロイヤルミントで、蚊・アリ対策 夏への畑準備3&らせん型ハーブガーデンのハーブ5」(2013年4月27日)で、2035のアクセスだ。

このブログを運営しているティータの南城内のデータを見ていると、10年前は結構あった、私のような個人サイトは少なくなっている。最近では、スポーツ少年団の保護者のサイト、お店のサイトが圧倒的だ。様変わりだ。個人のもの

は、フェイスブックなどに移ったのかもしれない。

私も、年齢からいうとコンピューター使用が苦手の人が多い世代になった。だから、読者のほとんどは私より若い方々だろう。私が、コンピューター使用を続けられるのは、若い「顧問」の方が何人もおられるからだ。ブログ開始も「顧問」のアドバイスに基づいたものだ。

「顧問」の方々、これから「顧問」になってもらえる方々、よろしくお願いします。

2018年10月28日

息子家族からの誕生日カード

先日、息子家族の全員が書いた、私の誕生日メッセージが届いた。絵は末孫娘の作品。中学の部活で美術部に入って楽しんでいる。

何年かに一度ぐらい、こういうものをいただく。みんなの成長ぶりがわかる。私の活力と幸せの源の一つだ。



2018年10月15日

秋冬に移るこのごろ

劇的に急激に涼しくなった。いつもなら、10月下旬なのに、今年は例年より10日早くミーニシ（新北風）が吹いた。それとともに、PM2.5の来襲で、マスク活用の日が始まった。それでも、涼しくなって、身体にはいい感じだ。

畑仕事も、夏バージョンから秋冬バージョンとなり、いろいろと苗を植え種をまく。それと並行しながら、台風後片付けも進める。落ちた枝葉をコンテナに入れて乾燥させてから、庭畑に植えこむ作業となる。10月いっぱい続く作業になりそうだ。

そして倒れた枝の挿し木作業も始める。ユーフォルビア・ラクティア・クリスタータ、そして柱サボテンがその候補だ。レモンティートリーの挿し木は終えた。

そんな時も、卓球の練習・試合は週1～2回だが続けている。卓球試合は、試合の合間のユンタクが楽しい。超健康な人がいる。卓球練習以外に毎日1万歩以上とか朝食前に2時間歩く70歳代80歳代の人、毎日卓球練習をしている人も

いる。私の運動量の3倍以上の「超人」的な人たちだ。足腰膝などが痛いのが、卓球で運動をして、改善をはかっている人もいる。さまざまな健康法をしておられる。70代80代の人の方が本格的にやっておられる印象を受ける。

ここ数年、試合でふらふらになることがある。団体戦で、チームに迷惑をかけたこともある。どうやら、一試合終わったら、20分以上休憩すれば、上手く対応できることが分かってきた。練習もそうだ。ぶっ続けに1時間練習したり、試合をしたりするから、私の体力をこえてしまうのだ。そんな当たり前のことにやっと気づいた。ウォーキングでもそうだ。私の場合、40分ぐらいがちょうどいいようだ。それ以上歩くことをしていないが、そこで休憩すれば、もっと長距離歩けそうだ。

10回にわたる学童支援員研修の講座が今週で終わる。南城市史の原稿書きも担当の四カ字が完了した。ということで、今月後半から来月にかけて、「次、何をするか」を考え決める期間になりそうだ。そんな時、偶然だが、エリクソン「老年期」を読み、80代を中心に多様な事例を知り、私の今後を考えるうえで役立ちそうだ。

もう一つ、困っていること。フェイスブックの扱いが上手くいかない。ブログ記事の転載はできているが、ごく普通



の投稿がうまくいかない。誕生日メッセージをいくつかもいただいたが、その返信を書いて投稿しようとしたが、上手くいかない。10回ぐらい失敗を続けている。そのうちなんとかなるだろうと思うが。メッセージをいただいた方にはお許しをいただきたい。

台風で倒れた柱サボテン。高さが3メートルを超えた5年ほど前に、台風で倒れて、挿し木で生き返って再び2メートルを超えるまでになったが、再び倒れた。また、挿し木で生き返らせよう。

2018年09月25日

このごろの私 知事選挙 読書生活の変化 変な夢をみる

このところ選挙続きだ。今回の知事選挙は、前知事の流れを引き継いで沖縄独自でいくのか、それをやめて国の外交軍事政策を受け入れるか、ということが事実上の最大の争点になっている。こうしたことが、原発問題も含めて、いくつかの知事選挙で目立っているようだ。本来、その地域自身の自主的追求が焦点となるはずの地方自治にかかわる選挙だが、そうはなっていないのが特徴だろう。

今夏は暑さの継続が著しい。加えて、大きな台風が近づいている。ここ3年ほど大きなのは来ていないが、ついにくるのかとやきもきしている。

今月後半は、学童研修が集中しており、私の体力の限界が迫っている。それでも、参加者との共同創造が大変興味深い。今週も火曜日木曜日と連続してある。

私の研究上のインプットは、学童研修のような各地でのワークショップが大きな位置を占める。たくさんの参加者による大量で多様な声が入ってくるからだ。一方向的講義とは異なるワークショップの優位さでもある。

と同時に、本からも大きい。ここ10年近く、ジュンク堂通いが続いている。2～3ヶ月に一度出かけて、2～3か月分の本を2～3万円購入してくるのが生活習慣になってきた。これほど通うと、読みたいと思った本で、以前に読んだ本の比率が多くなる。間違えて、再購入してしまった本も出てくる。ということで、購入本数、購入額も減ってきた。

同時に、現在進行中の書棚の本の整理のなかで、「この本は未読だった」と気づく本も出てくる。先日も「沖縄の料理」本を読んだ。そして、アレントとかエリクソンとかいった「古典」化した本でも未読に気づく本がでてくる。そんな本と新規購入本とを混ぜて読書するこのごろだ。

睡眠中にみる夢にも、「流行」がある。しばらく前は、家族が登場する夢をよく見た。なかには風変わりな夢をみることもある。先日は、私の人生最後の時間に、周りに家族や友人たちが集まっていて、私が「ありがとう」「ありがとう」といいまくっている夢を見た。

30年ぐらい前、恵美子が「夢分析」に強い関心を持っていたころ、しばしば夢報告をさせられて困っていたが、このごろはそれがなく、夢はすぐに忘れることになる。

2018年09月13日

このごろの私 パスポート更新 卓球試合 選挙 みみもとくん 眼科

9月に入って、学童指導員の研修が一か月半の間に9回も組まれているので、忙しくなった。この研修のことは改めて書くことにしよう。

それにしても、プログに書きたくなるようないろいろなことがある。

まずパスポート更新。10年間の有効期限が間近になったので更新した。いまでは市役所で手続きができるようになり、県庁まで出かけて順番を待つことはない。申請も受け取りも順番待ちゼロだった。手続き、必要書類、写真、印紙証紙などに変わりないが、ともかくあっさりできた。

前回の10年間では5回の利用だった。その前と比べたら半分以下だろう。そしてこれからの10年間はどうなるだろうか。多分2～3回もあるかな。しばらく予定もない。さらにその次はというと、不要ということになるだろう。

今月は卓球試合が多い。仲間たちが出ようと誘うものには出るつもりだ。9月はじめの南城市個人戦県民大会予選60代の部に出場。最年長として出場し続けているが、全敗したら「引退」するかと思っていたが、そうはならなかったので、来年も出なくてはならない。

市議選が終わった。広がりはじめた流動状況がさらに進んでいる印象だ。回ってくる宣伝カーも増えた。従来の地盤を超えた地域での運動が広がっているからだ。選挙公報が配布された。はじめてかな、それとも前回もあったか、記憶がはっきりしない。議会で賛否が分かれた事項についての政策を明示している候補者はまだとても少ない。どの候補者も書くようなことだけ連ねる人も多い。だから、候補者について知る情報としては不十分極まりない。次回はさらなる前進を期待したい。

ちなみに、候補者略歴を見ると、実業高校出身者が多い。興味がそそられるが、まだ上手くは分析できない。議会の今後がどうなっていくのか、注視していきたい。

70代になると、耳眼や足腰などのケアが欠かせない。幸いなことに足腰に問題はない。耳の方は、補聴器が必要な時は活用しており、問題ない。最近、「みみもとくん」というテレビの音を耳元近くで聞けるようにする器具を購入して、愛用し始めた。ヒット商品になりそうだ。

8月、眼に涙のようなものが出てきて、数秒間視野をふさいだことがあった。眼科医で検査したところ問題は一切ないとのこと。大山鳴動ねずみゼロ匹だった。

こんなケアをする身体になってきた。



2018年08月15日

トシビーの私に亀(イグサ製)が贈られる

13日記事にも紹介した長年の友人が亀を送っ

てくださった。教員退職後、マングローブ植林をはじめとする環境運動にかかわってこられ、今は、仲間や子どもたちとともに、こうしたクラフトつくりで精を出しておられる。また、生まれ島の宮城島にも深くかかわっておられる。

亀は、うるま市の照間で栽培している沖縄イグサで評判が高いものだ。それを材料にしていろいろなものを製作なさっておられる。

大きな作品だ。ウサギのように飛び跳ねていた私に亀のように生きようというメッセージが込められているように感じる。加えて長寿祈願でもある。期待にどれだけ応えられるだろうか。

2018年07月25日

このごろの私 台風 休養 食事つくりと家庭菜園の野菜

このところ小さな台風が連続している。最近の10号台風は、たいした影響はなかった。

その代わりといったら変だが、私の体の方が休養した。どうやら私の体は冷え性なので、もっと暑くないと「間に合わない」ようだ。体が冷えたのと、たまっていた疲れがでたのと、授業も今期はおしまいになって、気が抜けたこともあって、体が休養を要求した。こうした時に会うのは、持病の気管支炎。といっても、発熱もなく、たんがでるだけ。

頭仕事は一日、体仕事は三日お休みした。この半年、運動量を増やし続けた結果の疲れがたまったように思う。

我が家の家事上の変化。恵美子が大学カウンセラーの仕事が終わってから、食事づくりをすることが多くなった。私は、45年続く朝食づくりはするが、昼食夕食は恵美子が中心になったので、食事づくりの比重が逆転した。

恵美子の食事づくりがますます上手になった。このごろおいしくてたまらない。

台風襲来のためもあってか、野菜価格が高騰しているようだ。我が家は、葉野菜をほぼ自給しているので、影響は小さい。



現在収穫中のものを並べよう。

ニラ モロヘイヤ サラダ菜 ネギ ルッコラ ハンダマ ホーリーバジル (恵美子が最近ハマっている)

収穫量がまだ少ないものとしては、ツルムラ カンダバー オクラ ウリズン豆 里芋

一部は畑で栽培しているが、ほとんどがベランダで栽培中。

2018年07月11日

台風8号 ボトルインク式プリンター

大型台風8号は、沖縄本島南方を抜けて、先島を直撃した。我が家付近では、風が強いだけで、雨はほんの少し。先

週の7号後の庭畑の跡片付けが終わってすぐに、再び散らばった枝葉の跡片付け作業に時間がかかる。

海岸の大波だけはすごい。写真は、我が家ベランダから撮影



プリンターの紙つまりが直らず、買い替えることにした。このプリンターは、2年前にその前のプリンターが故障して修理に回したら、保証期間内であったので、新品取り換えとなったが、その新品だ。ふりかえてみれば、私は大量に印刷をする。それは、コンピューターの画面を見ての作業を減らすために、プリントアウトしたものに赤ペンを入れて、文

書作成する形をとっていることも大きい。そして、ケチなので、一度使ったものの裏面も使うので、裏面印刷の際に、紙つまりを起こしやすいようだ。

それにしても、1年で数千枚は印刷するから、2年ぐらいもてばいいか、とも思う。

電気屋さんで、店員にそれだけ印刷するなら、カートリッジ式のインクではなく、ボトル式の方が安上がりだと説明される。確かに、カートリッジ式だと、一枚10円以上なのに、ボトル式だと一枚1円以下だ。器具そのものは高いが、インク代を考えると、割安にさえなるかもしれない。加えて、購入時に一万枚印刷できるボトルインクが付属品でついている。

ということで、ボトル式新品を使い始めた。

もう一つ店員に教わったこと。紙詰まりは、湿度が高い時に起こりやすいとのこと。確かにここ数日は湿度90%前後だ。今後の対処策がわかった。

2018年07月10日

このごろの私 テレビ ガジュマル伐採 卓球試合

この時期、なぜか会議などの日程がない。自宅にいる時間が長くなっている。そのうえ、台風7号、長雨、そして台風8号？ だから、庭畑作業ができない日も多い。

家の中にいてすることは、いつもと変わらない。読書・原稿書きを中心に回っている。空いた時間にテレビを見ることもある。見たくなる番組は多くない。スイッチをつけて、結局BSになることが多い。自然番組・旅番組が多くなる。サッカーや野球を見ることもある。番組情報で選んで見るということはない。行き当たりばったりだ。だから、30分以上見続けることは少ない。

年を重ねるなかで、テレビ時間が長くなる人が多いといわれるが、私は現状維持か減少気味だ。

庭畑仕事は、台風後の片づけが多くなる。加えて、巨大化したガジュマルを切る作業を始めた。手に負えなくなる前

に切ろうということだ。残った株で、切り株ベンチにできたらいいな、と思う。

金煌マンゴーも大きくなった割には、収穫が少ないので、切ろうと思っている。太陽光を遮り過ぎて、周りの植物の生育を妨げている。

この二つを切るだけで、7～8月の作業が終わりそうな気配さえ感じる。作業は、チェーンソーでやっているが、チェーンが外れることがある。直し方がようやくわかった。

先週の授業で、補聴器も筆記用具も忘れた。仕方がないので、発言する学生に近づいて聴く。学生たちが協力してくれる。授業も残すところ2回。充実しているだけあって、終わると寂しくなりそうだ。

8日は、浦添オープンの卓球試合。我が中高年チーム「なんじい」5名も全員3部で出場。この大会は、年齢幅が大きい。10歳にもならない人から80代まで。試合がないときは、もっぱらユンタク。初めての出会いの若者と仲良くなる。中高年の顔なじみともユンタク。試合よりもユンタクか、というほどだ。

一昨年は、仲間と私とで決勝戦をした。しかし、出場者のレベルが上がったのか、私が出たのか、途中で敗退。我がチームの新人&監督も予選リーグ通過。皆さん、大接戦。仲間と当日仲良くなった若者が対戦し接戦した際、若者からアドバイスを求められて困ってしまう。

今回の記事は、重要性まったくなしのことばかりだが、私の日常生活の一端だ。

2018年06月20日

学童研修 卓球試合 このごろの私

台風が来て、久々の本格的な雨となった。わが庭畑も大喜びだし、ダム貯水率もあがったようだ。風はそこそこ吹いたが、ベランダの千年木の二本が折れたぐらいですんだ。

夏になって薄着で寝るのだが、足が冷えすぎて早朝足痛で困ることが出てきた。そこで、買ってきたレッグウォーマーと靴下をはいて寝ることにした。それ以後足痛はなく、ほっとしている。要するに、私は冷え性であることを再確認した。暑くてクーラーを入れる人が多いが、私は冷房のほうが気になる。

ここしばらくの私の中で、印象的なことの一つは、学童研修だ。中堅主任対象で、学童クラブを現場で中心的に担っている人たちなので、動きと知的質が高い。テーマも実践の質向上で、本当は3回連続のものだが、地域によって2回になったりする。今回は1回だけだ。3回分を1回でやるのは無茶だが、1回でできることをした。日々の実践から取り上げた具体的課題を全員に出してもらい、それをグループ単位でポストイットを使いながら検討深化させ、次の取り組みの目標と方法を具体化するものだ。

さすがベテラン学童指導員たちで参加者をうならせる検討提案が続出だった。

ところで、ある方に、「沖縄アクセントですね」といわれた。私はウチナーグチを話すことはほぼできないが、話し方は沖縄式になっているのだ。

二週続けて卓球のラージボール試合に出た。昨年は、最下位だった団体試合は、今年は予選リーグを二位で通過した。驚くべきことだった。年齢別の個人戦も、予選リーグでは、なんと一位で通過した。ダブルスも二位で通過した。最下位あたりをめぐっていた昨年までとは大変化だ。我が高齢者グループも、何とか参加者の中位程度まで前進したのだな、と思う。

ところで、参加者の平均年齢は60代後半のようだ。だから、高齢者の、しかも元気な高齢者の生き方が見えるような大会であった。試合も楽しいが、試合間の語らいも楽しいのだ。

2018年05月29日

中山豊年祭 南城市卓球試合 オオゴマダ

ラ幼虫 このごろの私

27日午後は、私が住む字中山の豊年祭。一年で最大の行事だ。字のなかでも、久しぶりに顔を見る方も多い。敬老祝いも兼ねているので、高齢者名簿が配られる。私は年齢順で47, 48番目。名簿には、数え70歳以上59名。字総人口181名なので、65歳以上を含めると高齢化率はかなり高い。



膝を痛めて、杖が必要な方。車いすの方。例年通りか例年以上かはわからないが沢山集まる。みんな明るく過ごしておられる。孫・ひ孫の誕生を喜ぶ方もおられる。出生祝いも兼ねているので、赤ちゃん連れの親子も多い。我が家に遊びに来る小学生元気軍団も、演技演奏で活躍。大人のすごいスターも出現。やりそうな気配ではあったが、これ

ほどまでにスター性があるとは驚きだ。

最後のカチャーシーも盛り上がる。初参加の市長も楽しく歓談。

マイケル中本の踊り・歌は、私のウチナーグチ練習の絶好の機会。



27日午前、南城市の字対抗卓球大会。南城市発足当初、中山は常に優勝候補で、優勝したこともある。しかし、メンバー不足になり、ここ数年はチーム出場できな

い。私は字船越の補強選手として出場。一度優勝したことがある。

今年はスタートから、23歳の強力選手と当たる。どうみても勝ち目はないが、1セットをとったことはよかった。若いパワーに少しだけは対抗しつつ、かわしていくいつものスタイルで奮闘。接戦一步前で、充実感がすごくあった。楽しい一日になった。

2～3年ぶりに、庭のホウライカガミにオオゴマダラ幼虫がいるのを見つけた。オオゴマダラがよく飛んでいるので期待していた。一匹しか見つけられないが、固まって卵を産み付けているはずなので、もっといると思うが、見つけきれない。

翌日、写真撮影をしようとしたら、幼虫は死んでいた。残念。

2018年05月06日

私たちのゴールデンウィーク お出かけ・ユンタク

毎日出勤する仕事をやめて15年になる私たちにとっては、ゴールデンウィークといっても普段と変わらないが、ゴールデンウィークを楽しみにしている周りからの誘いで、ゴールデンウィークを意識する。

だから、普段以上に、出会い・ユンタク機会が増える。

30日、認可法人化と園舎新築の過程に理事としてかかわってきたどんぐり保育園の新築落成祝賀会があった。素晴らしい園舎で、新たな保育士と園児たちが楽しんで園生活を送っている。祝賀会では、旧知の方とたくさん出会った。新しく出会った方にも、何かと縁があるかたが何人もおられた。たくさんユンタクを楽しんだ。

1日は、沖りハ言語聴覚学科の4回授業が終了した。対人関係を育むワークショップの授業だ。新入生たちが相互関係を育みながら、専門職に就いた後に会えるクライアントとの付き合い方を発見創造していく場だ。

ふと発見した。私のワークショップ授業は、受講生みんなと展開する巨大ユンタクの場になっていることを。私と受講生とのユンタク、受講生相互のユンタクが、90分の間に大規模に展開するといえるかもしれない。そのなかで、受講生相互の人間関係が発展していく。私の授業の役目の一つはそんなことにあるのだろう。その過程で、「人見知り」と思い込んでいた人も、「人見知り」を卒業していく。

今年のクラスは、个性的であるとともに、相互に開放的で楽しく明るい雰囲気満ちている。今後に期待できる。

ちなみに、恵美子も同じ学生を相手に授業をしている。もう10年以上にわたって、同じ学生相手に授業をしているので、学生たちにとっても印象的なようで、つながりが深くなるのも当然だろう。

恵美子が担当している、県の男女共同施設<ていせい>での夫婦カウンセリングの話題が、私たちの夫婦ユンタクでしばしば登場する。この企画は、なかなか素晴らしい。最初は驚かれるが、おおいに歓迎される企画だろう。このカウンセリングをきっかけに夫婦関係の展開が期待される。

恵美子と私とのユンタクが激増している。以前は、疲れてユンタクする気力が低かったが、このごろは、頻繁に行っている。夫婦間の話題というよりも、各々が出会っている多様な人々との話題が、夫婦間でさらに広がり深まる。

だから、話し過ぎ状態がずっと続いている。でも、思ったほど疲れない。多分、深刻に会話するのではなく、気楽におしゃべりしているからだろう。気楽さのなかに、有益さが混じりこむといった感じだ。

加えて、沢山の来客との会話がある。ということで、特別なユンタク会を持たないでも、ユンタクが次々と出てくるのだ。

3日には、友人夫妻宅に招かれ昼食会。その後いっしょにドライブに出かける。途中、入ったパン屋さんで、「親子ですか」と尋ねられる。年齢的にみると、そんな勘違いもありうる。30代末から40代の人たちとユンタクしていると、私たちの子ども世代と同じなので、親子感覚に似たものが出てくる。

6日は、近くのスーパーにお買い物。最近、男性の客の比率が増えている。知人男性2名にもあった。いずれも70歳代。

この期間、他にも、いくつか出会い・ユンタクの機会があった。これが、私たちのゴールデンウィーク光景だ。

2018年04月19日

排水管つまり解消 単行本校正 ウチナーグチ学習 来客 ピタンガ このごろの私

このごろの私にかかわるいくつか

排水管がつまって困っていた。なにせ自然の中にあるわが家。いろいろなものが、入り込んで詰まらせていた。しかも、道路に埋設してある下水管までの距離が長く、台所・風呂場・洗濯場・トイレなどからの排水管の総距離は、100メートルを越すのではなかろうか。

髪の毛などの原因のほかに、収穫した野菜などを洗う際にまぎれこむ土も多い。たくさんの格闘の末にやっと解消した。意地になってやった。おかげで、排水の仕組みがよく分かった。野菜洗いは屋外ですることにした。それにしても、解消したことが、なぜか大きな喜びもたらす。詰まっていたものが消えるのはなんと気分がよいことか。

昨年11月に完成した沖縄についての単行本の校正刷りが届き、校正作業。この本をめぐるブログ連載も始めようかと思案中。

このごろの読書に、儀間進さんのウチナーグチ本がある。沖展会場で割引販売していたので、3冊も買ってしまった。読めば読むほど、私のウチナーグチ学習が初心者の初心者であることを自覚する。ウチナーグチが使えるのは、目下、0.1%ぐらいだが、これから20年?で1%ぐらいまでに達するだろうか。ウチナーヤマトグチは、目下1%ぐらいで、20年で10%ぐらいまでいきたいな、と思う。

いつものように、素敵な来客が続く。この間の最大の来客は、恵美子の大学時代のクラス会。10名を越す方々が、ほとんどが首都圏からいらした。50年近くぶりの再会の方もおられたようだ。この年齢の方々がこれだけの人数で、沖縄に集合するとは、驚きだ。

私は、アッシー君を兼ねながら、少しだけ顔を出した。語りが尽きない。介護・仕事・趣味など多種多様なことに話が広がる。女性たちが豊かで元気なことを強く印象つけられた。無論、病気などの難題を抱えた方もおられるようだが、前向きに、かつつながりを豊かにしつつ生きておられる姿に触れて、感動さえ感じる。私も友達が多いが、比べようもなく、すごい。



枇杷の収穫が、10日ごろ完了したと思ったら、ピタンガの大豊作になる。一日30～80個ぐらい収穫。いよいよ、わが庭畑は果樹園化してきた。5～7月の収穫に向けての準備中は、パッションフルーツ、ライチ、マンゴーなどだ。コーヒーも開花が近づいている。写真は、収穫したピタンガ

2018年04月02日

『マグマ』？がたまりつつある私 花々の季節

3月半ばから、しばし休養期だ。結構、読書をし、ブログ記事を整理してHPにアップロードする作業を進めている。著作の出版作業も、ようやくめどがついて、対応する最終作業が待っている。来週からは、新年度の授業などが始まる。新鮮な出会いが続くだろう。

体調は、維持？というか、上昇？というか。下降とか不調とかではない。無論、つまづきやすいことをはじめ、加齢に伴う身体変化にも順調？に出会っている。

体調はいいが、ムラムラと何かをしたくなるといった青年期的なものからは遠のいている。意欲減退を実感することもある。

ということで、淡々と仕事をしているが、基底部には『マグマ』がたまってきているような感じもする。といっても「穏やかなマグマ」だ。そして、いつどこにどのように上昇しようか、思案中といったところだろうか。夏には、噴火兆候がでてくるかも。

庭畑は、春本番というか、時には夏めいた反応も出てくる。

カサブランカの大輪が開花した。パッションフルーツも開花しはじめた。ブーゲンビリアも咲いている。

蕾をつけており、まもなく開花しそうなもの

ティートリー 多分4月上旬から中旬

オクラレルカ 4月中旬から下旬

アマリリス 同上

2018年03月27日

2018年度の仕事予定 ポートフォリオ・ワーカーらしい

25日記事で紹介したポートフォリオ・ワーカー（さまざまな仕事や活動に同時並行で携わる）ともいえそうな近年の私の2018年度の予定を紹介しよう。

・授業

沖縄県立看護大学『教育学』前期週一回 水曜日4時～

時々参観する方がおられますが、今年も歓迎します。希望者は予めご連絡ください。

沖縄リハビリテーション福祉学院言語聴覚学科

人間関係を中心とするワークショップ型授業

4月～5月初めの4回 火曜日9時～

・ワークショップなど

学童クラブ指導員の研修（詳細は未確定）

6月から始まる。月に2～3回ぐらいだろうか。

・南城市史『民俗編』調査委員会（委員長） 会議および集落調査

・南城市観光振興委員会（会長）

ほとんど前年と変わりはない。70歳代前半は、このような形で推移しそうだ。出かけて仕事するのは、平均すれば週1～2回ということだろうか。

書齋仕事としては、読書と執筆活動（ブログ執筆を含めて）。

今年は、大きな執筆計画はない。蓄積期間となるだろう。

昨年執筆した沖縄論にかかわる著作の発刊が近づいているが、その関連の仕事が湧いてくるかもしれない。

2018年03月25日

読書生活 このごろの私

仕事に一区切りがついたので、読書が多いこのごろだ。今まで以上に多彩な分野の本を読んで新鮮な刺激を受けることが多い。以前のように、印象的なものについて書評を書いていたら、週に一冊以上書くことになるので、それはやめ、特に印象的なものにとどめることにした。

ここでもいくつか絞って書こう。まず山際寿一・尾本恵一『日本の人類学』2017年筑摩書房。人類が、現代人並みの脳容量になったのは60万年前で、狩猟採集生活の時代だが、約150人規模の集団農耕開始以降、急激に集団規模が拡大したということだ。しかし、「まだその変化についていけていない」という山際の発言は、とても興味深い。

35年前に人数論を言いながら、その後の展開がストップしている私にとって、あるいは、近年、沖縄の集落について考えている私にとって、示唆的な問題提起だ。私にとって、未知に近い分野なので、新鮮な発見が多い本だ。共同体（沖縄でいうと、シマ）・コミュニティ・アソシエーション・市場社会などがからむ問題だ。

他にも、示唆に富むものが多い書だ。

また、リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット『ライフ・シフト』東洋経済新報社2016年は、生き方や人生創造を語り、人生構図について、ブログ連載を始めた私にとって、興味津々のことの連続だ。しかも、経済学と心理学の研究者の共同作業で、私とは大きく異なるアプローチなので、新鮮な刺激が多い。むしろ、それだけに土俵の違いを大きく感じることもある。本書の帯には、ビジネス書分野で二つも賞を獲得するなど、20万部を突破したと書かれている。

「教育→仕事→引退」という三ステージ型の人生のありようは終わりを遂げ、マルチステージ型の人生が広がっていくという。これなどは、私の主張と響きあう。そして、マルチステージ型の人生の展開において、エクスプローラー（探検者）、インディペンデント・プロデューサー（独立生産者）、ポートフォリオ・ワーカー（さまざまな仕事や活動に同時並行で携わる）が提起される。このポートフォリオ・ワーカーは、現在の私のことをいっているような感じである。

無論、私とはアプローチが異なるので、考えが一致しているわけではないし、かなり異なる世界の議論でもあるが、示唆的であることは間違いない。

そして、こうした議論が少なすぎる日本の状況を考えるときに、ビジネス界を超えて、検討に値する提起である。

こんな読書三昧の日々だ。

2018年03月12日

ドキドキハラハラ、ワクワク ネズミ データ消える 観光計画答申 など

3月に入って、いろいろとあります。結果として、深刻なことはなかったのですが。

まず、ネズミが家宅侵入を試みています。今どきは季節柄、鳥もそうですが、食糧難のようです。野鼠ですが、3階まで登ってきて、隙間を探して侵入を試みます。ちょっとでも油断すると、空いた戸を見つけます。

これまでの経験から、「ねずみホイホイ」が一番効果的です。今回も、二匹同時にかかりました。その後は現れません。

一番のドキドキハラハラは、コンピューターのデータのバックアップをしているときに、逆に、データを消してしま

ったことです。キーの入力ミスですが、ワード・データをすべて消したので、深刻です。幸い、古いコンピューターをそのまま残しておいたので、そこからコピーできました。

コピーできたのですが、新コンピューターに代わってから、入力したものはコピーするわけにはいきません。幸い、私は、入力したものをプリントアウトする癖になっていますので、それをスキャンしてなんとかになりました。プリントアウトしてないものは、どうにもならないので、苦労しました。

11日は、卓球大会。昨年は優勝したクラスですが、今年は、予選リーグが強い人ばかりという「不運」。激戦2試合でした。2試合目は、体力不足でどうにもなりませんでした。相手が二人とも強いので、やむをえません。

これはドキドキハラハラではなく、ワクワクのことです。検討討論してきた第2次南城市観光振興計画「持続可能な観光まちづくりを目指して」がまとまり、12日午前市長へ答申することができました。委員会会長なので、委員会を代表して、新市長に答申をお渡ししました（写真）。

観光というと、業者など観光従事者と観光客との関係が中心になりがちですが、今回の答申では、市民と観光者（訪問者）を軸にして、関係団体と行政がかかわるという構図が描かれています。

これからの10年間、南城市での新たな物語の展開を期待しています。

他にも、ドキドキハラハラ、ワクワクがあったのですが、いずれもうまく落着のようです。そして、沢山あったスケジュールも区切りがつかしました。しばし休養充電期間になりそうです。



2018年03月07日

珍しく忙しいこのごろの私 会議 学童研修 卓球

2月末から3月前半は、なぜだか、スケジュールがいろいろ入ってくる。50歳代までの人から見れば、「まったくたいしたことがない」レベルだが、70代の私には、週に3つもあると、「忙しい」のだ。

一つは、年度末ということもあって、南城市の委員会が連続してある。観光関連の二つの委員会は、最後のまとめの会議で、報告書や答申を仕上げる会議だ。いずれも委員長とか会長をつとめているので、大事な役目だ。いずれも、担当者や委員の奮闘に感謝したい。

これらについては、これまでも触れてきたが、いずれ再び論じる機会があろう。

もう一つは、南城市史「民俗」編の調査委員会だ。もう満3年がたち、調査が進行し、だんだん形が見え始めた。70余りの集落すべてを一つ一つ対象としているので、大変な作業だ。聞き取りを中心にする作業だが、対象者の年齢が

ら、戦後、とくに1950年代60年代70年代のことに触れることが多い。それはいずれの集落も、長年の歴史的なものが激変していく時期にあたる。その点では、これまでの「民俗調査報告書」とはかなり趣が異なりそうだ。

学童保育指導員対象の研修ワークショップも、この期間に集中してあったが、これで今年度は終わりになった。これは、この半年間の私の仕事のなかで、かなり比重が高いものとなった。毎回、参加者だけでなく、私自身も発見し学ぶことが多く、とても充実していた。

参加者がノリまくる。つられて私もノル。私の体力限界に近づく。それにしても、学童クラブは充実して面白い実践の連続だ。型にはまってないのがいいし、子どもたちの自主性がおおいに発揮されているのもいい。

今後のますますの充実に向けて、私なりの協力をしていきたい。

宜野湾の研修では、これからの社会のありようにかかわる大きな質問を受けた。それをきっかけに思うことだが、現在の子どもたちが大人になるころ、私や指導員が体験しているものとははるかに「すごい」時代を生きることは確かだろう。そこで創造的に充実して生きるように、現在の大人たちが応援できるだろうか。そしてその時は、多世代が共同して生きる時代だ。

その時を予測するのは大変だが、予測するとわくわくするようなものであってほしい。

最後になるが、卓球試合。2月終わりのラージボール試合は、3人でチームをつくり、3ダブルスで試合するのだが、チーム編成は主催者が行う。チーム間の力量差が小さく、新鮮な出会いが多くなるような編成なのだろう。なぜか、私たちのチームが優勝してしまった。沖縄トップの人が入っていたからだろうが、足を引っ張らなくてよかった。一度もペアを組んだことのない人とやるのも、面白いものだ。

11日には、宜野湾オープンの試合。すっかり忘れていたが、クラブの仲間から、去年は3部で私が優勝で、仲間が準優勝だったと伝えられる。こういうことも忘れるようになった。今年はどうなるだろうか。中高生を含めて、多世代と試合できるので楽しい。

それにしても、わがクラブのメンバーは急速に上達している。それに追いつくのは大変だ。

2018年02月24日

コンピューター交換

これまで使っていたコンピューターの動きが悪くなっていた。インターネット関連の仕事をしている親戚に相談。子どものころからよく知っているのだが、コンピューターなどでは何度もお世話になっている。交換のなかでわかったことを並べよう。

前のコンピューターは、とても動きが悪くなっていて、ストップ直前状態だったようだ。原因は、よく使って、ディスクが摩耗しているということだ。私の使用量は、一般家庭並みではなく、企業での業務並みだそう。4年間、よく働いてくれた。

彼は、私のコンピューター使用状況を見て、それに合うものを選んでくれた。既製品ではなく、必要な機能を注文し

てから作るというものだ。製造会社は、初めて知る IIYAMA といって国内生産をウリにしているようだ。いまでは、ほとんどが海外生産のなかで、国内生産は珍しいようだ。既製品のように、必要でないソフトなどはない。メール・ウェブアクセス・写真・音楽・ワード・エクセルなど必要最小機能だけが入っている。だから、料金は低く抑えられる。

前のコンピューターは、立ち上がるまでに数分かかったが、新コンピューターは、10秒余りだ。

画面は、横幅55センチとでかい。これまでのものも45センチと大きい、それよりも大きい。年寄りには助かる。

彼は、前のコンピューターにあるデータを全部新コンピューターに移してくれた。作業は敏速だが、前のコンピューターの動きが遅すぎて、ユンタクする時間の方が長くなった。

私のコンピューター使用は、もう30年を超すが、いつも優れたアドバイザーに恵まれてきた。今回もそうだ。元気であるうちはコンピューターを使えそうで、幸せだ。

2018年02月06日

野鳥が野菜の新芽を食い尽くす 中山交流会

このごろの庭畑の話題で大変なこと。野鳥が、ベランダで育てている野菜の新芽・苗・種を食い尽くすことだ。百合の花芽まで食べている。

毎年、3月ごろになると、よく見る光景だが、今年は早いだけでなく、徹底的だ。気候のためか、鳥の餌が少ないのだろう。とくに虫が少ないようだ。蚊などはまったくいない。冬でも出会うのが例年の事だが、今年はまったくいない。

ということで、野菜の新芽を食べ尽くしている。防ぐためのいろいろの作戦をしてきたが、完膚なきほどに失敗。防ぐことをあきらめて、春になって、鳥の餌事情がよくなるのを待つしかないのだろうか。

ネギ・ニラ・セロリ・ルッコラ・パセリ・ハンダマなどは、強い香りをだすためか、食べないので助かる。ハブ類も食べない。

4日は、私が住む中山の交流会。公民館で区民が集いユンタク。時々カラオケもはさむが、ほとんどがユンタク。子どもから老人まで、さまざまなユンタク。知らぬ間に、私は参加者のなかで2番目の年寄り。

ユンタクだから、話題はあっちこちに飛ぶ。昔の中山。子どもの話・・・

鳥が野菜を食べることを防ぐにはどうしたらいいか、農業の先輩の話聞く。一番うけた説は、「鳥の食べ残しを人間が食べる」 家庭菜園レベルでは、のどかな話で続く。

このところ、なぜか毎日予定で埋まる。久々のことだ。来客も多いので、ユンタクがはずむ。久しぶりに話し過ぎて、喉が酷使気味で、少し声がかすれる。こんなことは久しぶりだ。

それにしても寒い日々だ。

2018年01月29日

乱読の読書生活

相変わらず、乱読の生活だ。読んだ本のなかからいくつか並べてみよう。
鈴木庸裕ほか著『子どもの貧困に向きあえる学校づくり 地域のなかのスクールソーシャルワーク』2018年かもがわ出版

著者たちは、毎年一冊ぐらいのペースで関連図書を出している。著者たちの営みで、ようやくスクールソーシャルワークが定着してきた印象をもつ。数年前までは、この仕事がどんなものかを知らせる役目が大きかった印象だが、いまでは、地域や学校のなかできちんとした位置を占めつつ、充実した実践展開を紹介できる段階に至っている。そして、その営みが、まわりを変え始めた印象さえ与える。今後の一層の広がりや深化に期待する。



全国学童保育連絡協議会『学童保育情報 2017-2018』2017年全国学童保育連絡協議会刊

沖縄県学童保育連絡協議会『沖縄県学童保育支援員部会実践集 2017年度』沖縄県学童保育連絡協議会支援員部会 2017年

いずれもいただいたものだ。最初のは、現在の学童保育、とくに政策・行政とのかかわりについて、知るうえで有益だ。ここ10年ぐらいで、大きく発展していた姿、それでもなお一層の充実が求められていることが、わかりやすく描かれている。

二番目のものは、20近くの実践記録が収められている。とても親しみやすく有益で、保護者・支援員に誇りと自信を与える記録となっている。これほど立派な実践と実践記録が展開されていることは、私にとっても喜びを与えるものとなっている。

水口博也『プロに学ぶデジタルカメラ「ネイチャー」写真術』講談社 2014年

数年前に買ったが、放っていたままだった。写真が趣味になるのか探してみようと思って読んだが、どうやら私には「天上の世界」の事が多いから、趣味にはなりそうにないことを自覚させてくれた。それでも有益な点がいくつもあった。

内田樹・姜尚中「アジア境界論 これが日本の生きる道」集英社新書 2017年

アメリカや中国などの大国ではなく、韓国・台湾など「境界」につらなる日本をとらえてみようとする。興味深い視点だ。ただ気になるのは、台湾についての記述がすくないことと、沖縄についての記述がゼロに近いことだ。

蒲谷茂「歯はみがくだけでいいのか」文春新書 2013年

この半年近く何本もの歯を治療しているので、学習しなくなって読んだ。知らない事だらけだ。これまでも歯のケアをしているつもりだったが、もっともっとしなければと思う。

小林幹夫監修『果樹の上手な育て方大事典』成美堂出版2016年

庭畑が果樹園っぽくなってきたので、手入れについてきちんと学ぶ必要があると思い、読む。剪定など作業すべきことがたくさんでてきた。

2018年01月20日

PM2.5が減った?! 体調よし このごろの私

例年ならこの時期に苦闘する呼吸器系統の調子が、今年は悪くならない。マスク活用などの気配りもあろうが、PM2.5が減ったことが大きいような気がする。私は、毎朝、ウェブの天気予報サイトで、PM2.5予報をチェックする。大陸からPM2.5はきているが、沖縄にくるころには消えかかっているのだ。風向きに関係なのか、大陸での発生そのものが減っているためか、よくわからない。中国政府が、石炭使用の暖房を強権を使って抑制しているというニュースもあったが、それが効を奏しているのか。

ともかく、私にはありがたいことだ。

他の要因としては、恵美子が追っかけている健康法の相伴にあずかっているためだろうか。風呂で身体を温めるための錠剤を投入していて、身体が温まっている。もう一つは、振動によって、運動効果・健康効果をもたらす器具の活用だ。

そのあたりの因果関係は、日も浅いこともあって、よくはわからない。もうしばらくすると、わかるだろうと思う。

1月14日には、久しぶりの卓球試合に出た。ラージボールの個人戦だが、我が南城チームのメンバーはそろって活躍した。私も、それなりの活躍だった。苦杯をなめ続けた相手に、フルセットで勝つ。

我がチームの皆さん、ラージボールの練習も重ねるようになって、慣れてきたこともあるだろう。次の機会には、もう一ランク上の成果が期待できるような気がする。

1月10日には、中部地域の学童保育指導員の研修ワークショップをする。今回は、主任中堅クラスなので、経験者がそろい、素晴らしい動きとアイデア提出に、私は酔ってしまった。今月末にはその続きがあるので楽しみだ。2月3月にも、いくつかあるので、どんなものが生まれてくるだろうか。

本屋で、果樹の育て方の本を購入して読んでいます。10種類以上の果樹を育てているのに、こうした本を読むのは初めてだ。たとえば剪定の仕方などは参考になることが多い。ということで、このところ、剪定作業を次々にしている。

2018年01月17日

趣味探し 写真撮影 エッセイ書き このごろの私

ここしばらくとても寒かった。そして、ようやく寒さの小休止でほっとしている。

寒さのためか、野鳥たちも食料難のようで、ベランダに播いた種や新芽がどんどん食べられてしまう。コリアンダー(パクチー)や春菊は全滅状態だ。これまでやってきた鳥よけ作戦では効果ゼロだ。また考えよう。

仕事に一区切りがついた12月から趣味探しをしはじめた。恵美子が、庭畑や卓球ではないものをしてはどうか、という。絵を描くというのがアイデアの一つだ。

少々そそられる提案だが、まずはこの10年間撮り続けてきた写真の方が手っ取り早い。35年ほど前に、一時期凝ったことがある。一眼レフで、いろいろと撮影した。しかし、旅などの最中に、カメラ撮影に関心を向けると、周りの風景をじっくりと味わいにくくなり、数年間でやめた。

11年前に、ブログを始める時に、携帯電話撮影での写真掲載を始めた。しばらくして写真家の屋比久壮実さんお奨めのデジタルカメラを購入して撮影を始めた。気軽でいい。7、8年で故障し、2台目になった。でも、だんだん飽きてきて、現在は10年前の2～3割の枚数しか撮影していない。

でも、面白い写真がとれることもある。

ということで、「我が庭畑」で撮れた面白い写真を、A4版にプリントアウトして、階段の壁に貼り付けることを始めた。一日一枚貼って、20枚を越したところで、一休止。花・鳥・蝶・ハーブなど、私が好きなものを並べた。ハーブの写真も貼ろうとしたら、恵美子に止められた。

先日は、南城市文化協会主催の文化祭の展示を見に行っただ。趣味探しの一環だ。写真・絵画・盆栽・華道などの立派な作品が並んでいる。いいなあ、と思いつつも、美的創造の趣味は「私には無理だな」と感じる。

そこで、改めて趣味探しの再スタート。

まずは、これまでの卓球と庭畑を継続させる。そして、庭畑については、これまで同様、このブログで連載していく。それにエッセイ風を加えたいと思う。私の文は、どうも論文・解説文風になってしまうので、エッセイ風文章に挑戦してみようと思う。

エッセイテーマには、庭畑に加えて、「私の身体を考える」というのもやってみよう考える。

加えて、あちこちの散策とか、いろいろな人との出会い・ユンタクも、趣味といえはいえなくもない。そんなエッセイも書いていきたい。

こう並べると、これまでしてきたこととそう変わりはない。変えたいとおもうのは、エッセイ風の文章書きだ。これには文章修業が必要だ。

うまくいく確率は低いが、挑戦してみようと思う。

2017年

70代に入った暮らし

2017年12月31日

私の年末年始通信 老=熟、充実、楽の日々

大晦日です。30年余り、この時期に「私の年末年始通信」を多くの方に差し上げています。ブログ読者のかたにも、お送りします。

老=熟、充実、楽の日々 私の年末年始通信

2018年は、私の生まれ年の戌です。沖縄式にいうとトゥシビーになります。身体をはじめ色々な面で年齢相応に「老」が深化していきます。男性の平均健康寿命は約71歳だそうです、その年齢を健康で越えつつあります。ありがたいことです。

それはイコール熟だと、私は語っています。そして頭の方では、ますます発想・思考が拡散し、新しいものが次々と浮かんでくるのを楽しんでいます。

この一年間は、表向きはそんなに変わらず落ち着いたものでした。ブログ記事書き、授業・ワークショップ、市史調査・観光の諸委員会・学童クラブなど南城市関連の仕事、庭畑、卓球、体調、訪問者との出会いなど、例年通りですが、それだけに充実しています。変わったことというと、ニュージーランド旅をしたぐらいです。これらのなかからあえてトピックを選んでみましょう。

作る段階から美しく保つ段階へと移りつつある庭畑

20～40年ぶりの再会 アイルランドからの訪問 全生研で活躍した人

ネパール教育支援の会の20周年記念式典での出会い

40年前に大学で私の業務をアルバイトで手伝ってくれた人

30年以上前の卒業生との宮古空港での突然の出会い

こんな出会いや会合では、いつのまにか、私が最年長であることがほとんどになってきました。

そんななか、少々大きな事として二つあります。

数年かけた作業を集約した『魅せる沖縄——私の沖縄論』（仮題）の原稿が完成したこと。5月ごろに出版になればと思っています。沖縄にかかわって45年余りのなかで考え模索してきたことをまとめあげたものです。『沖縄とは何か』『沖縄らしさとは何か』といったことについて、多様な分野・時代を通覧して考えました。私にしては、かなり意欲的挑戦的に問題提起するもので、ユニークなものになりました。皆さまのご検討ご意見を期待しています。

もう一つは、学童保育クラブの指導員（支援員）の研修にかかわったことです。月2回余りのワークショップを沖縄各地でやっています。元気のいい参加者に圧倒されつつ、新しい発見に胸躍らせています。

単行本執筆に区切がつかまりましたので、次に何をしようかを目下模索中です。やりたいことが目白押しですし、考えれば考えるほど、さらに新しいことが登場してきて、いかに收拾していくかに困りそうです。

こんな私ですが、世の中の予測不能なほどの変化に私が響きあっているのかな、と思っています。

最後になりましたが、皆さまも、より楽しく充実した2018年になるように祈っています。

2017年12月21日

次のステージに向けて、気を抜くこのごろ

人生の次のステージに向けて、今、意図的に気を抜いている。その日々のなかで出会うものから、次のステージの手がかりが出てくるだろうと思う。その出会いを並べよう。

・多様な書籍を読み漁る。そのなかで印象的なもの

谷雅康・青木真理編著『転換期と向き合うデンマークの教育』ひとなる書房2017年12月18日

福島大学のメンバーが重ねたデンマーク訪問をもとにつくられた。私も教育に限らず注目してきたデンマークだが、本書には教育面で興味深いものが続出する。異次元の視点から、日本の教育を考えるうえで貴重なものが多い。

帯津良一『いさぎよく死ぬ生きかた』徳間書店2017年12月18日

とにかくパワフルな方だ。死に方までパワフルだ。だから、私とはかなり異なると思う。でも、「「かなしみ」が免疫力を高め、生きることを楽にする」「人間とは悲しいものだ」という個所は、私が抑えてきたことにもからんでおり、とても印象的だ。

・気を抜いている時に、テレビは便利だ。いつもより、倍ほどの時間見ている。二つの印象的なものがあった。

脱化石エネルギーに、環境運動やヨーロッパ諸国だけでなく、アメリカの巨大金融資本、そして中国が動き出し、そのなかで、パリ協定から離脱したアメリカ政府や石炭火力発電を輸出をすすめる日本が「時代遅れ」としてやり玉にあげていた。そういう、日本はもはや「先進国」ではなく「途上国」だという表現も出てきた。世界情勢は急激に変化しているようだ。PM2.5の中心発生源も大陸から日本列島の方に移るのだろうか、などと思ってしまう。

大津の琵琶湖近くの里山で自然環境を作りながら仕事をしている自然写真家の今森光彦の里山・庭と暮らしの番組は、私自身の生きかた・生活と響きあうことが多くて、見入ってしまった。早速写真集を買ってきた。

・趣味めいたものの幅を広げようと思い始めた。恵美子がカメラで写したものを壁にかざったら、と提案する。試みようかなと思う。

・私を10年以上にわたって、マッサージしてくれてくれた具志堅さんが、南天に興味をいだいていて、私が探してくるとお約束して半年がたった。18日、お店で売っている苗を発見。正月前に販売されるのだな、と気づいた。早速購入して具志堅さんのところに持っていく。手のひらで南天をさわって、感触を楽しんでおられる。彼は、時代劇小説で南天に興味をもたれたようだが、直接、見たことはないとのこと。眼の不自由なわたしの自然の楽しみ方も興味深い。

・18日は、補聴器点検、本屋、苗木屋巡りをした。私の難聴はそれほど進行しているわけではないとのこと、ひとまずホッとす。

本屋ではガーデニングの本のコーナーでいろいろと見るが、我が家に合うものが見つからない。ナチュラル・ガーデン関係を中心にみるが、ナチュラルとはいえ、我が家よりはるかに人工的だからだし、本州基準だからだ。

2017年12月04日

このごろの私 「私の沖縄論」の原稿は完成したが、今後何をするか

11月末に、5年ほどかけて取り組んできた「私の沖縄論」の原稿を完成させて、出版社に送付した。この後、いくつかの調整などが必要になるだろうが、ひとまず区切りがついた。

前著「沖縄おこし 人生おこしの教育」出版後、ワークショップシリーズ7冊を出したが、本格的な著書は久しぶりだ。

そこで、しばし意図的に空白期間をつくり、今後のことを設計する体力気力を蓄えることにする。ここ一年間は、論稿を書く作業に生活時間の中心的比重をかけてきたが、これからしばらくは休養しつつ、蓄えることに比重をかけることになろう。そのためには、しばし無計画でいようと思う。

ということで、11月末日には、久しぶりにジュンク堂に出かけて、本を仕入れてきた。そして、歯医者で、歯の維持のために、10本ほどの治療が続く。現在の26本状態ができるだけ長く続くことを期待している。

なにもしない期間に、ブログ記事を整理して、HPに掲載する作業をしておこう。当面は、ここ数年間に書いた南城関連記事が対象だ。

現在、ブログでは、4つの連載をしているが、そのうち「私流・人間関係スタイル」への反響が多い。このところ、老人・熟といったことを書くことが多いが、こうした問題を深めていきたい。と同時に、「生きる・死ぬ」ということも、いろいろと思ひめぐらすようになってきた。購入した本にも、そうしたものが多い。

書店では、2～3年前なら、教育関連・沖縄関連・地域関連のコーナーをめぐるが多かった。このごろは、生き方・人生・生死・老といったところに関心が向かってきているが、残念なことに、そうしたコーナーが特別にあるわけではなく、いろいろなコーナーをめぐることになる。

いろいろな本を見ていると、実にたくさんのタイトルの書籍が多様にある事に改めて気付かされる。本の世界も、小品種大量生産から、多品種少量生産の世界にシフトしていることが鮮明だ。

人々の生き方も多様化が進行している。私の今回の著書も、沖縄をめぐるのそうした傾向が見られることを示そうとしている。

他には、南城市史民俗編の仕事が今後数年間続きそうだ。また、学童保育指導員対象の研修ワークショップや大学授業などは続く。さらに、南城市の観光関連の委員会業務も3月末までは続く。

それらをしつつ、2～3か月かけて、今後何をするかを絞っていくつもりだ。

2017年11月24日

オープンガーデン當山全章さん宅 PM2.5 大雨とオオゴマダラ幼虫 柿届く

このごろの話題いくつか

寒くなると、北風の日々が多くなる。北風はPM2.5を運んでくる。気象ニュースは、「多い」から「少ない」「ほぼ無し」と示すが、私の呼吸器官は、「少ない」時でも反応する。「多い」となったら、外出を控える。マスクは必携だ。眼も汚れてパチクリする。今年もすでに3～4回襲来しており、PM2.5予報を見る日々が続く。

先日は、久しぶりの大雨だった。庭畑の植物には恵の水をもたらした。しかし、ホウライカガミのオオゴマダラ幼虫には悲劇をもたらした。葉っぱにぶらさがったまま息絶えた。

うれしいニュース。大好きな柿のプレゼントが岐阜から山形から二箱も届く。幼いころ、柿の木がどの家にもあり、子どもがどの家の柿をとって食べても叱られないところで育った。都市に出て、柿が結構な値で売られているのを見て驚いたものだ。

我が庭にも柿の木を植えてみたが、失敗続きだ。

プレゼントを楽しむ日々だ。

オープンガーデンが始まった。ガイドブックを見ると、行ったことがないのは、二つだけ。一つは久高島。いつか行きたいと思う。もう一つの所に開始日に出かける。四〇年の歴史のある立派な庭付住宅だ。植木と岩で立派に作られている。私にはとてもできない。相当に学習研究と投資が必要だ。私は、あくまでも私流の自然の流れでいこう。



写真は、オープンガーデンの當山全章さん宅

2017年11月21日

このごろの私 季節替わり 体力 南城市観光コア施設計画

急に温度が下がってきたこのごろ。今年は暑さが長期に続いたが、寒さは長くなるのだろうか。沖縄は、四季ではなくて、夏と冬の二季だという説が信頼を高めそうな感じだ。

私の庭畑作業も、冬バージョンへと移っていく。

このところの私は、週一回程度の南城市の諸委員会の会議、歯医者通い・眼科の定期健診、そして卓球というスケジュール。学童指導員研修は、次が12月下旬で、一休みといったところ。

12日には、ラージボール団体戦に仲間とともに出場。二年連続最下位という栄誉を獲得。実は、最下位脱出が確実になったところで、対戦していた私の体力の限界が超えてしまい、連続逆転負けとなったことが原因。技術的には、まだまだ右上がりだが、体力は、年相応に右下がり、一日10セットを超すと、身体の動きが極度に落ちるのだ。仲間に悪いことをしたと思う。このところ、そんなことが普通になってきた。工夫をしなれば、と思う。

16日夕方、南城市観光コア施設計画についての、若い市役所職員による三つのプランのプレゼンがあったので、拝見した。なかなか意欲的だ。たくさんのイベントプランなど、ソフトを先行させてハードを考えるとというのは、なかなかよい。

コメントを求められたので、イベントだけでなく、常設の日常的な魅力の工夫、南城らしさの追求、オープンに開かれた建物企画は素晴らしいが、同時に住民も観光客も居場所となるような閉じられた空間の設計も追求してほしい、などと述べた。

若い職員なので、イベントなどがディズニーランドに象徴されるようなものが軸になり、中高年を魅きつけるようなものもほしい。そんななかで、イベントの一案で、「豆腐」をめぐるものが面白かった。



写真は、レゴで作ったプランの一つ。

毎年、この時期には、オープンガーデンと半島芸術祭がある。半島芸術祭は今年はお休みのようで、残念だ。オープンガーデンめぐりは、しばらく後のブログで紹介することになろう。

オープンガーデンのパスポートを早めに取得したが、そのなかのレストラン紹介には、知らないところがいくつかあった。早速、その一つの「花さんご」にでかける。南城のなかではまだ希少価値になるだろう、本格的なフランス？料理が出る。価格も都市並みだ。こんな店があ

ってもいいと思っていたので、よかった。ガーデンが魅力の一つのようだが、制作中とのことだ。本格スタートが待たれる。

2017年10月24日

私の読書傾向の変化

単行本執筆も最終盤にさしかかり、次にどんなことをしようかと夢想をする頃だが、まだ夢想が浮かんでこない。以前の私とは大違いだ。以前なら、課題をいくつも貯め込んで、原稿締め切りを含めた宿題地獄から脱け出ることが夢だった。

それが大きく様変わりをした。宿題・課題はほとんどなく、自分なりに何をするか何をしたいかを見つけるという形

になってきた。今回の沖縄をめぐる執筆活動は、45年来の課題に答えようとするものだが、その課題も自分なりに設定してきたものだ。その課題に区切りがつくと、いよいよより一層自分なりのものを見つける作業に移ることになる。

読書傾向は、それを先回りする感じになる。しばらく前に久々に那覇のジュンク堂に出かけて、「本の買い出し」をしてきた。いまでは、事前にこの本を読みたいという候補はもたずに出かける。インターネット注文での購入は、そうした候補がある時にするものだが、もう数年間、一冊もしていない。書店で実際の本と向き合って、読みたい本を買うというスタイルになった。定期購読とか継続購入のシリーズものは、しばし前まではあったが、今は、全くない。だから、店頭の本との出会いはばかりだ。

多少、課題めいたものがあるとすれば、学童指導員研修を担当しはじめたので、関連書籍を2冊買ったくらいだ。

ということで、今回勝った本をいくつか並べてみよう。定番の教育学がゼロ冊になり、このところよく買っていた地域起こし関連書もゼロになった。毎回数冊買っていた沖縄書は一冊だった。

目につくのは、

人生後半期関連書 数冊

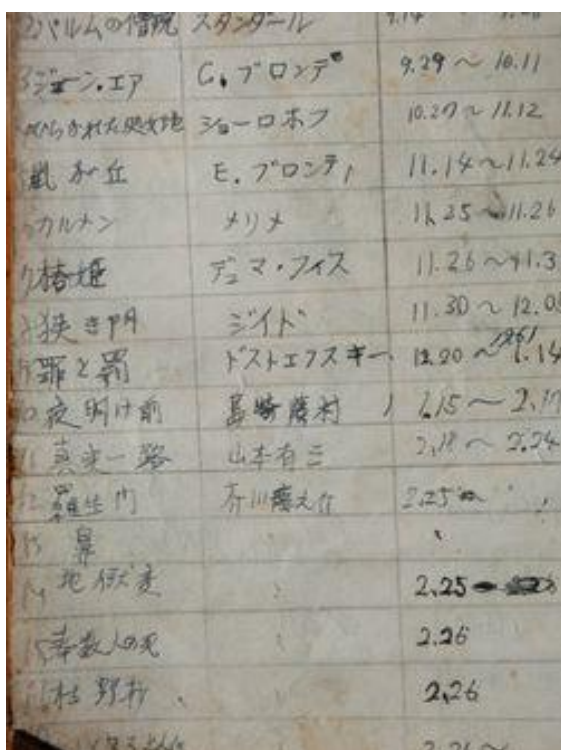
身体と生物学 関連書 数冊 である。

それらのすべてが、全く知らない執筆者ばかりというのも、今回の特徴だ。

そんな折り、神谷拓さんから贈呈新刊書が届いた。

では、買ってきた新刊書のタイトルを並べよう。すべて、夏以降の新刊で、これから読むものばかりだ。

汗はすごい	数年前から発刊量が激減したので、関心をもつ
対話でつくる教科外の体育	神谷拓さんの本 かれは、このところ年に一冊以上出している 爆発だ
「生きる」を考える	看護関係者による出版
高校で教わりたかった生物	私は高校時代「生物」を履修していない。
寂しい生活	タイトルが面白い
沖縄の戦争遺跡	知人の吉浜さんの本
遊びをつくる 生活をつくる	学童クラブ関連の本



生涯未婚時代 出そうなタイトルだ
 ビギナーズ生物学 人間の身体の事も知りたい

これらの読書を11月いっぱい楽しむつもり

写真は、老前整理で出てきた中学時代の読書ノート

2017年10月06日

このごろの私 季節変わり 学童クラブ 同友会

研究会 南城市観光施設委員会

日中の暑さは変わらないが、朝晩に吹く風が夏の終わりを告げている。タオルケットなしで寝ていて、ふくらはぎが冷えてしまい、調子がよくない。学童クラブ指導員研修で二度目の宮古行きの際、空き時間に宮古を一杯歩いたこともある。宮古には、新しいホテルが沢山でき、道も立派になってきている。

このところ、学童指導員の研修をしているなかで、学童についていろいろと考える機会が増えている。このブログの次の連載は学童保育を取り上げようかなと思いはじめた。

空気が変わったためか、夜の庭畑にホタルが出現している。今年初めてだ。

そして、ナーペーラやウリズンマメが実をつけるようになった。「酷暑をくぐったよ」というサインのようだ。パッションフルーツも毎日10～30個も開花している。

でも、雨が少ないから、水撒きがまだ必要だ。

そんな日々のなかで、招待されて沖縄県中小企業家同友会の経営研究集會に顔を出した。分科会・記念講演・記念パーティーと午後から夜まで、一杯の日程。すべて参加するのもいいが、体力を考えて、招待を受けた式典・パーティーは失礼して、分科会の出席だけにとどめた。

同友会大学の講師をしているので、参考になるものが得られそうな気がしたからだ。どの分科会に出ればよいか迷ったので、事務局の方のお奨めに従った。分科会は「経営者の成長は労働環境への取り組みから」だ。たくさんの会社などから50名余りの参加のもと、労働環境つくりをめぐる多様な体験談を聞くことができた。

給与・労働時間なども含めて、働きやすい環境をつくるための多様な試みと苦勞が多様に語られた。特に人間関係とか、チームつくりなどへの興味が膨らんだ。

私にとっては、ほとんどが初めての出会いの話の連続だった。それだけに新鮮で興味深かった。こんな経験をもとに、次年度の同友会大学での講座内容のバージョンアップを図りたい。

会場には、同友会大学で出会った方との出会いもあった。創立30周年になり、会員企業が1200社という同友会は、沖縄つくりにとって大きな存在感をもっている。今後の発展を期待したい。

南城市のまた新しい委員会にかかわることになった。名前が長い。南城市観光コア施設整備基本計画専門委員会。おまけに委員長をすることになった。この前段の基本構想委員会で委員長をしたから、その流れで止むを得ないだろう。これで、現在、南城市の3つの会長・委員長をすることになった。これまでも含めると、6～7個になる。なんと、すべてもともとの専門の教育学とは程遠い分野だ。物好きがこうじたという感じだ。

現在建設中の市役所の隣に、市民と観光者が集って、交流できるような施設をつくるという話だ。これまでは原野で、行ったことがある市民がほとんどいないようなところだが、新規道路やバスターミナルなども予定され、南城市の新たな中心と構想されている場所だ。それにしても、どれだけ魅力のあるものができるか、議論はハードはともかくもソフト面をどうするかがカギになる。多様な分野の専門家が集って、検討を進める。市民や職員から、そして観光者からもいろいろな意見が寄せられ始めている。

『健康』『元気』『創造的』な学童クラブ指導員に圧倒される 執筆・読書など このご

ろの私

このごろの私を書く前に、学童指導員研修ワークショップで圧倒されたことを書こう。

21日 浦添市役所講堂で、浦添の学童クラブ指導員の研修ワークショップをする。たくさんある浦添市内のクラブから参加。10日にした宮古に引き続くものだ。そして、10月～11月には、豊見城・八重瀬と予定されている。

共通のテーマは「遊び」なのだが、多様な遊びのなかで、どんな点に注目してかかわっていったらよいかを、ワークショップ形式で深めていく。とくに、既存の遊びをアレンジして、より豊かな遊びを作りだすことに焦点化した。

会場ごとに、地域の違い、参加者の経験の違い、世代の違いなどがあって、多様な展開になっていく。ワークショップは、参加者がつくりだしていくものだから、当然のことだが。

それにしても、すごい集中と行動力で、創造性豊かだ。ワークショップで同じゲームめいたものをして、会場によって全く異なる様相がでてくる。

それらの背景にあるものを一言で言うと、『健康』『元気』『創造的』ということだ。これらの言葉は、よく使われる言葉だが、最近では、『健康』『元気』『創造的』になりたい』という目標としてはよく聞く。ところが、ここでは現実には『健康』『元気』『創造的』だ』なのだ。だから、勢いがいい。そして、参加者から出てきたものがパターン化せず多様なのだ。たとえば、アレンジしたい遊びの名前を出してもらったが、驚いたことに、50人近くの参加者が提出したものにダブリがない。

なぜそうなのか、これは重要な検討課題だ。これから各会場で出会う指導員の方たちの協同創造のなかで、そのことを解明していきたい。

参加者の『健康』『元気』『創造的』に圧倒されて、コーディネートする私は、圧倒されてしまい、肉体の限界を超えてしまう。充実しすぎているため、その後丸一日は休養日になる。

学童研修とか、南城市史の調査とか、外に出かけるスケジュールが、週に1～2回ぐらいあるこのごろだ。このほかに、買い物、卓球試合・練習など外出する機会が週に2～3回。来客が不定期が多い。

私の一週間は、何もなく家のなかでの仕事に集中する日が約3日。外出日でも、外出時以外は仕事に集中。仕事の半分は、執筆活動。他に読書とブログ書き、そして雑事。

単行本執筆も大詰めになってきたので、完了後の「次はどうするか」をそろそろ考えたい時期だ。

読書は週1～2冊のペースで進んでいるが、8月に来宅したアイルランドの方から、英語のダブリン紹介の本をプレゼントされたので、読んでいます。英単語をイヤになるほど忘れていて、いちいち辞書を見るのも面倒なので、おおまかに文意をつかむ程度に読んでいます。それでも、アイルランド・ダブリンの特徴を少しずつ感じています。

2017年09月20日

台風後 秋の庭畑作業スタート コーヒーの本格収穫 クーラー設置工事 古本売却

今回の台風の効果

- ・風は風速15メートル止まりで、葉はちらかったが、枝が折れたのは1～2本程度。海岸のゴミをきれいにする効果はあった。
- ・潮風による被害は見られず。
- ・雨は思ったほど降っていない。17日夕には、さっそく水撒きを要求する植物があらわれた。
- ・気温を下げてくれる効果が、私にはありがたい。少しは秋めいた感じがする。

ということで、秋の庭畑作業本格スタート。

夏物の整理

苗・種まき トマト・レタス・チマサンチュ

伸びすぎた樹木の枝の剪定 クロキ・フウリンビッコウゲなど

そして、ビッグニュース

コーヒの本格収穫 いつもの年は11月はじめだが、今年は早い。先日赤くなったものだけを収穫したが、全体の3割程度だ。これから断続的に収穫していくつもりだ。



余談1 クーラー取り換えが完了した。高所にあるので、かなりの難工事だと、私は思うが、プロはすいすいとやる。ありがたい。クーラー設置のおかげで?、外気温まで涼しくなったこのごろだ。顔なじみの方に工事してもらうのは安心でもある。

余談2 古本買取 100冊余りで8000円余り 私の予想より少し下回ったが、許容範囲。老前整理なので、「よし」とする。

そして、古本屋も引き取ってくれないものを、古紙に出した。先日の学童研修では、30冊余り贈呈した。これで、この半月で、200冊余りを整理した。書棚に少しは隙間が出てきた。さあ、精を出さなくては、と思う。

親切なかたから、古本買取についてコメントいただいた。たしかに安い。買ったときの価格の5%ぐらいだ。ある程度予想していた。ちなみに、この古本屋は、本にバーコードがないと受け付けない。1990年代初頭以前のはバーコードなしで無理なのだ。これには困った。私の蔵書は、かなりの比率で該当するからだ。

2017年09月16日

台風 秋野菜 クーラー取り換え 古本売却 このご

ろの私



写真は、台風の風で、大波が押し寄せる 我が家ベランダから撮影

台風が来たが、風速15メートルとまりで、樹木の枝葉がちぎれる程度ですみそうだ。宮古では大変なようだが、宮古は台風対応の経験が蓄積されている。ここでも、この程度なら、日常生活上の変化はない。少雨傾向のなかで困っていた畑には恵みになりそうだ。といっても降雨量は多くない。

私も、秋野菜づくりにとりかかった。9月に入って、ようやく雨が降り始め、今回の台風による降雨だ。これからは、畑仕事の時間も増やす必要がある。7～8月の仕事の大半は散水だったが、それからは解放されそうだ。植えた苗は、トマト、チマサンチェ、コスレタス、セロリ、パセリなどだ。終了した夏野菜の代わりにどんどん秋野菜を植えていく。沖縄の野菜農業は、これからが盛期なのだ。

ちなみに、散水量が莫大で、水道料金新記録だ。合わせて、クーラー使用のため、電気代も記録的だ。

既にしたことだが、クーラー取り換えが我が家の話題だ。ここに住み始めて14年目に入る。当初設置したクーラーは、一つを除いて、取り換えてない2台を新しいものにする。

沖縄仕様といって、基板などの防御がしっかりしているもの、ヤモリの侵入ができないものだ。以前は、よくヤモリ侵入でトラブルがあった。機械をあけてみると、ヤモリの遺骸がころがっているのは、何度も見た。ようやくメーカーも、沖縄仕様を出すようになったというわけだ。

そんななか、一台だけは、一度の故障もなく、元気だ。それは容量が大きく業務用仕様のものだ。業者の方が、業務用は強いといっておられる。

今回設置工事するのは、住宅完成当初に設置してもらった業者さんだ。家電を買うのは、量販店も多いが、付随工事があるものは、知り合いの業者さんがいいと思う。料金的にも、量販店に優るとも劣らず、といった感じだ。

本日これから工事開始予定だ。

もう一つの話や、古本売却処分だ。我が家には1万冊ほどの書籍がある。老前処理として、何とかしなければ、と工夫してきたが、業者に売る経験はない。初めての試みでやってみることにした。連絡すると、ダンボールが送られてきて、それに古本に詰め込んで送るだけだ。どのくらいの値段になるかは、これからの過程でわかる。

本当は、図書館寄贈や個人寄贈をしたいが、図書館はまずは受け入れない。我が家を訪問する客に持ち帰ってもらうのが、一番多い。

これからもいろいろと工夫していこうと思う。

2017年09月04日

夢で長男とハグ zitternix クーラー 歯 このごろの私

年齢を重ねてきたせいか、家族メンバーの夢をみるが増えてきた。その極めつけの夢を先日見た。家族が何人かそろった時、長男が現われて、私に近づき、ハグし合う夢だ。お互いにとまどいながらのハグだった。長男は、成人していた。亡くなった時は、満3歳直前で、今存命なら43歳だ。40年ぶりの再会となる。夢の中だが幸せを感じた。



先日のアイルランドからの家族の来宅の際、zittermixというゲームを持参し、皆で遊んだ。私の子ども時代には、将棋の駒を積み上げて、そこから一枚ずつ引き出す遊びがあった。その際、崩さないでやるのが条件だった。その遊びに似ているが、これでは、9本ずつの青(太い)・赤(中ぐらい)・黄(細い)の棒を、崩れないように、一本ずつ引き抜くゲームだ。

彼らが帰った後で、取り寄せて、二人で楽しみ始めた。結構楽しめる。しばし、我が家のブームになりそうだ。昨日は、訪問客と一緒にやった。結構ウケる。

我が家が完成して13年たつ。その時の設置したクーラーの寿命が切れ、部品もないので新しいものに入れ替える時期になり、業者にお願いしている。

そういえば、歯の修繕にも取り掛かっている。新聞で平均本数が報道されていたが、それよりはずっと多いが、補修が必要な歯は多い。80歳で20本という目標設定がいわれているが、現在25本。なんとかいけるだろうか。

卓球の試合。年齢別で70代の部がないので、60代に出場し惨敗。

そんな時期なのだ。

2017年08月24日

このごろの私 高温雨無し 歯 学童クラブ指導員研修 卓球 単行本執筆

このごろの私について、いくつか書こう

1) 7月から続く高温・雨無しに困っている。庭畑作業のほとんどが水撒き作業だ。いくつか枯れてしまった植物もある。最近の気候は、雨続きとなるかと思えば晴続きとなる。台風がこない。高温などは、記録更新続きだ。気候変動の影響が具体的にあらわれてきている感じだ。そろそろ、秋の作業に移りたいが、雨待ちだ。

沖縄では未体験の記録的な高温は、体調管理も難しくなる。こんなにクーラーをかけるのは、我が家では記録的だ。

2) 数年前に折れた前歯にかぶせたものが外れた。硬いものをかむとそうなるかもしれないといわれていたが、数年間何もなかったのに、忘れて硬い氷をガリッとやってしまった。歯医者にでかけて修繕中だ・

3) 大学授業が減ったと思ったら、学童保育クラブ指導員研修の講師の仕事が、大量に舞い込んできた。大学授業の一

年分1コマ相当に近いものだ。この仕事はすでになんとかやっているが、受講生が熱心で明るくて、楽しく充実していて、やりがいがある。

今回の要請は、沖縄各地で連続してやるものだ。私の体力を率直に申し上げて、大人数は無理だし、長時間連続は無理ということを考えていただいた。

ということで、まずは9～10月に3回も宮古にでかけることになった。宮古はよく行くが、こんなに連続するのは初めてだ。ほかにも、いくつかの地域で予定されている。

少し新しいバージョンのワークショップを構想しようと思っている。

4) 卓球の試合も、一か月に一回ぐらい出場している。7月の浦添オープンでは、決勝戦で同じクラブ仲間に当たってしまった。春にも、同じ人と決勝戦で当たった。結果、勝ったり負けたりだ。

これからも、月に1～2回の試合に参加しそうだ。学童の研修と、うまい具合にかちあわないで、出場できる。

20日の糸満オープンの試合は、2勝2敗で順当なところだ。高校生を含む若い人とやるのは楽しい。私の球速の倍あるスマッシュを上手くさせないように、技を使うのが私流。会場を見回すと、私より年長は一人プラスアルファ。クラブ仲間が、「浅野さんの年齢までやるのが、当面の目標だ」といわれてしまった。

5) 仕事の中心は、単行本「沖縄的」「沖縄らしさ」の最終作業だ。形をみせつつある。創造的作業なので、楽しく進めている。若い時の苦行的原稿書きの時代は、とおの昔の話だ。

2017年08月12日

会議など ネズミ侵入と確保 町づくりの柱としての福祉 このごろの私

8月上旬、なぜか会議などがよく入る。この年になっても、いくつかの委員会などの仕事があるからだ。頼まれることは、それだけでいいことだと、誰かが言ったが、そういうことにしておこう。そして、なぜだか、委員会の会長とか委員長になっているので、進行役と相談役を務めることになる。委員の中の最高齢者のようだから、まとめ役として、そうなる流れのようだ。南城市だけに絞ると、この10年間で、五つの会長委員長をした。10代20代にはそんなことが多かったが、30代40代は、そうした役目をできるだけ避けてきた。まとめ役よりは、自分で突き進む方が好きだったからだ。

さて、こんな役目は、いつごろまで続くのだろうか。

それにしても、10日夜は、久しぶりのダブルヘッターをした。疲れは翌日昼まで続く。どうやら、二つ連続には耐えられないようなので、今新たに要請されている仕事も、一日に二つやることになれば、間に長時間休憩を取るようお願いしている。

森の中の家で、自然と共生しているから、動物たちが、しばしば家の中に現れる話は、繰り返し書いてきた。アリは、昨年まで大量に家屋侵入してきたが、今年はほとんどいない。ありがたいことだ。

先日、久々にネズミが侵入してきた。網戸に穴をあけて入ってくる。三ヶ所もあけられた。そこで、チュー・バイ・チューという商品名の、ゴキブリホイホイの類のものを仕掛けた。以前もそれで、何匹もとらえたからだ。今回は設置後1時間ぐらいで、引っかかった。その後、現れないから、今年は一匹の侵入のようだ。

網戸が古くなってもろくなったためもありそうなので、網戸の張替えを業者の依頼した。

そういえば、庭畑の大量に居た蚊が激減したので、短パンで作業できるようになった。育てている大量のハーブが蚊を寄せ付けないという考えがあるが、どうだろうか。

間もなく、息子家族が孫三名を含めて、到着する。小中高校生だ。毎年恒例になっているが、来てくれるだけで嬉しい。どんな滞在生活になるのだろうか。

下旬には、外国生活中の古い友人たちが来訪する。毎年、下旬から9月初めにかけては来客シーズンだ。

余談 このところ、南城市は人口増が続いている。西側地域にアパート・マンションが増加し、移住してくる若い世代が多いのが一因だ。とすると、保育所・小学校・学童クラブなどの増設・収容定員増といった、子ども向けの対応が求められる。あわせて、高齢化の進行のなか、高齢者対応が増えてくる。ということは、町づくりにおいて、こうして福祉・教育的な面での計画的な対応の必要性が増すということだ。

町づくりは、雇用を含む経済産業的な面で語られがちだが、福祉面での対応、つまり住みやすい町づくりが求められている。だが、福祉諸政策は、国の諸施策からの委託経費・補助金で賄われることが多く、町づくり上の予算で検討されることが少ない。教育にしてもそうだ。だから、福祉関連担当者は、創意を発揮するよりも、上から下ろされてくる業務への対応に追われることが多い。

住みやすさは、若い世代では「ロコミ」で伝わることが多い。そうした意味では、若い世代に必須な子育て環境の具合で、よい「ロコミ」が伝わるような施策が求められる。だが、若い世代は、居住歴の短さに加えて、仕事や子育ての繁忙さのため、行政関係者や地域の重鎮などとのつながりが弱い。その点を関係者がどうすくいあげるかに、力量と姿勢が問われているのかもしれない。

2017年07月10日

果実 花 体重増加 このごろの私

暑い本格的な沖縄の真夏が続く。だけど、我が家でクーラーを入れる時間は短い。私だけが家にいる時は、4階の仕事部屋にいる時の一時間足らずだ。来客は、「この家は、涼しい。いつも風が通る」と異口同音でおっしゃる。幸せなことだ。

いくつかの話題。

1) 先週、話題にしたイソヒヨドリの巣から卵が消えた。親鳥も消えた。多分、私が巣と卵をのぞいて撮影したのを親鳥が見て、危険を感じて引っ越したのだろう。

2) ドラゴンフルーツ。6月中旬までは晴天が少なかったためか、生育不良状態だった。しかし、下旬からは順調で、

先週初収穫と15個ぐらいの第二弾の開花。8月上旬には収穫ができそうだ。

3) 大量のパッションフルーツは、来客があるたびに、どんどん差し上げて、ようやく先が見えてきた。次の開花が見られた。カニステルやバンシルーも実をつけ始めている。

4) サガリバナが大量に蕾の房を垂れている。2本の木とも、数十本の房を垂れている。今週半ばから終わりにかけて見頃を迎える。よく新聞に掲載されている写真記事のようになりそうだ。



5) ベランダ野菜も順調だ。今年は、キウリとナーベラはうまくいって、収穫しているが、なぜかゴーヤが失敗。なんとかしようと思っている。

6) なぜか体重増だ。

今年に入って、1～2キロ体重増になり、現在65キロ前後だ。64キロぐらいが良さそうなので、少し戻したい。外食する機会があると、すぐに1キロ太る。

食欲旺盛なので、6分目ぐらいに抑えようとしている。家での食事だと美味しくいが、外食だと、つい食べ過ぎる。忙しくなると、体重増になりやすい。今週からはようやくコントロールしやすい条件が出てくる。

30年以上前は、卓球の試合後、1キロぐらい痩せるのが普通だったが、このごろは、逆に太る。「腹が減っては・・・」ということで、きちんとカロリーをとって試合にのぞむのが、裏目のようだ。発刊量の減少も一因のようだ。

ウォーキング、畑作業、卓球はせっせとやっており、運動量は維持状態が続く。それでも体重増なので、食べる量を減らすしかない。食べるものが美味しいので、減らすのは大変だが。

2017年07月09日

追悼 根間武雄（義兄） 多くの事があった一週間

授業も終わり、今週からは執筆研究活動などに集中できるはずだった。でも、たくさんの事があった。

週の初めは、南城市史の聴き取り。三人のベテランから話を聞く。充実の聴き取りだった。その内容の文章化は、充実した内容だけに、結構な時間をかける。

その後は、沖縄についての単行本執筆に集中できるはずだった。ところが、いろいろとあった。石油ボイラーの運転中止サインが続発していたが、その都度、スイッチ入れ直して対応してきた。しかし、ついに動かなくなった。こういう時は、福原の三線プロの加藤さんの出番だ。加藤さんは丁寧にみてくださる。ついにはメーカーの所長さんまで登場。

結論として、14年間の使用で取り換えるしかないという事になる。いつも、加藤さんにはお世話になる。

そんな時、太陽光発電の点検がある。実は、我が家を設置した会社は、もういまやないということだ。多くの太陽光発電設置会社が同じ運命をたどっているようだ。いまはない会社からリストを引き取った、初めての出会いの会社が、点検してくれる。問題なしとのことで一安心。メーカー10年保証なのだが、長くつきあうなかで、どうなっていくのだろうか。

加えて、この一週間は、他にも営業訪問が多かった。

それらへの対応に一区切りがつきかけてきたころ、訃報が舞い込んだ。

6日、義兄の根間武雄さんが亡くなった。義兄にいろいろしてもらったことを思い出す。私には、恵美子の兄弟つながりで5人の義兄がいる。だが、皆さん、お亡くなりになった。恵美子の親族関係のなかの男性では、ついに私が最年長になった。

私が、沖縄生活を始めた1970年代、そして1980年代と、義兄たちには本当にお世話になった。このあたりのことは、連載している「私の人生シリーズ」の臨時版で改めて書くことにしよう。

葬儀の一連の儀式につき合う。そのなかで、いろいろな出会い、語り合いがあった。忘れていたことが、義兄のこと



で思い出されてくる。義兄の結婚証人になったことも思い出した。たくさんいる義理の甥姪、そしてその子どもたちとの語り合いが、夜遅くまで続く。私は、恵美子との結婚をきっかけに大家族のつながりのなかに入り込んだのだ。

いくつも人生物語が入り混じり、豊饒さを感じる。たくましく、かつやさしく生きる人々。10年単位の新たなドラマが、並行交差して続いているといった感じだ。

夜、義兄を追悼するかのように、月下美人(写真)・ドラゴンフルーツ、サガリバナの花が咲き乱れる。

2017年06月29日

このごろの私 南城市史調査 単行本「沖縄的」執筆 暑さとイノー散策

授業も終わりが近づき、私の日程表はガラガラになる。そんな折、日程を埋めるのは、南城市史の調査活動だ。私は四つの字を担当しているが、昨年まで二つの字を中心にしていたので、今年は他の二つの字を中心に取り組む。今は、聴き取りの予約をしている。7月に入ると、聴き取り活動を進める。8月に入ると、各字で行われる行事の参観も始まる。結構楽しい仕事だ。

今年の調査の中心にしている字は、すでに字誌や記念誌を発刊しているので、発刊の背景、書ききれなかったこと、そして発刊以降の事などをお聴きする予定だ。

そして、何よりも、「沖縄的」についての単行本執筆の最終追い込みに入る。これから2～3か月は、それが中心に回

る生活になりそうだ。もとになる原稿があまりにも莫大なので、それを6～7割に絞り込みながら、内容を凝縮していく作業だ。これまた楽しい作業だが、相当な集中が必要な作業だ。夏が好きな私にはもってこいだ。

なぜか、年々暑さに強くなっていく。私の仕事部屋はクーラーをまだ一度も動かしていない。自動車も、恵美子が助手席に乗るとき以外は、いれていない。私の温度設定が31度なので、人を呆れさせている。街の中に出かける時は別にして、窓を開けて自然の風をいれるだけで十分なのだ。自宅も風通しがいいところなので、クーラーの必要は、除湿が中心だ。

例年だと、寝室を4階から、やや涼しい2階に変えるが、まだ4階のままだ。今年の梅雨明けは、すっきりと夏の太陽100%の感じではなく、梅雨の残像が残っている感じだ。雲も多いので、干潮時間の2～4時に、イノーまで出かける海岸散策をしている。

写真は、いつも散策するイノー二か所

こんな風に書齋型生活中心に回る日々だ。市史調査活動、いくつかの会議・講座などを含め、仕事については週に一回のスケジュール（たまに2回）の時間が続きそうだ。

単行本執筆のメドが立つ年末以降、来年からはどんな仕事を軸にして、日々の生活をまわしていこうか、それを考えるのも楽しみになってきそうだ。



2017年06月02日

このごろの私の研究生生活

6月に入るが、今年はなかなか暑くならない。そのせいか、ライチの実が赤くなるのが遅いなど、いろいろの植物がゆっくりしている。サガリバナの開花だけが早い。それでも、もう一週間もすると、庭畑のいろいろな出来事が連続するだろうから、このブログもそんな記事が多くなりそうだ。

今回は、庭畑記事を予定していたが、趣を変えて私の研究生生活について書こう。

琉球大学授業も昨年度で終了し、今年度は今週終了した看護大学、そして今月の4回だけの沖リハの授業だけだ。7

0歳を過ぎたから、大規模授業は体力的に無理なので、少人数の授業だけ引き受けている。お陰で、授業負担がぐんと減った。それでも、今後数年は、授業をすることになりそうだ。この年齢まで授業をするイメージはなかったが、授業が好きな私には嬉しいことだ。

ということで、私の日常生活での研究の比重が高まった。毎日数時間以上、書齋型の仕事をしている。その仕事をインプット（読書や資料収集分析など）とアウトプット（原稿執筆など）に分けると、その比重も後者中心に移ってきた。

ここでの生活は満14年になろうとしているが、当初はツンドク書籍が100冊ぐらいあったが、それもずっと以前になくなった。それでも月に一万円以上書籍を購入し読む生活を続けてきた。というので、インプット過剰状態に陥ってきた。だから、最近では、アウトプットの比重が高まってきた。

アウトプットには、依頼されたものと自分でしたいことの二つがあるが、15年前には、3割以上あった依頼原稿の比率は減り続けている。お陰で、自分が好きなことを中心にして、自分なりに創った仕事中心の研究生活になっている。依頼された仕事の現在の中心は、南城市史民俗編のものだが、これまた、自分なりに進めていく仕事なので、現在は、ほとんどが自分なりに進める仕事となっている。

20年ぐらい前までは、いくつもの依頼原稿を抱え、締め切りに追われた生活とは比べようがない研究生活だ。

だから、無理をするということとはほぼない。マイペースですすめられる。結果的に毎年、400字詰め原稿用紙換算でいうと、数百枚書いているが、原稿書きで体調を崩したことは、ここ十数年ない。原稿一本書くごとに、体重が1～3キロ減り、体調を壊すことが多かった20代、30代と比べると、雲泥の差だ。

今、中心に進めているのは、「沖縄らしさ・沖縄的とは何か」といった類の単行本執筆だ。興味深い仕事なので、準備作業原稿は、30～40万字になるほどだが、それを集約し整理して現在22万字までに絞りあげた。それでも冗漫なので、15万字以下にスリムにする作業を進めている。秋にはまとめあげたいと思っている。

この作業は、もともとの私の専門分野の教育にかかわることは、全体の1～2割に過ぎない。どうやら、教育研究者という肩書ではなくて、沖縄研究者という方がいいのだろうと思う。

その作業が終了した後の研究も楽しみにしている。「取らぬ狸の皮算用」だが、南城を軸にする地域論、そして人生創造論などといきたいのだが、どこまでできるのだろうか。



2017年05月29日

サガリバナ開花 スーツケースの鍵物語

亜門邸の思い出 卓球試合 このごろの

私

このごろの話題いくつか

1) 24日にサガリバナ開花スタート。今年は早い。木

が5メートルを超す立派なものになってきたためだろうか。本などには、6月から10月ごろが開花期と書いてあるが、我が家のものは、12月まで咲くし、ある年は正月も咲いていた。今年はどうなるだろうか。

2) スーツケースの鍵物語

春にいただいたスーツケース。鍵が開かない。鍵も見つからない。新品だから何とかしたい。そこで、鍵屋に行く。一つの店は、2回とも「出張中」で留守。次の店は、合鍵専門で門前払い。次の店では、超ベテランが応対。何とかなりそうという期待をもつ。でも、いろいろとやるが、なんともならない。そこで、留め金を切断するしかないという事になる。

ところが、切断後、何かの拍子に、鍵が開く。鍵の開け方が絶妙に難しかったのだ。鍵屋さんと顔を見合わず。お互いに笑い。代金を支払おうとすると、「鍵屋として役立たずなので」ということで辞退された。

ともかく、この新品のスーツケースが使えるようになった。これまでも鍵などはかけたことがないので、私にとって問題はない。

3) 近所の宮本亜門邸が、人手に渡ることになるらしい。いろいろと思い出がある。13年前ここに住み始めたころ、亜門邸で何度か会合があった。「島や宝」コンサート企画などがあったからだ。とても、素敵な邸宅だ。このあたりの新しい住み方の開拓的位置にある何軒かのうちの一つだ。

亜門さんに我が家に来ていただいたことも何度かある。亜門さんはどんどん繁忙になり、玉城の家に来られる機会が激減し、私もここ数年お会いしていない。やはり有名人は違うと思ったのは、お宅の前で、二人でおしゃべりしていたら、観光客が続々と集まってきたので、退散したこともある。

亜門さんの今後の活躍を祈念している。

4) 卓球

28日は、恒例の体協主催の南城市字対抗卓球大会。かつての優勝チーム中山は、選手不足のため欠場という事になり、4～5年前から、船越の補強選手として出場している。昨年は優勝した。

今年は、初戦から優勝候補と激突。加えて、私は、県内でも著名な最強選手とあたり、花散った。無論、一度も勝ったことがない相手だが、最終セットではジュースまでいったから、善戦と思おう。パワーに対処する技術向上が必要なところがまだまだあることを確認。



2017年05月07日

私達のゴールデンウィーク

毎日が日曜日の私にとって、ゴールデンウィークは他人事だ。若い世代を会った時、街中に出た時、観光客に出会ったとき、「ゴールデンウィークなんだ」と感じる。そして、「私たちもゴールデンウィークしなくちゃ」



と思う。

今年は、少しはゴールデンウィークらしく、出かけたり、来客を迎えたりする機会があった。並べよう。

・八重瀬新施設「南の駅やえせ」

できたばかりの施設。以前の具志頭村役場の模様替えだ。山羊汁を食べる

・仲里園芸店（一番はじめの写真）

ランの専門店 店というよりも、大規模な栽培ハウスといった感じ。糸満観光農園の裏手にあり、我が家から16分ぐらいで行ける。ここ何年か、この仲里園芸店とすぐ近くにあるはずの新垣ラン店でランを買うことが多い。今、着生ランを試み続けているので、お店の方に、おすすめのものを選んでいただいて、7～8点購入

・来客

今年は、一組だけ。楽しく語らう

・友人宅訪問

今年は、中部の友人宅を二か所訪問した。初訪問だ。新鮮な暮らしぶりを感じる。中部の新しい道路が多い。初めて通る道ばかり。我が家から、私のスロー運転で、1時間ほどで、沖縄市とうるま市の境目あたりまで、あるいは読谷まで行けることがわかる。

・隣の飲み会への参加



友人宅訪問から帰ると、隣が庭で家族パーティー。4世代10数名の楽しいバーベキュー。ご招待にあずかり、楽しく歓談。おの近辺にふさわしい。

・我が家への道路の脇に、お地藏さん風のを置く。気づく来客が多いが、評判がいい。玄関先のASANOの「表札」も評判がいい。材料費500円と話すとき驚かれる。ああいうのを、オブジェというそう。

2017年04月22日

70～80代の卓球 私流の会議司会 我が庭畑の開花予想

3月、4月の卓球ラージボールの試合の決勝戦で、双方とも80代の方との対戦になってしまった。一勝一敗。双方とも、実力が高い方であることはいまでもないが、驚くほど元気な方だ。周りの人は、「どう見ても80代に見えない」と異口同音にいう。私もそう思う。

他方で、以前よく対戦した方の訃報に接することもある。70代80代ともなると、年齢差というよりも個人差だといわれるが、その通りだと思う。

楽しく長く続けておられるには、その人なりの工夫があるように思う。私も、自分なりに工夫していきたい。体力の年々の低下はやむを得ない現象だが、それを工夫したワザで、なんとか補っている。まだまだ、実力は低下していない。もしかすると、上がっているかもしれない。



それにしても、年相応の失敗をしばしばする。先日の看護大学授業では、教室で補聴器の箱を開けてびっくり。乾電池だけで、肝心の器具が入っていない。前回使用した時に乾燥器に入れたままにしておいたのだ。両隣の受講生には「通訳」の労をとってもらうしかなかった。

ところで、私が「長」のつく会議が年度末年度初のこのごろ多い。私流の司会でやっている。

よく見かける、メンバーの挙手⇒司会による指名⇒発言、というスタイルではない。

発言者は、発言への構えを、私への「目くばせ」で示し、私はそれに「目くばせ」で対応する。時には、「目くばせ」なしもあるが、たいていは気にしない。複数の人が同時に発言意思表示をした際には、発言回数が少ない人を優先するというルールを加えることがある。こういうスタイルだ。

これでいくと、時間短縮になるし、発言へのハードルも低くなる。

発言が少ないメンバーがいると、「そろそろ、〇〇さんのご意見をききたいなあ」と私はつぶやく。そうすると、たいていは、というかほぼパーフェクトにその方の発言を得られる。

こんな風にして、全出席者の発言が得られる。

このやり方は、ワークショップ型授業での私の進行と同じだ。

無論、利害や見解の対立が激しい問題の時は、そうもいかないだろう。だけど、そういう例は、ここ数年出会ったことがない。

陽気がよくなり、少なかった雨もそこそこに降っているので、庭畑の花が開花し始めた。パッションフルーツ、アマリリスが開花しはじめ、オクラレルカ、ティートリー、ハンギングヘリクニア、ユリがまもなく開花だ。次回あたりには、紹介できるだろう。

そんななか、鉢にあったランを着生ランにする作業を進めた。
すると、昨年着生ランにしたものが、見事に開花し始めた。

新聞に、高いところにあったガジマルが根を伸ばして、地面に着き勢いよく生育している話題が掲載されていた。我が家の玄関脇においてあるいただきものの盆栽のガジマルも、鉢底から3メートルも根をおろして、着地し元気よく育っている。

2017年04月02日

年相応に減る新年度の仕事

新年度を迎えた。といっても、これまでのように何コマも授業を担当するわけでないし、まだあるとしても諸委員会などの会議の数も減っているので、年度替わりの実感は薄れてきている。

それでも新年度は新年度だ。こんな仕事が残っている。

授業では

沖縄県立看護大学『教育学』の授業 もう10年余り続けている。

沖縄リハビリテーション福祉学院言語聴覚学科で、対人関係のワークショップを4回

※琉球大学教育学部は、昨年で終わりにした。

会議関係では

南城市学童保育連絡協議会の顧問

南城市史民俗編調査委員 委員長

南城市文化センター・シュガーホールの運営審議会委員

南城市観光振興委員会委員 (委員長)

西原町中央公民館運営審議会 副委員長

※ ドングリ保育園理事は、2016年度限りで退任した

これらのなかで、年間10回以上の仕事となるのは、南城市史だ。結構興味深い仕事なので、やりがいに溢れている。

ほかに、講演・ワークショップが随時はいってくるが、もう多くはない。すでに決まっているのは一件だけだ。

前年度と比べると、7割ほどの仕事量になるだろうか。こうやって減少していくのは、加齢に伴う体力低下に上手く対応していて都合がいい。

他は、執筆の仕事だが、この方は自分で調節がきく。ほぼ前年と同じくらいで、ブログでの原稿調のものを合わせると、年間400字詰め原稿用紙換算で500枚余りになりそうだ。

ブログで連載記事を書くのは、結構楽しい。ということで、常時3つぐらいの連載をすすめていきたい。今の連載は、私の人生

観光

私流の庭畑

このうち「私の人生」は、あと10年余り続きそうだ。他の二つは、夏か秋に次のテーマの連載に移るだろう。

執筆の中心は、「沖縄らしさ」「沖縄的」についてのもので、今年中に、出版のメドをつけられれば、と願っている。

2017年03月28日

ユンタクお茶会 ビワの実の鳥との取り合い 活字化された執筆物

この時期になって寒さが来る。しかも大量のPM2.5を伴って。困ったもんだ。ユンタクお茶会で出会った一人の方が、PM2.5に困っていることを共有してくれた。外での仕事が多い人なので、鋭敏に感じてくださるようだ。

このところ、庭畑を含めて外に出る時は、マスクが必需品になる。

26日のユンタクお茶会には、10名ほどの方が集まった。5歳から70歳代後半までと多様な方々だから、ユンタクも実に多様になった。それにしても、子どもと高齢の方のエネルギー溢れる語りに圧倒される。話題は、本当にあっちこっちでユンタクヒッタクだ。

とても楽しいが、私は過飽和状態。

多様な人と話すことは楽しく充実するが、自分の体力が対応しきれないほどだ。さて次回はどうか。そして、オープンガーデンにすると、対応で疲れすぎることを危惧する。

今後はどうなることやら。

3月下旬に入って、枇杷の実が色づく。収穫時期だなと思うと、鳥が食べていく。せっかく袋がけしたのに、袋を破って食べていく。だから、鳥との先取り合戦だ。たいていは、先に取りられる。仕方がないので、少し黄色になりそうな段階で取って、ポリ袋に閉じ込めて、熟させてから食べるという作戦に出ている。熟すと結構美味しい。先日Aコープで枇杷を売っているのを発見。一粒あたり30円ぐらいか。我が家のものも商品になりそうなものが結構ある。

摘果をしたものは、粒が大きくなるが、してないものは小粒なままだ。今年の知恵をもとに、来年、さらに立派に収穫できるようにしたいな。

このところ、執筆したものが公開されている。琉球新報の書評欄に書いた物に気づいた方がおられた。九州教育学会のシンポで語ったこと（その概要は、2015年11月のブログで公開済）を原稿化した「沖縄における地域と教育」も活字化された。

そして、科学研究費で3年にわたって、若い研究者たちとともに共同研究してきた「川平朝申のライフコースを基軸として戦前から戦後沖縄の教育・文化実践史研究」（研究代表者齋木喜美子）報告書が出され、私の「「沖縄的なもの」と川平朝申」も掲載されている。

この共同研究では、多くの新しい発見があって有意義だった。そこで学んだことは、現在進行中の沖縄についての私

の作業にも反映していきたいと思う。

2017年03月26日

オープンガーデン 結婚式 沖展 会議ラッシュ このごろの私

3月末というのに、暖かい日ばかりでなく寒い日も多いのが、今年の春のようだ。春になかなかきれいな、という感じだ。

オープンガーデンは、今年は、9カ所回る。うち8カ所は再訪だ。最初のころからよく回っているのだから、通算すると、延べ100カ所ぐらい回ったかもしれない。随分、庭づくりの参考になった。植物の名前もよく分かるようになった。我が庭に植えてあるものが、大きくなるとどんな風になるのかわかったものも多い。



それにしても、「すごい」の一語に尽きる庭が多い。それだけに、焦点化するモデルを決めて、それを目標にするというよりも、自分流でいくしかない「開き直れる」感じだ。

花が多い庭園が多いのだが、多くの庭園では、一年草や購入苗を植えるよりも、丈が高い多年草ないしは花木をかなり多く育てられているのが印象的だ。写真の新里光子さんのガーデンがその好例だ。道路沿いの広い傾斜地に一杯の花が咲いている。50センチ～1メートルぐらいの高さに花が溢れている。

私は、公園のように、ベゴニアやインパチェンスのようなものをたくさん並べる形よりも、こうしたもの

が好きだ。

オープンガーデンに並行して開かれるガーデニングフェスタで、苗や土を購入することも楽しみの一つだ。今年は、カクチョウ蘭という沖縄自生のものを始めて知り購入した。また、「母ハーブ研究室」では、「蝶豆」というものを始めて見て、興味を持ち購入し植えた。

日曜日には、久しぶりの結婚式に出た。以前は教え子の結婚式などが多かったが、もうそんな年頃ではない。披露宴をすることが少なくなったことも、出席回数減少につながっている。

それにしても、楽しい。新郎新婦だけでなく、旧友との出会い、さらに新たな知り合いになる人も多い。

ここ数年、沖展に出かけている。沖縄タイムスの読者サービス券をいただいているからでもある。出展点数は、絵画や書道が多いので圧倒されるが、彫刻、木工など立体的なものが面白い。眺めていると、多様な美術ジャンルがあっけなく飽きない。もしかすると、もっと他のジャンルも登場してくるかもしれないな、と思う。それにしても、旧知の作家の

出展が増えてきた感じだ。各作家のヒストリーを感じるが多い。作家が熟してくるのに気づくことも楽しい。

毎年のことだが、3月後半（時には4月にかけて）、年度末年度初めの会議が目白押しになる。出席しなくてはならない会議がこんなにあったっけと、改めて気づく。70代に入ったから、自主的に「定年」を決めていく必要があるそうだ。ということで、少しずつ減らし始めている。それでも、「こんなに役立たず」でも使ってくださいることを喜ぶべきか。

26日午後は、予告してあった「ゆんたくお茶会」。どんな出会い、ユンタクが弾むか楽しみにしている。寒さが戻ってきて、ティートリーの開花は程遠いが、いろいろな開花・新芽が、春を感じさせてくれるこのごろだ。

2017年03月11日



いくつか書こう。

1) 玄関アプローチに、手作り表札（案内板）を作った。ニュージーランドの個人住宅の前に立てられているものにヒントを得た。我が家の表札が見えにくいという訪問者の感想が多いこともある。

ガジマル剪定の際に出た太い枝を切って、立てかけた。それに横板を貼り付ける。そこに、百均でみつけたアルファベットの板でASANOを貼り付ける。その横に、フクロウの装飾品（マツポックリ製）を乗せる。

合計500円なり。

2) カラスによる我が家周辺の鳥事情の大変化

最近、隣の森にカラスが住みつき始めた。以前は、時々来る程度だったが、今では常時いる。そこで、隣の森からコウモリの姿が消えた。さらにツミを見かけることも減った。ツミがカラスを退治するとおもっていたが、先日、カラスがハヤブサを追い出すのを目撃してしまった。

当然のことながら、他の小鳥たちの数も減った印象だ。

そんな時、上空高く渡り鳥が群れをなして飛んでいるのを見た。

手作り表札（案内板） カラスによる鳥事情の大変化 腰痛体操 このごろの私

毎年、3月になると、いろいろなことが飛び込んでくるが、今年もそうだ。年度替わりなので、一年間のまとめの会議などの日程が次々に入る。10回近くありそうだ。ほかに、新聞の書評欄執筆なども舞い込んできた。加えて、来客も季節がら多くなる。

そんななかの日々だが、春めいてくるので、気分も変わってくる。

3) 腰痛物語 骨に異常はない。腰痛体操

長時間、飛行機にのったためか、ニュージーランドから帰って腰痛が出てきた。気になったので、先日整形外科で診てもらった。骨に異常はなく、筋肉痛（筋膜）だとのこと。一安心。医師から腰痛体操の本を渡され、するように勧められた。

腰痛そのものは治ったが、腰痛体操で、いままで動かさなかった部位を動かしたものだから、そこに痛みがでてくる。腰痛体操は、筋力強化というよりも筋肉を緩めるものがほとんどだ。コリ固まっていたところを緩めた結果、痛みが出てきたようだ。これは多分、そのうちに収まるだろうと期待している。

4) オープンガーデンへの期待と我が家のお茶会

今年の南城市春のオープンガーデンは、例年の4月ではなく、3月の18日から一週間だ。楽しみにしている。その最終日の26日には、我が家でお茶会をする（2日記事参照）。どんなユンタクがあるか、期待している。



2017年02月23日

ハンダマのゆで汁で炊いたご飯 ピンク(紫)

が美しい

庭畑にはハンダマがいくつか育っている。ハンダマの特徴は、葉の裏がきれいな紫色なこと。

かなりの量が収穫できるので、新聞記事にある料理法を見た恵美子がハンダマのゆで汁で炊いたご飯に挑戦。



ピンクというか、紫というか、美しいご飯がたきあがる。
ハンダマは、島野菜として、とても上等だ。それにしても、店頭にならぶほどになっていないのが残念。
虫もつかないし、栽培法は、挿し木だけで十分育つから楽だ。アタイグワー（家庭菜園）には、最高だ。

2017年02月15日

知のインプットとアウトプット 健康寿命 愉快的な70歳の日々6 最終回

12) 知のインプットとアウトプット

ここ10年余り、実にたくさんの本を読んだ。長年の数十冊ものツンドク状態を10年近く前に解消し、60代に入ってから、二か月に一回は書店に出かけて仕入れてきた本を読む生活を続けてきた。贈呈本も結構あるが、月に10冊余り読む生活を続けてきた。以前と異なるのは、慌ただしく読むのではなく、じっくり読むことが増えた。

結果として、知のインプットがかなり蓄積した。インプットすると、アウトプットしたくなる。ブログで書評やコメントを書くのもその一つだが、それも結構大変なので、扱う本を絞っている。

書いたものを、原稿化したくなる欲求が高まってくるこのごろだ。

ということで、70歳に近づくころ、インプット時間とアウトプット時間の比率を変えた。すると、頭を使い過ぎて、しばし前に書いた「歯の噛みしめ」過ぎ状態がでてくるほどになった。この比率の微調整をしながら進めるのが70代かなと思う。こんな調整をしながら、日々の知的活動をしているこのごろだ。

13) 健康寿命

最近、沖縄の男性の健康寿命が結構長いというニュースをどこかで見た。沖縄男性の平均寿命の上昇がストップし、日本の中での順位を下げていることが話題になるが、健康寿命ではトップクラスなのだ。

どうしてかは、よくわからないが、平均して74歳ほどのようだ。私の周辺を見回しても、そんな感じかなと思う。この年齢あたりになると、足腰がしっかりして、自分の足で歩けることが重要なようだ。そのことが難しくなって、高齢者施設での生活になることをめぐって、先日、医療福祉に携わる70代半ばの方と、話した。

こう書く私も、気をつけてはいるが、転ぶなどして、足腰が心配になることが多くなった。先日も、階段の踊り場で、下がり始める際、滑って尻もちをついてしまい、階段を数段滑った。古い靴下で滑りやすくなっていたのがきっかけだ。こんなことで尻もちをつくなどは、以前では考えられなかった。

その時は、一瞬ヒヤッとして、骨は大丈夫かと気になったが。なんということではなかった。数日間だけ、尻もちで打った箇所が痛っただけで済んだ。

こんなことがありながら、「人生は長いのか短いのか」と考えるようにもなるのが、この年の特徴だろう。最近の私は、「結構長いな」と感じる。いろいろとやりたいことは多いが、「頑張っ、自分がしなくてはならない」という程の事でもないな、誰かがやるだろうし、だれかがそれをしなくてはならないと思ひこむのは、私の思い込みだろう、とも思う。「人生の長さに合わせて、自分がしたいことをすればいいではないか」とも思うようになり始めている。

2017年02月04日

流動食予行演習 体力回復・強化から体力維持・低下への対応へ 愉快的な70歳の日々

5

10) 流動食予行演習

歯の噛みしめすぎで、3～4日間固形食を食べるのに苦労した。そこで、恵美子は、ご飯と副食をミキサーにかけて、液状のスープにしてくれた。

何年かたっていつか流動食になるかもしれないが、その時の予行演習だと考えた。どんなものが食べにくくて、どんな風にすれば食べられるか、ということ、この間いろいろと試みた。

こういう予行演習のようなことはよくある。

60代から、けつまづきがふえた。段差とかハードルめいたものとかを越える時、以前なら、ちょっと足を上げるだけで通った所で、失敗することが増えた。そこで、そうしたところで、いったん立ち止まって、脚を大きく上げて通るようにしてきた。それが自然にできるようになり、けつまづきはなくなった。

こんな予行練習も、そう思うと、結構楽しいものだ。

11) 体力回復・強化から体力維持・低下への対応へ

体力低下は、疲れからの回復日数にも表れる。卓球練習の後の疲れを例にとる。定例卓球練習は水曜日と木曜日の、各々100分程度だ。水木連続練習した後、何日で回復するか、ということ考えてみよう。60代に入るところは、翌金曜日だけでなく土曜日にも疲れが残る。場合によっては、日曜日の3日後まで、疲れが残る。

とはいうものの、60代前半のころは体力回復時期だったので、練習時間を増やしていった。60代に入るところは、週一回しか練習できなかったが、60代半ば近くからは週2回できるようになった。そして、金土曜日休めば、日曜日にある試合に出られるようにもなった。67～68歳には体力回復期が終わり、体力ピークになった。そのころから、徐々に練習時間を減らし始めた。翌金曜日の午前中には体力回復できる程度の練習時間にし始めた。

集落共同作業でも、1時間すると、体力限度を超えると、早引きするようになった。(数え70歳で出席義務は免除)。ウォーキングでも、60歳ころは3000歩で息切れ状態だが、その後5000歩でも大丈夫になり、ピークを迎え、今は徐々に減らし始めた。

ほかに、疲れが激しいのは大学授業だ。60名以上対象の2コマ連続授業では、翌日まで疲れが残った。

ということで、現在では、いかに疲れを回復させるかというより、翌日に疲れが残らない範囲で体を使うやりかたに変えてきている。また、風邪気味など体調を狂わせると、回復に数日かかることにならないようにしている。体調が狂いそうな予感がする時には、体力保存にギアチェンジするのだ。

年に2～3回、そんなことがあるが、発熱など大事に至らないように、いまのところ出来ている。

こんな体験は、退職後にスポーツなどを再開した人に多いのではないだろうか。再開後しばらくは、体力回復どころか体力強化の効果がぐんとあがり、うれしくてたまらなくなる。しかし、いずれやってくる体力維持・低下への対応を考えたほうがいいのは、60歳代後半のようだ。このギアチェンジをうまくやると、70代でも結構やっていけそうな

感じがする。

2017年01月27日

30年着続けている冬服の老前整理 スロー運転 愉快的な70歳の日々4

8) 老前整理の一つは衣服整理だ。

15～30年着続けている冬服が10着以上ある。同じように、15～25年着続けている春秋服が10着ほどある。13年前に、愛知県から沖縄に引っ越したから、冬服を着るのが四分の一程度に、春秋服が二分の一程度になったのが原因だ。このところの暖かさも一因だ。13年前以降、購入した冬服、春秋服は合わせて10着ぐらいか。その半分はスポーツ用だ。

悩み事というか、楽しみ事というか、どちらだか、私にもよくわからない。

私の処分基準は、2カ所以上傷がついたら、捨てるというものだ。残っているのは、しっかりした繊維で、しっかりした仕立てであるものがほとんどなので、なかなか捨てるに至らない。外出着だったものの大半は、普段着にしているが、着る機会が少ないから、残ってしまう。人にあげられるものはもうあげてしまった。

でも、思い出がたまっているものが多い。これらを着古し尽くすのに、春秋服は10年かかりそうだし、冬服は20年かかりそうだ。そんな風にゆっくりと処理していくのが、楽しい年頃になった。元気で着ることができれば、80～90歳までのつきあいだ。流行遅れなど気にしない私だから、していることかな。

夏服は、このようなことなく、需給バランスがとれているが、一つだけ30年の付き合いのものがある。かりゆしウェアのその前のバージョンの省エネ服で、かなりの値段のしっかりしたものだ。沖縄で買ったものだが、途中でお腹が出て、着られない時があったし、夏が短い愛知では着る機会が少なかった。最近、うんと着ているから、あと数年だろう。

9) スロー運転の楽しさ

免許を取って、44年余りになるが、なぜだか、違反でつかまったことはない。一因はスピードをださないからだろう。1970年代の58号線の恩納あたりを制限時速で走ると、2車線時代だったので、後ろに車が数珠つなぎになった。「大名行列」と称していた。

そんな運転を愛知でしたら、すぐに後ろの車にクラクションを鳴らされてしまう。だいたい15キロ以上オーバーで走らせるのが「常識」のようだった。やむなく、クラクションを鳴らされない程度で走った。その感覚で、戻った沖縄で走らせたなら、「早いね」といわれた。

その後、だんだん遅くなり、いまでは、制限時速内で走るのが普通だ。5～10キロほど遅い時も多い。高速道路では、70キロ平均で走る。だから、時速60キロぐらいの車を除けば、滅多に追い抜かなくなった。許田から南風原南まで、何台に追い抜かれるか大まかに数えたら、100～200台だった。私が追い抜いた車は1～2台だった。

ゆっくり走っている時、高齢者マークがあると、後ろから来た車が了解してくれるので助かる。高速では、すぐに追い抜いてくれる。

それにしても、年々少しずつ遅くなっていることは確かだ。

おかげで、リッターあたりの走行距離が、クーラーを使う時期で29キロぐらい、使わない時期は31キロぐらいだ。驚かれる。

2017年01月24日

洗濯・入浴用海水汲み カニステル収穫



このところの話題二つ

海水汲み 近くの奥武島海岸にて

海水は、洗濯用と入浴用だ。現在の我が家の洗濯は、水質を変える丸いボールと少量の海水を使ってしている。洗剤を使っている時と汚れの落ち具合に変わりはない。このあたりは、恵美子の研究のおかげだ。私はまったくわからない。



入浴には、少量の海水とアロマエッセンス2、3滴を入れている。このあたりも恵美子の世界だ。時にティートリーの枝葉を煮出していれることもある。これは私の好み。

ということで、一か月に一度ぐらい海水汲みに出かける。先日は私も一緒にでかける。次の写真は、海水汲みの場所から、摩文仁方向の夕焼け

カニステルの収穫。

8、9年前に植えた苗木が、昨年一個実をつけ、今年は10個つけた。もうしばらくすると、食べられる。枇杷もたくさん着果している。3～4月に収穫だ。

2017年01月14日

体力低下への対応 器具活用修理は人に頼む 愉快的な70歳の日々3

こんなことを書き始めると、思い当たることが次々と出てくる。だから、ちょっとした連載になりそうな気配だ。

6) 体力のゆっくりとした低下に気付いて、対応していく。

50代半ばの体調不良時の体力は、「最低」だった。好きな散歩もゆっくりと休み休み1～2キロ程度だった。それ以降、いろいろとやってきて、体調回復だけでなく体力も右肩上がりでも上昇してきた。そのピークは、3年ほど前のようだ。かなりの速度で歩き、4キロぐらいはなんともない状態になった。

卓球の練習も、週一回する程度だったが、今では週2回になり、試合で一日25セットもすることもあるほどに至った。

坂をのぼりつめた3年ぐらい前から、老化を実感するようになり、右肩下がりへとギアを入れ替えた。そこで無理をすると、事故につながりやすいし、老化をなんとか克服しようとすればするほど、「できなくなった」時のダメージは大きく、かえってマイナスだろうと思うからだ。

ということで、少しずつ、一年つき、6～7%ぐらいの比率で運動量や仕事量を減らしていくようになった。ここ10年余り、運動時間管理を、歩数と卓球練習分数（1分あたり100歩に換算）の記録をとっているが、それに反映させている。たとえば、去年は、週当たり5200歩（52分）だったが、今年は4900歩（49分）にすると行った具合だ。

余談だが、練習時間は短くしたが、ワザの工夫に力を入れているので、卓球そのものは、まだ上達中だ。

7) 機械・器具への興味が薄れ、活用・修理は人頼み

10年ぐらい前までは、家電製品の活用修理は自信がある方だったと思う。だが、急速に関心が薄れ、必要な活用修理は人頼みにしている。対照的に、恵美子が頑張っている。私が動かないものだから、自分でやっている。DVDが上手いかないので、電気店で器具を買ってきて、活用している。

今の私は「うまくいかない時、わからない時は、教えてもらう」でやっている。電気店でも顔なじみの店員をつくって、任せて購入している。

だから、いつのまにか、器具のマニュアルを読まなくなった。

12月にも、家廻りの器具の取り換え修理をしてもらった。ボイラー修理専門で大活躍で、ティーダブログでも活躍している加藤さんが、我が家の専門家だ。屋外灯の光センサーを代えてもらった。ついでに、蛍光灯ランプのとりかえで、特殊なために難渋していたものも、見事に解決してもらった。

ついでに記すと、先日も、眠っていた通帳などを解約処理をしていたのだが、書類をどさっと持参して、必要なものをみてもらって、手続した。そうすると、とても親切に対応してくださる。もしかすると、「老人の特権」かもしれない。

2017年01月11日

「観葉植物園」？つくり ウチナーグチが2～3割聞ける？ このごろの私

このごろの庭畑仕事の一つは、観葉植物園？つくりだ。すでに、中庭が観葉植物園？化しているので、それを追って第二号を作るというわけだ。

敷地の西南端箇所は、上を樹木が覆っているの、日差しが悪い。ここ2～3年は堆肥作り場所としていた。その場所だけでなく、これまでクミスクチンなどを植えていたところも、日陰化して育たなくなっているところが広がっている。畑の半分がそうなりそうな気配さえある。そこで、菜園は3階ベランダに移動したわけだ。

こうして広がった日陰箇所をどうしようか、と考えあぐねた結果、観葉植物園？を思いついたわけだ。

すでに植えてある、コーヒーの木やクチナシなどは日陰でも育つので、そのままにしている。そして、自然に生えてきたオオタニワタリやサンニンなどは、そのまま生かす。そして、購入してきた10余りの苗を植えてみた。どれが育ちやすいか確かめ、育ちやすいものを殖やそうという魂胆だ。加えて、すでに我が家で育っていて、日陰にも耐えそうなものをいくつか挿し木で殖やし始めた。

多分、3年ぐらいは試行錯誤だろう。3年後の2020年には見られるものにしたいと思う。

観葉植物園？つくりと並行して、剪定した小枝と木材チップを、これまで大きな石とモルタルでつくった通路のうえにかぶせる作業もしている。硬い通路ではなく、ふわっとして、自然感がでてくるものにしたいからだ。もっとも現在は試行中だ。これも完成には半年以上かかりそうだ。

先日、海岸散歩していたら、打ち上げられた海草を集めている人がいた。声をかけた。「我が家も、妻が集めて畑に置くことがあるのですが、どのようにお使いなさるのですか」

すると、90%以上ウチナーグチで返ってきた。これまで、ウチナーグチで話されると、話題や文脈さえつかめずにいたが、この方のウチナーグチは、なぜか分かりやすい。

わからない箇所はたくさんあるが、話の流れについて行けた。画期的だ。時々、私が言葉はさむものだから、相手の方は、「わかっているのだろう」と思っただけで、最後までウチナーグチだった。10分近く話した。

シーカーサーの根元に置くと、甘い果実ができるそうだ。山原にも持っていくつもりだ、という話。



私は、聴くことに精一杯だったが、2～3割聴き取れたことがとてもうれしかった。

2017年01月06日

「ハンカチ・はなかみ」をズボンにいれたまま洗濯 「若く見える」がよいかどうか 愉

快な70歳の日々2

4) 様々な人生を発見・再確認する正月

出会いが多いのが正月だ。来客、年賀状、会話から得る他の人の話題……。結婚・出産・長寿・大仕事といった話から、事故・逝去・離別といった話まで、いろいろな幸せの形、不運の形が煮詰まって出会う日々だ。

そんな話を、若い時と比べると落ち着いて受け止められる年頃になっている。びっくりするような話もあるが、うろたえるわけではない。これまでの実に多様な人生との出会い体験がもとになっているためだろうか。

5) ズボンのハンカチとポケットティッシュを取り忘れて、洗濯に出すことが常習化

クリーニングに出す時に、チェックしないで出すものだから、クリーニング店に迷惑をかけた回数は、数回以上だ。今度は自宅での洗濯機でもやってしまった。

私が小学生のころ、今週の目標として教室の黒板によく書かれていたものの一つに、「ハンカチ・はなかみをもって来る」があった。今の時代はどうなったのだろうか。その時にしつけられたものだから、いまでも、外出着にしる普段着にしる、ズボンの後ろポケットに、「ハンカチ・はなかみ」をいれることが癖になっている。もっとも、それを使うのは、月に1～2回である。

当時は、「鼻たれ小僧」といって、鼻から水漬(みずばな)を出すのは、田舎ではごく当たり前のことだった。出たら、はなかみでかむように指導されるのだが、実際は、鼻をすするか、袖口で拭くのが、これまたごく普通だった。「ハンカチ・はなかみをもって来る」は、そんな時代の名残の習慣といえるかもしれない。いまの小学生はどうしているのだろうか。

こんな失敗を繰り返すのが、70歳の私の生活にふさわしいかもしれない。

6) 外出先で初対面の人との会話で多いパターン

「70歳ですからね」というと、「元気がいいですね。顔も体も70歳には見えない。もっと若く見えますね。」こんな対応がごく普通にある。「若く見える」というと、喜んでもらえると思っている人が普通だからだろう。

これに対して、私は時々、「幼く見えるんですね。もっと年長に見られる方が、熟して見られて、いいなあと思うんです。若く見られるという事は、未熟で落ち着きがないように見えると思ってしまうのです」と話す。すると、相手は対応に困ってしまう。

先日、体育館でのある人との会話。「元気ですね。私の周りでは、70歳になると、家から出たがらない人が多いんですよ」とのこと。

でも、私の近所には、男女合わせて7、8名の70代がいるが、畑・ゴルフ・仕事・散策・ゆんたくにと、出かける人ばかりだ。

2017年01月02日

空気清浄器 犬猫を飼うことを迷う 年末年始の私



年末年始の話いくつか

1) 年末に空気清浄器を買った。PM2.5など空気の汚れに弱い私の呼吸器のためだ。よごれ・PM2.5・においの程度で、赤・黄・緑の信号が出て、赤や黄がでると、元気よく運転する。普段は緑で静かだが。

年末にスーパーにいったら、顔にスプレーをすると、PM2.5をカットできる商品を見つけて買う。この効果は、買ったばかりで、よくわからないが、よさそうな感じ。

12月は、寒くなってきたことと、PM2.5のおかげで、私の呼吸器は不満だらけだ。寒さに慣れたことと、空気清浄機やマスクなどの対処策でPM2.5をかなり避けられるようになったこともあって、年末には、呼吸器も調子がよくなってきた。

2) 年末年始も、来客の時以外は、いつも通り、原稿執筆・読書・ブログ書きなどで5～6時間、畑庭作業1時間半、散策・卓球練習で、一日平均1時間余り、という生活を送る。

3) 家事もいつもの通り。

変化のない年末年始ということになる。毎年作っている煮付け料理は、ついにやめた。年越しそばと雑煮は作った。通常は、毎日の朝食と水曜の夕食が、私の出番

4) 31日は、近くのユインチホテルの温泉。12月は3度出かけた。まさにぬちぐすい。

5) 猫か犬を飼おうかな、と検討を始める。

そんなことを思っていると、31日の海岸散策で、子猫が、鳴きながら近寄ってくる。撫でてやると喜ぶ。歩き出すと、ついてくる。犬が来たので、草むらに逃げ込むこと二度。そのたびに様子を見て、撫でてやる。途中で、もし家までついてくるなら、飼ってやろうかな、と思う。まだ捨てられたばかりの感じだ。

途中の農道あたりに来ると、私との距離が出てくる。その時、人間に追っかけられて、また逃げる。そして、とうとう私についてこなくなる。猫も迷っているが、私も迷っている。さて、どうなることやら。

猫にしても犬にしても、飼いたいのが、世話がなかなか大変だから、迷うのだ。猫の本をよんだら、ますます大変だなと思う。結論は、「しばし待て」、または「あきらめよ」になりそうな感じだ。

2016年12月29日

忘れ事 「おじいちゃん」とよばれても自分の事と気づかない 愉快的70歳の日々1

このところ、愉快的な物語が続出。私個人のことだが、これから70歳を迎える人には参考になるかもしれない。愉快的な話が出た時に綴ろう。

1) 連続忘れもの

プリンターのインクの購入。インク番号を忘れたので、店員に調べてもらうが、結果、前の機種のものであった。

家に帰って気が付く。店に出直す。今度は、カードを忘れる。カードで購入したので、カードなしでは交換手続きができない。同じ日に3度も出かける気力を喪失。

日を改めて出かけ、無事交換できた。

2) 「おじいちゃん」とよばれても自分の事と気づかない

食堂で、隣の席に、親子孫三代家族が着席。孫が、子ども用の椅子を希望。祖母が、「おじいちゃんが通れないでしょう」と。恵美子が「大丈夫ですよ」と返す。なぜ、恵美子がそれをいうのか不思議に思う。

私は、「隣におじいちゃんもこられるのか、賑わっていいなあ」と思う。

食事がすすんでも、隣のおじいちゃんは現れない。そこで、さきほどの会話のおじいちゃんは、私のことだと気づく。

我が家では、孫は「おじいちゃん」ではなく「誠」と呼んでいるので、私には「おじいちゃん」のリアルな感覚が育っていないのだろう。

3) 外出先で、出会った初対面の人にも声をかける。

店員にも話しかけることが多い。

郵便局で、応対した女性局員の制服、とくにベストがかっこいいと思う。そこで、「男女兼用で、いいですね」と話すと、「男性はベストではなくてスーツです」と。「最近ですか」「もう7年ぐらいになります」

私の的外れぶりが目立つ。

スーパーのレジでも、無言でやりとりするのは、寂しい感じがするので、よく話しかける私。